甲府市文化財調査報告 29

甲府市内遺跡II

―平成６年度試掘調査報告書―

2005

甲府市教育委員会

序

甲府市は中世の武田氏館を中心とした城下町と、近世の甲府城を中心とした城下町とが連結したことをもとに発展した都市です。そのため中世から近世にかけての文化財も多く残されております。また市街地には中近世の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）も多く発見されております。一方郊外には、古墳時代から平安時代にかけての集落跡も多数展開していたことがこれまでの調査により確認されております。

埋蔵文化財も一般の文化財と同様に保護・保存されていくことが最良の方策でありますが、発掘というメスが入れられなければその性格・内容等が不明であるため活用しづらいものです。反面、発掘自身が埋蔵文化財を解体・破壊しつつ行われる作業であり、やり直しや再検証することが不可能となるような諸刃の剣の性格を有するため、試掘・確認調査は最小限の範囲で慎重に行う必要があります。

各種開発行為が計画される中には埋蔵文化財包蔵地も含まれています。その開発行為が埋蔵文化財に対してどのような影響を与えるかを判断するため、試掘・確認調査を実施しております。

今回の報告書は、平成６年度中に実施した調査を本書に掲載いたしました。一つひとつは必要最小限にとどめたため、必ずしも大きな成果が上げられたものではありません。しかし、その調査成果を蓄積することにより、甲府市の歴史・文化を解明することにつながるものと考えております。

試掘調査を実施するにあたりまして、事業者・土地所有者の方々には文化財保護法の主旨をご理解いただき、並々ならぬご協力を賜りまして深く感謝いたします。本書が歴史研究の発展の一助となり、また市民の皆様が郷土史を探求する支えとしてご活用いただけましたら、誠に幸いです。

平成17年３月

甲府市教育委員会

教育長　角　田　智　重

例　　言

1．本書は、平成６年度に実施した甲府市内における各種開発行為に伴う試掘調査の報告書である。

2．本書に収録した調査は、文化庁・県教育委員会の指導のもと、甲府市教育委員会が主体となって実施した。調査経費は国・県の補助金の交付を受けた。

3．調査は、信藤祐仁・伊藤正幸・平塚洋一・兒玉好美（元教育委員会文化財主事）が担当した。

4．本書の執筆は信藤祐仁・伊藤正幸・平塚洋一・鈴木由香が、編集は中込　功（文化芸術課長）を編集責任者とし、平塚洋一・鈴木由香が行った。

5．本書の挿図は、栗田かず子・鈴木由香が作成した。

6．本書に係わる出土遺物及び記録図面・写真等は甲府市教育委員会で保管している。

7．発掘調査にあたり、土地所有者の御協力を賜った。

8．調査参加者

秋山幹夫	浅川道恵	浅川本雪	雨宮英郎	池谷富士子	一瀬祥子
伊藤　博	大竹祐輝	岡　悦子	小沢菊太郎	梶原　薫	金井いく代
岸本美苗	倉田勝子	栗田宏一	小宮通子	三枝袈裟男	坂本しのぶ
佐藤眞佐美	佐田金子	寿盛正雄	高谷澄矢	武井美知子	戸沢千代子
中村　操	根岸利昭	花曲敬子	平沢則子	深沢久子	保坂邦雄
室賀義幸	望月利子	山崎悦子	山崎さかゑ	山村正之	吉原恒夫
吉原裕子	渡辺百合子				

（敬称略）

凡　　例

1．遺構・遺物番号は、各調査地区単位で通し番号とした。

2．遺構名は、各遺構の性格や形状に応じて調査当時、各担当者が名称を付した。今後、新たな調査等により全体の把握がなされた場合、変更が生じる可能性がある。

3．全体図・遺構・遺物実測図の縮尺は、図中に表示したスケールのとおりである。

4．調査区位置図には、甲府市都市計画図（1／2500）を使用した。

5．遺物観察表中の色調は「標準土色帖」（農林水産省農林水産技術会議事務局監修 1997後期）に基づいて記載した。

6．図中のスクリーントーン指示は、個々の図面上に表示している。

目　　次

序
例　　言
凡　　例
目　　次

市内遺跡試掘調査

調査位置図……1
調査一覧表……2
周辺の遺跡分布図……3～10

1　桜井畑遺跡……11
2　緑が丘二丁目遺跡（第１次）……15
3　緑が丘二丁目遺跡（第２次）……16
4　朝気遺跡（第９次）……18
5　塚腰遺跡……19
6　本郷Ｃ遺跡……21
7　緑が丘一丁目遺跡（第３次）……22
8　金塚西遺跡……25
9　大坪遺跡（第５次）……29
10　緑が丘二丁目遺跡（第３次）……34
11　宮の脇Ａ遺跡……36
12　朝気遺跡（第10次）……37
13　前田遺跡……38
14　緑が丘二丁目遺跡（第４次）……39
15　北田遺跡……42
16　緑が丘二丁目遺跡（第５次）……43
17　緑が丘二丁目遺跡（第６次）……45
18　加藤光泰の墓……47
19　緑が丘二丁目遺跡（第７次）……51
20　朝気遺跡（第11次）……56
21　大坪遺跡（第６次）……57
22　油田遺跡……57
23　大坪遺跡（第７次）……58
24　緑が丘一丁目遺跡（第４次）……66

写真図版

図版１　桜井畑遺跡……67
図版２　緑が丘二丁目遺跡（第２次）、塚腰遺跡……68
図版３　本郷Ｃ遺跡、緑が丘一丁目遺跡（第３次）……69
図版４　金塚西遺跡……70
図版５　大坪遺跡（第５次）(1)……71
図版６　大坪遺跡（第５次）(2)……72
図版７　大坪遺跡（第５次）(3)、緑が丘二丁目遺跡（第３次）、前田遺跡……73
図版８　緑が丘二丁目遺跡（第４次）、緑が丘二丁目遺跡（第５次）……74
図版９　緑が丘二丁目遺跡（第６次）……75
図版10　加藤光泰の墓(1)……76
図版11　加藤光泰の墓(2)、緑が丘二丁目遺跡（第７次）(1)……77
図版12　緑が丘二丁目遺跡（第７次）(2)……78
図版13　緑が丘二丁目遺跡（第７次）(3)、大坪遺跡（第７次）(1)……79
図版14　大坪遺跡（第７次）(2)……80

2
17
14
19
3
10
16
18
11
9
21
23
15
1
6
20
12
5
22
13
甲府市
千代田湖
上善那町
春日
横根町
大蔵経寺山
松栄町
新田町
新居
上石田
下石田
国母
西条新田
西条
昭和町
飯鳴
河原
成島
布施
富士見
三珠村
上河東
小瀬町
下鍛冶屋町
落合町
今井町
東下条町
小曲町
文珠
浜上
善光寺
中村
下区
増利
水井
大坪
白井
増田
矢崎
小石和
新浜
西油川
砂原
東高橋
今井
広瀬
西高橋
七沢
相川
阿原町
向町
国玉
里吉
中道
上条
甲府南部工業団地
●番号は調査一覧表と対応
0
2000m

図1　調 査 位 置 図

平成６年度　市内遺跡調査一覧表

番号	遺　跡　名	所　在　地	調査原因	調査面積	調査期間	遺　構	遺　物
1	桜井畑遺跡	川田町495-2	個人住宅建設	26m²	5/23～6/15	土坑、溝跡	甕、壺、高坏、手捏ね土器、灰釉陶器
2	緑が丘二丁目遺跡（第１次）	和田町寺の前2431-1	宅地造成	6m²	6/23	なし	土師器小片
3	緑が丘二丁目遺跡（第２次）	緑が丘二丁目791-2他	集合住宅建設	25.2m²	6/24～30	なし	縄文土器、土師器甕、皿、かわらけ
4	朝気遺跡（第９次）	朝気三丁目18	個人住宅建設	12m²	7/5～8	なし	土師器小片
5	塚腰遺跡	国玉町899	市道建設	325m²	8/25～9/28	なし	甕、台付甕、高坏、鍋、石斧
6	本郷Ｃ遺跡	善光寺一丁目1909-1	集合住宅建設	12m²	9/6～9	なし	甕、碗または皿、火鉢
7	緑が丘一丁目遺跡（第３次）	緑が丘二丁目135-5	個人住宅建設	16m²	9/28～10/12	土坑、溝跡	台付甕、坏、高坏
8	金塚西遺跡	千塚三丁目2237他	公園建設	48m²	9/13～10/14	なし	壺、台付甕、坏、須恵器、青磁
9	大坪遺跡（第５次）	横根町608	集合住宅建設	16m²	9/30～10/12	溝跡	甕、台付甕、坏、蓋、銭貨
10	緑が丘二丁目遺跡（第３次）	緑が丘二丁目893-1他	個人住宅建設	8m²	10/18～24	土坑墓	甕、台付甕、高坏
11	宮の脇Ａ遺跡	善光寺二丁目2739-1	物置・車庫建設	4m²	10/19	なし	なし
12	朝気遺跡（第10次）	朝気三丁目71-1～4他	宅地造成	12m²	11/1～7	なし	なし
13	前田遺跡	池田二丁目285-1他	個人住宅建設	8m²	11/7～10	なし	甕、蓋、砥石
14	緑が丘二丁目遺跡（第４次）	和田町709他	宅地造成	20m²	11/8～15	なし	壺、甕、台付甕、碗、緑釉陶器
15	北田遺跡	川田町字亀田114-3、9	個人住宅建設	8m²	11/11～14	なし	なし
16	緑が丘二丁目遺跡（第５次）	緑が丘二丁目897-1～3	宅地造成	12m²	11/16～25	なし	深鉢、甕、須恵器
17	緑が丘二丁目遺跡（第６次）	和田町字水口728-1	集合住宅建設	16m²	11/21～12/8	なし	坏、高坏、緑釉・灰釉陶器、須恵器
18	加藤光泰の墓	善光寺三丁目36-1	墓域整備	4m²	11/21～12/9	なし	かわらけ、陶器、染付、銭貨
19	緑が丘二丁目遺跡（第７次）	緑が丘二丁目2393-1他	宅地造成	180m²	12/6～1/10	焼土	壺、台付甕、坏、緑釉陶器
20	朝気遺跡（第11次）	朝気三丁目81	個人住宅建設	4m²	12/12～16	なし	甕、坏
21	大坪遺跡（第６次）	横根町字左右手305	個人住宅建設	2.76m²	12/19～21	なし	土師器小片
22	油田遺跡	蓬沢一丁目123-1	個人住宅建設	90m²	2/8	なし	なし
23	大坪遺跡（第７次）	桜井町角田600他	埋蔵文化財確認	300m²	3/13～27	竪穴住居跡、溝跡	縄文土器・壺・台付甕・高坏・坩・丸底鉢
24	緑が丘一丁目遺跡（第４次）	緑が丘二丁目135-3、4	集合住宅建設	4m²	3/22～31	なし	土師器小片

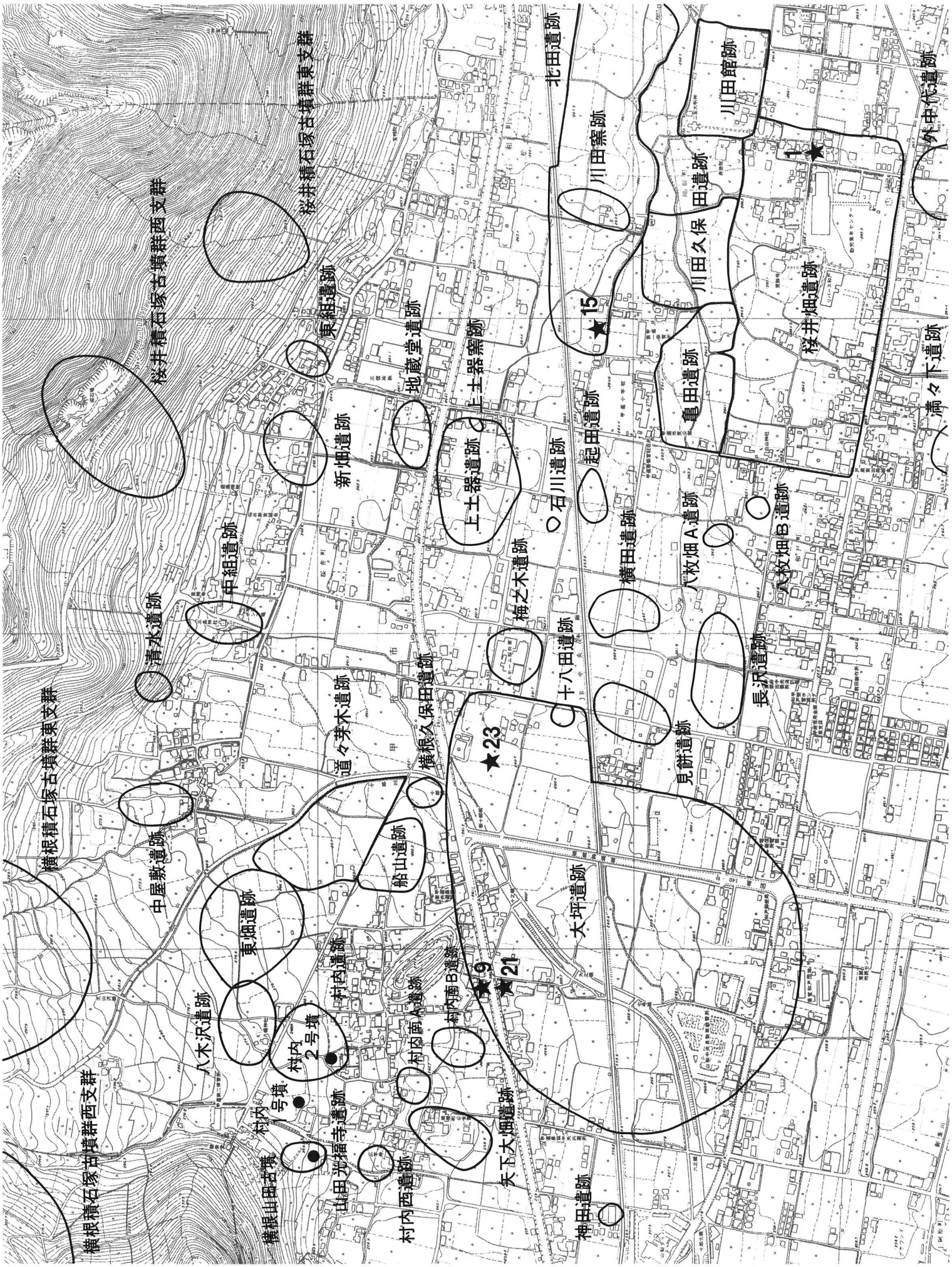


図２　周辺の遺跡分布図（★は本報告書掲載の調査地点）

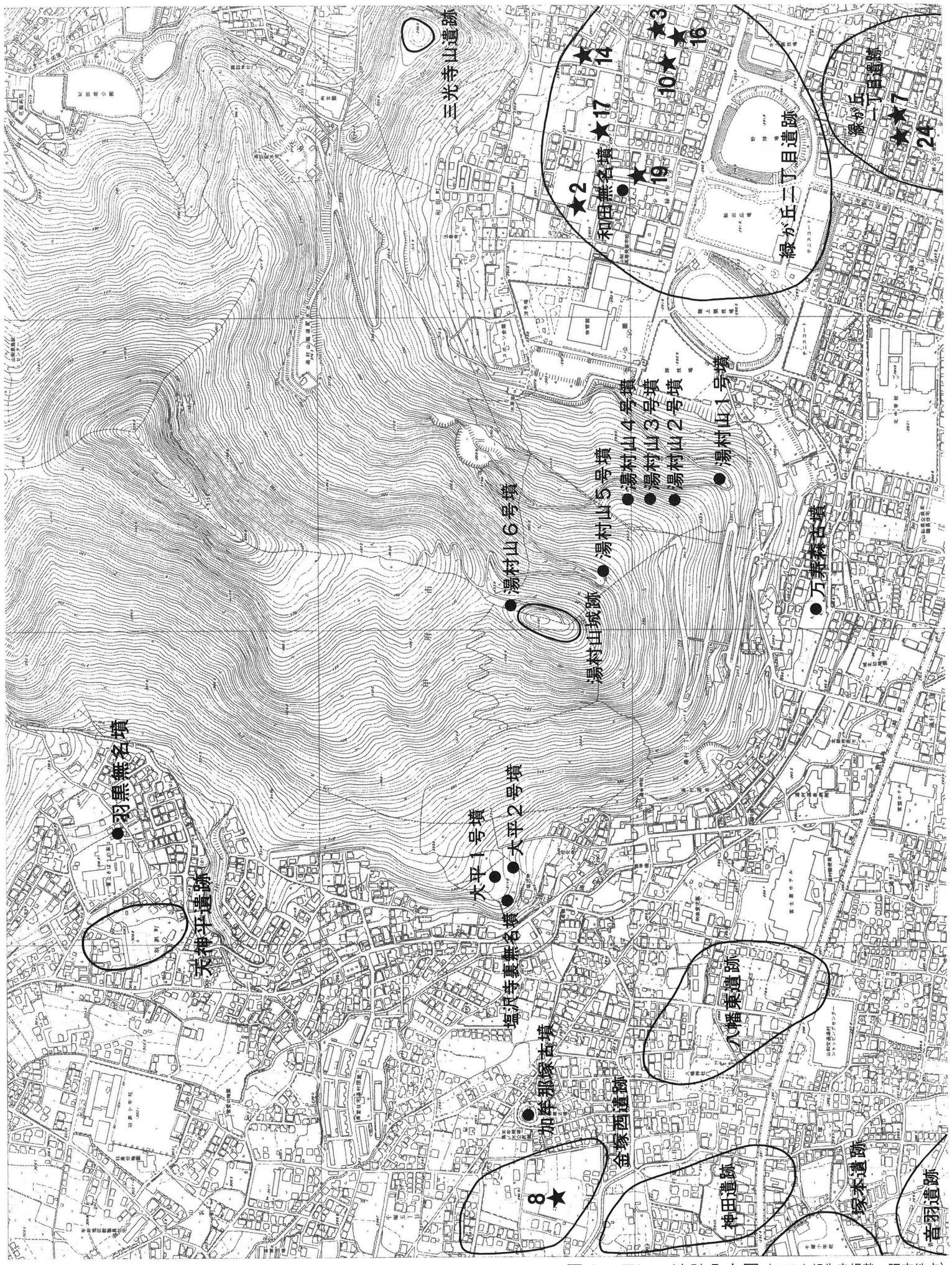


図３　周辺の遺跡分布図（★は本報告書掲載の調査地点）

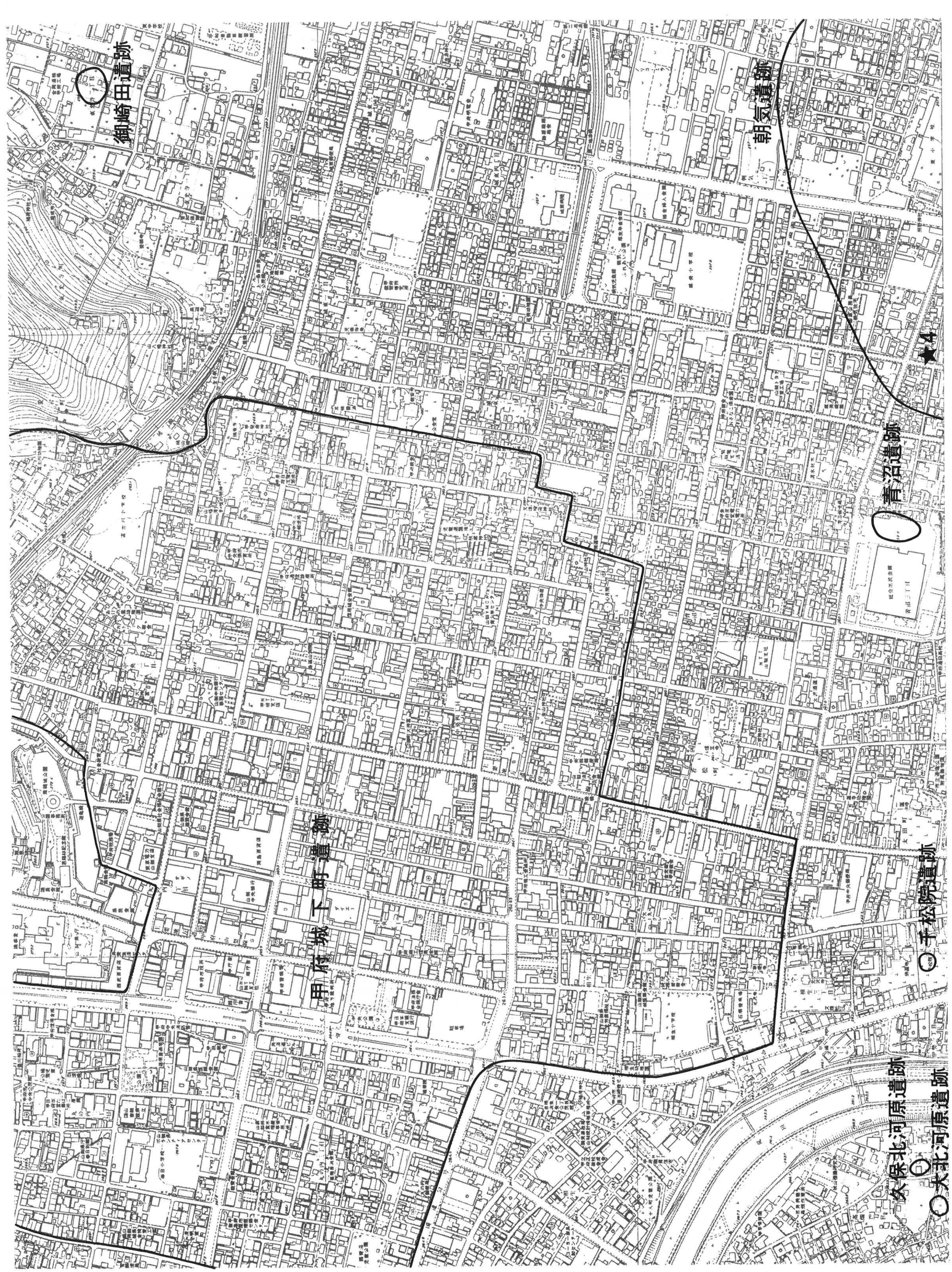


図４　周辺の遺跡分布図（★は本報告書掲載の調査地点）

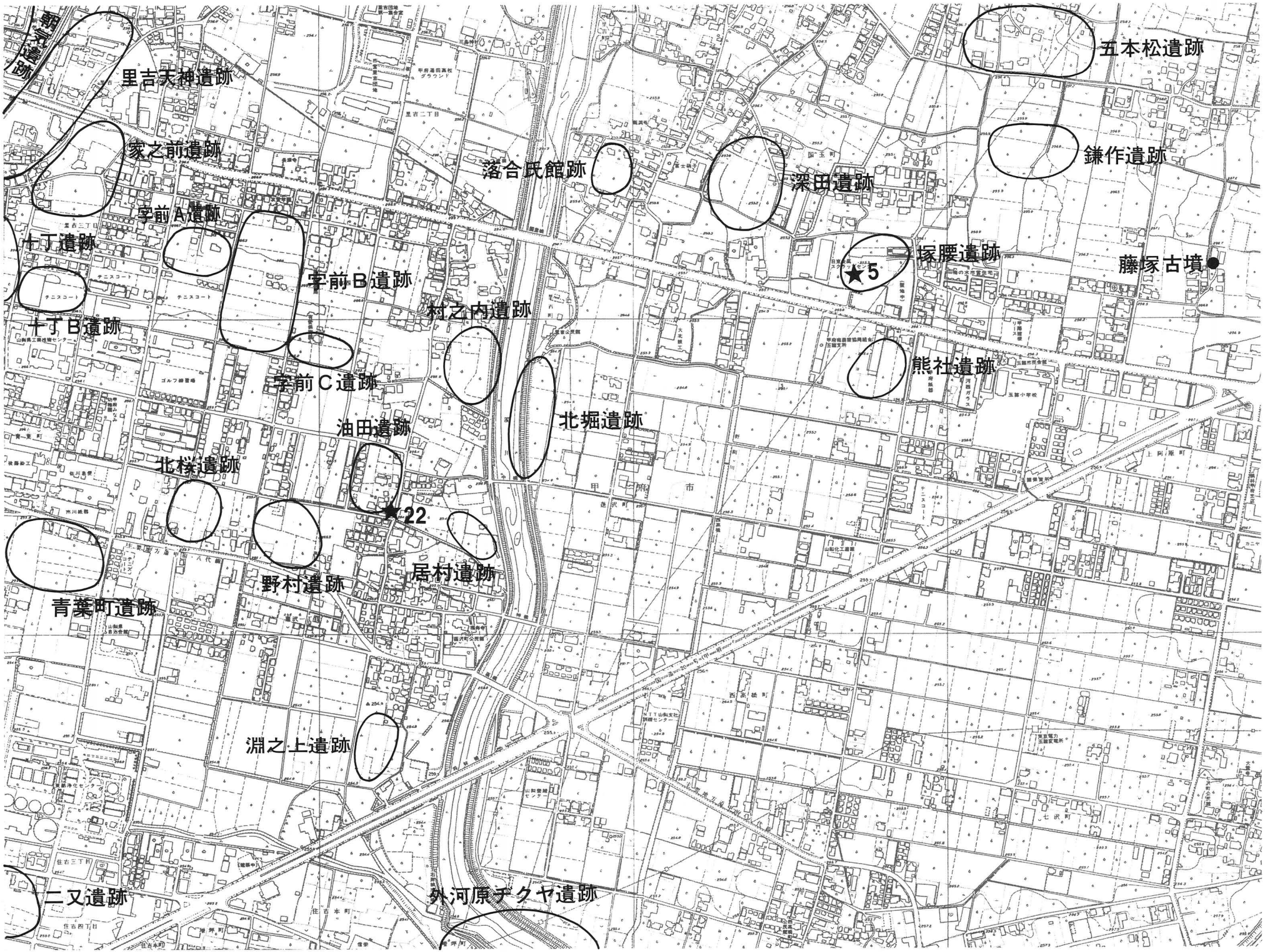


図5　周辺の遺跡分布図（★は本報告書掲載の調査地点）

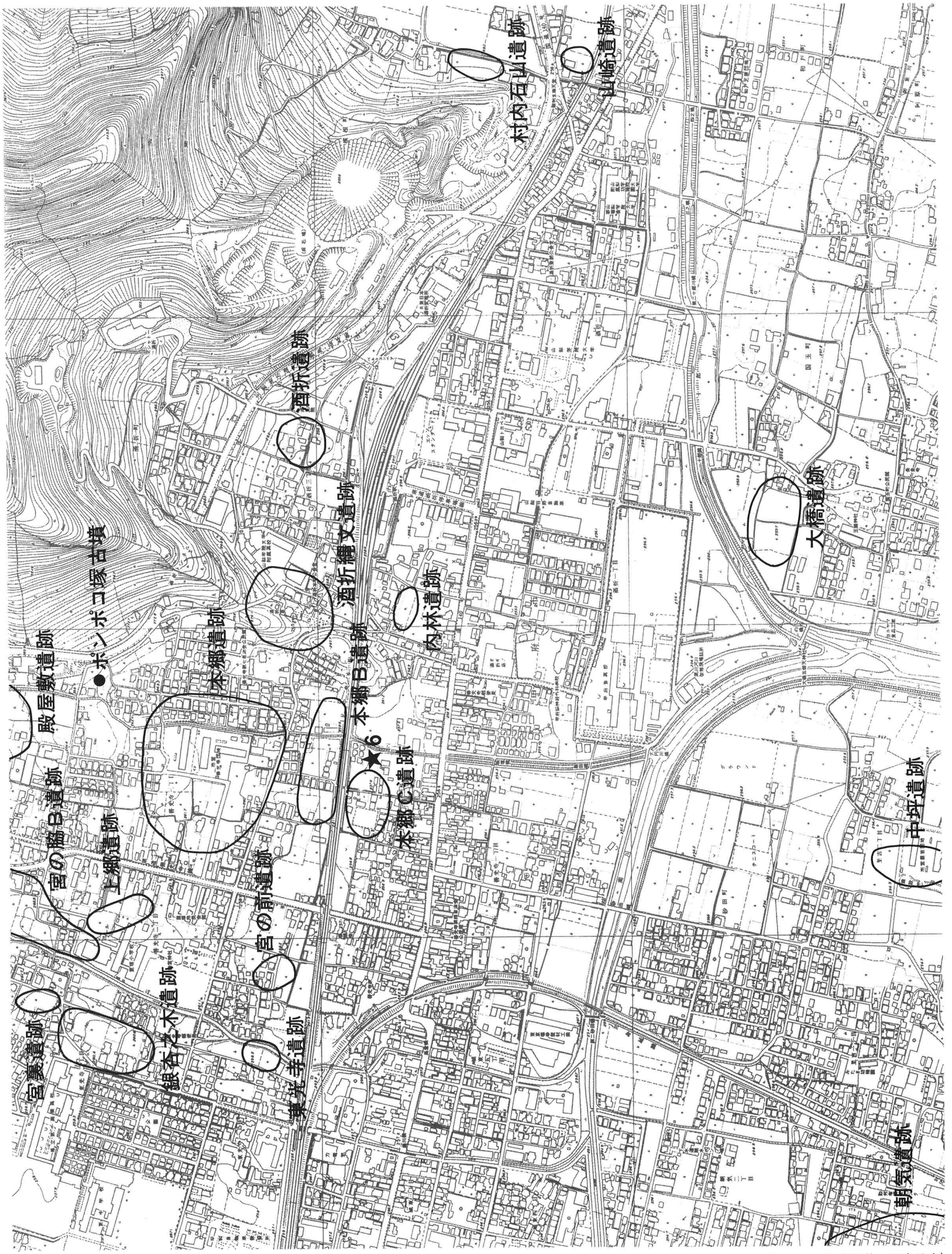


図６　周辺の遺跡分布図（★は本報告書掲載の調査地点）

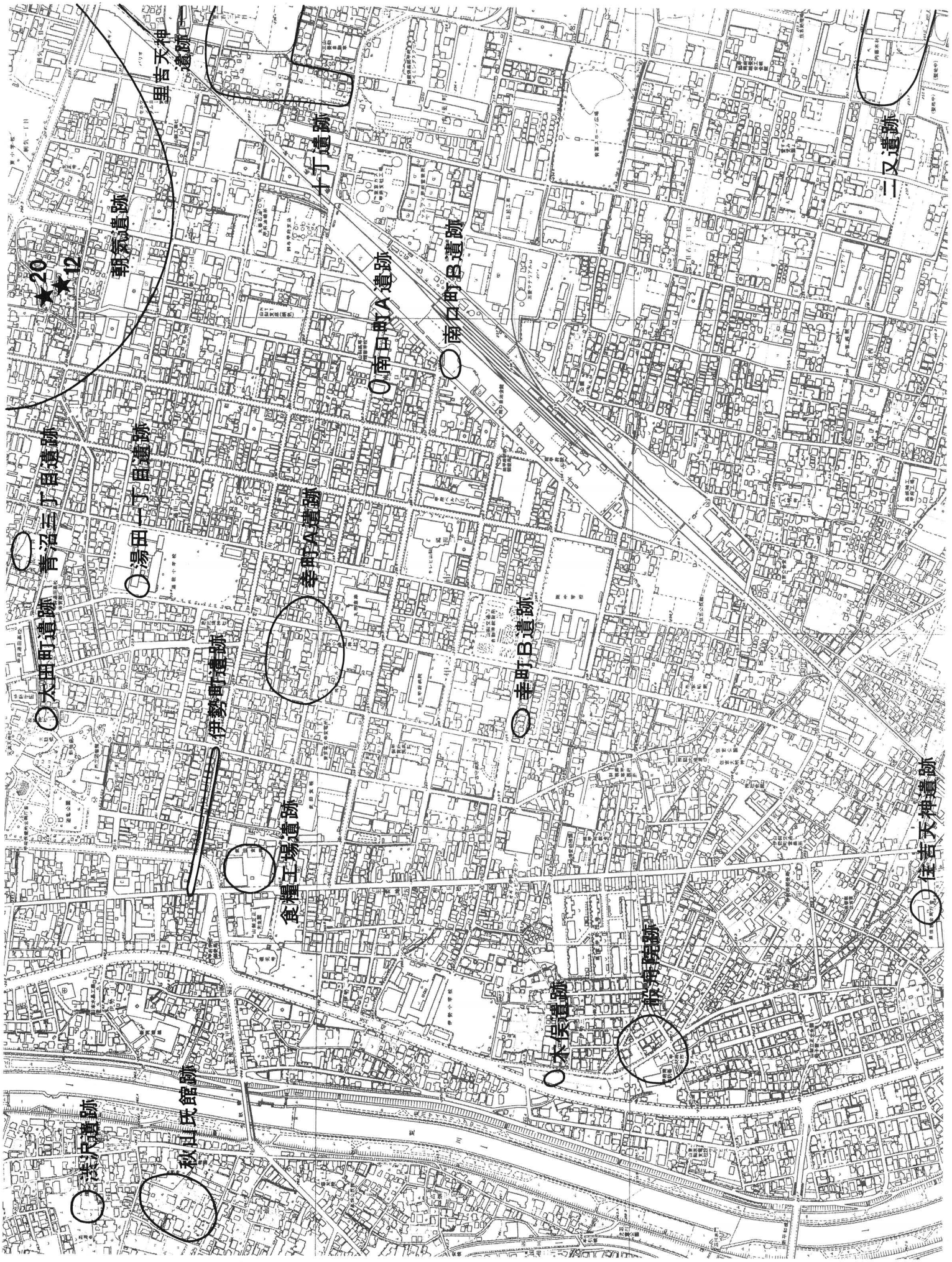


図７　周辺の遺跡分布図（★は本報告書掲載の調査地点）

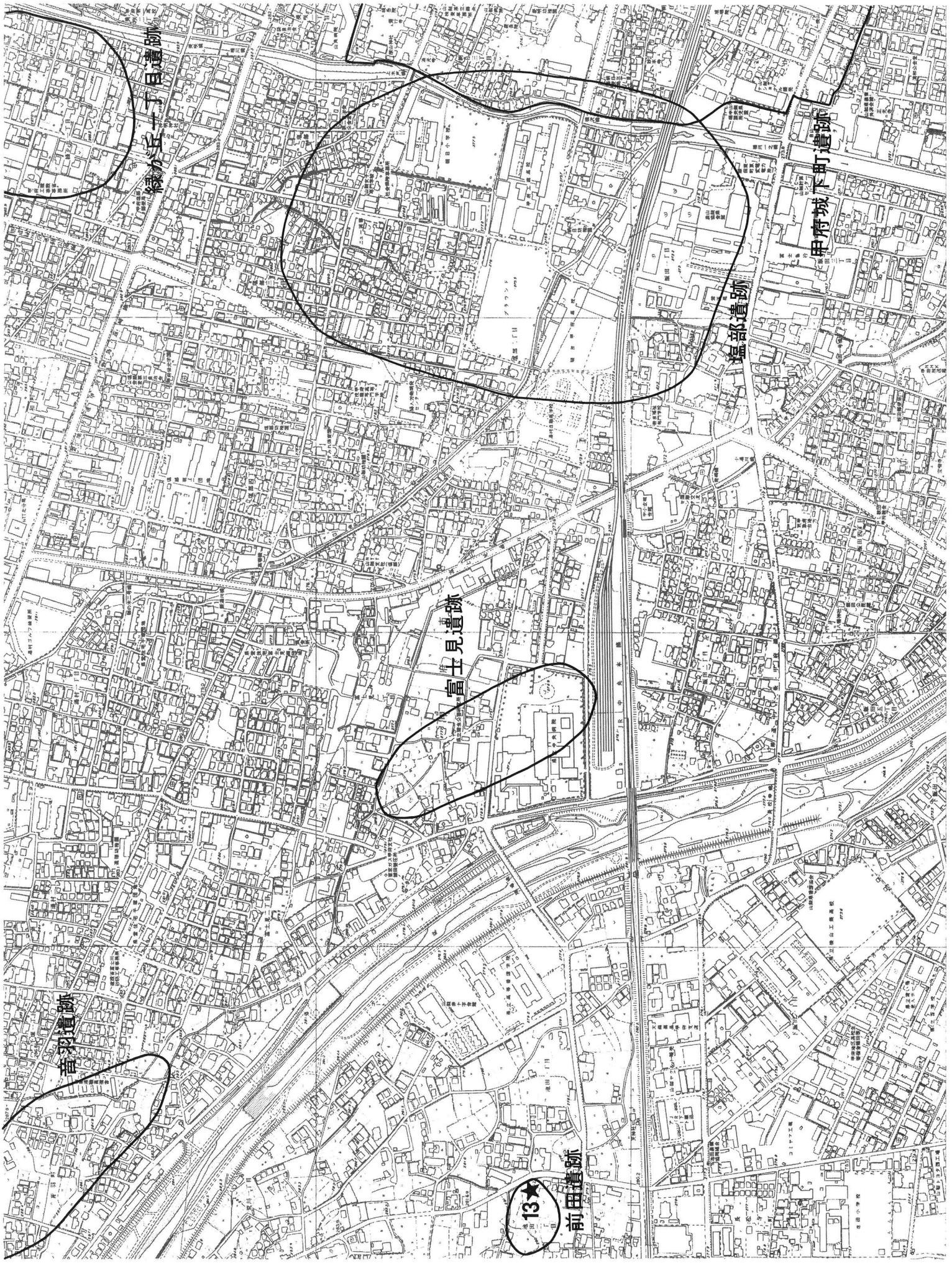


図８　周辺の遺跡分布図（★は本報告書掲載の調査地点）

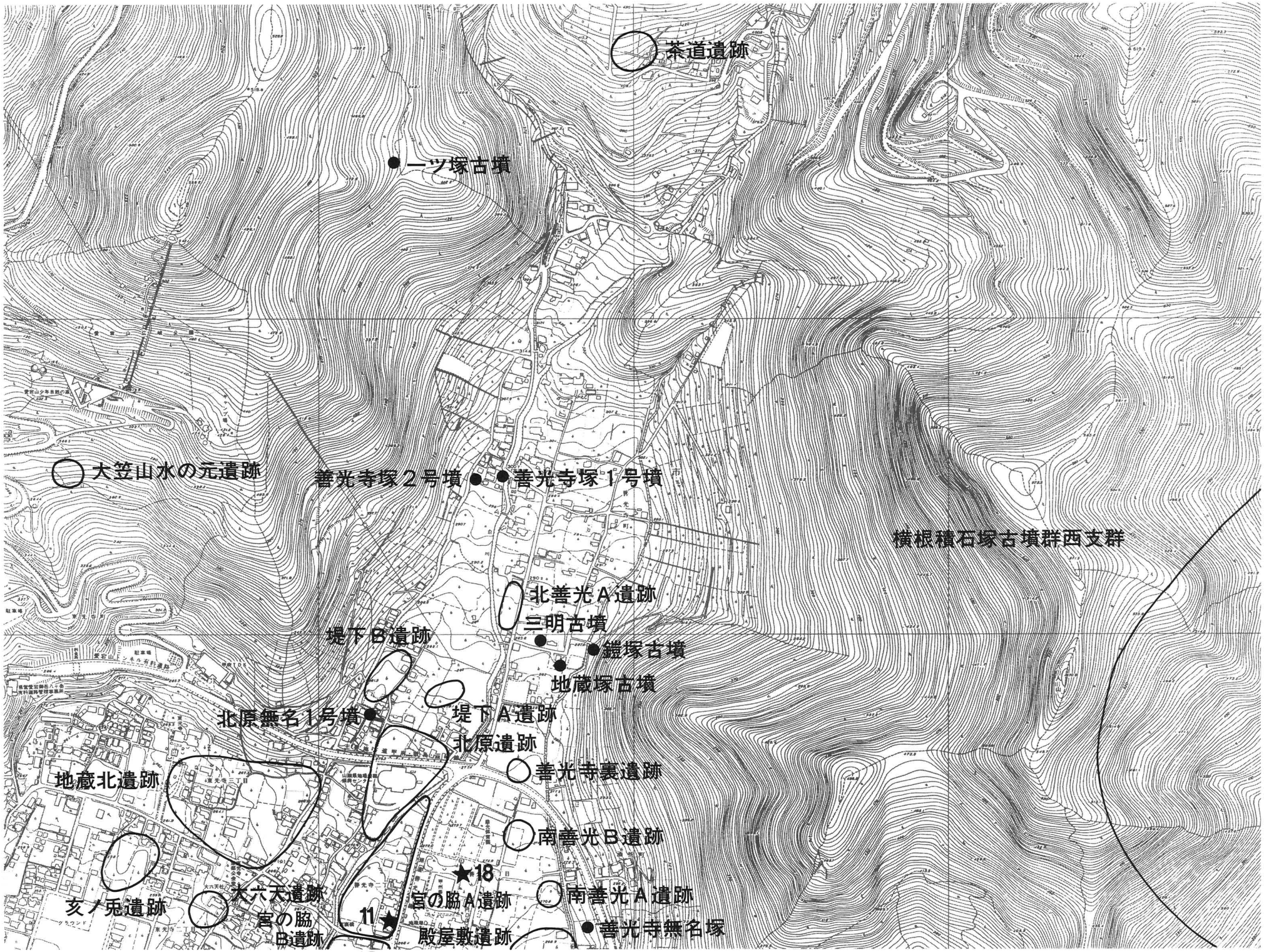


図９　周辺の遺跡分布図（★は本報告書掲載の調査地点）

1 桜井畑遺跡

調査位置　甲府市川田町495-2
調査原因　個人住宅建設
対象面積　約250㎡
調査面積　26.0㎡
調査期間　平成６年５月23日～６月15日
調査担当　信藤祐仁

遺跡の概要

桜井畑遺跡は、旧笛吹川によって形成された沖積地の微高地上に立地している。調査地点西に隣接する甲府勤労者総合福祉センター建設に先立って、山梨県埋蔵文化財センターが行った発掘調査では、古墳時代前期の一辺30ｍ以上の大型方形周溝墓や古墳時代・奈良時代・平安時代の竪穴住居跡のほか、村落内寺院と想定される掘立柱建物跡が検出されている。また、北東側約150ｍには、甲斐国守護武田信昌・信縄・信虎が使用した川田館跡が存在し、西暦1500年前後には付近一帯にも館に関連する町場が展開していたことが想定されている。

調査の概要

工事予定地に東西方向13×２ｍの試掘トレンチを設定し、地表から人力によって掘り下げ埋蔵文化財を確認した。表土剝ぎが終了した時点で、黄褐色の地山となる土層に掘り込みが観察された。攪乱及び遺構を掘り下げ、同時に東端を深掘りして基本土層の堆積状況を調査した。

遺　　構

東端を除いて中央部から西側に遺構が存在し、溝１本、土坑５基が確認された。検出された溝、土坑ともに調査区外まで広がっているので、全容は不明である。

１号溝跡はトレンチ長軸に直交するもので、幅190㎝、深さ105㎝、断面はＵ字状を呈する。遺物のほとんどは上部に集中し、底面付近には１個体のみであった。

１号土坑は円形で、径190㎝以上、深さ75㎝。２号土坑と４号土坑を切っている。２号土坑は略楕円形で、径200㎝以上、深さ55㎝、南北が長軸となる。３号土坑は円形で、径70㎝以上、深さ20ｍ。４号土坑は楕円形で、長径約200㎝、深さ60ｍ。５号土坑は円形で、長径約200㎝以上、深さ50㎝。５基の土坑は３号を除いて西側に重複しており、土坑として把握できた以外の空白地も、土坑など何らかの遺構の一部である可能性が高い。

出 土 遺 物

弥生時代から中世までの遺物が確認されたが、古墳時代前期の土器が中心である。１～９は１号溝からの出土で、１～４は高坏脚部、５は手捏ね土器、６～８は壺か甕の口縁部である。９は、胴部下半に焼成前の穿孔がある特殊な器形である。９のみが溝底部付近であるほかは、ほとんど溝が埋まりきった覆土からの出土である。その他、古墳時代後期、平安時代及び中世の土器、須恵器、灰釉陶器等が出土している。

ま　と　め

本地点では古墳時代前期の溝と土坑が検出され、１号溝跡は方形周溝墓の一部である可能性があり、同時期の遺跡の空間構成を考えるうえで示唆的である。また、中世の遺物は、15世紀中葉から16世紀初頭にあった川田館の城下集落に関係する遺物であると推定される。

（信藤祐仁）

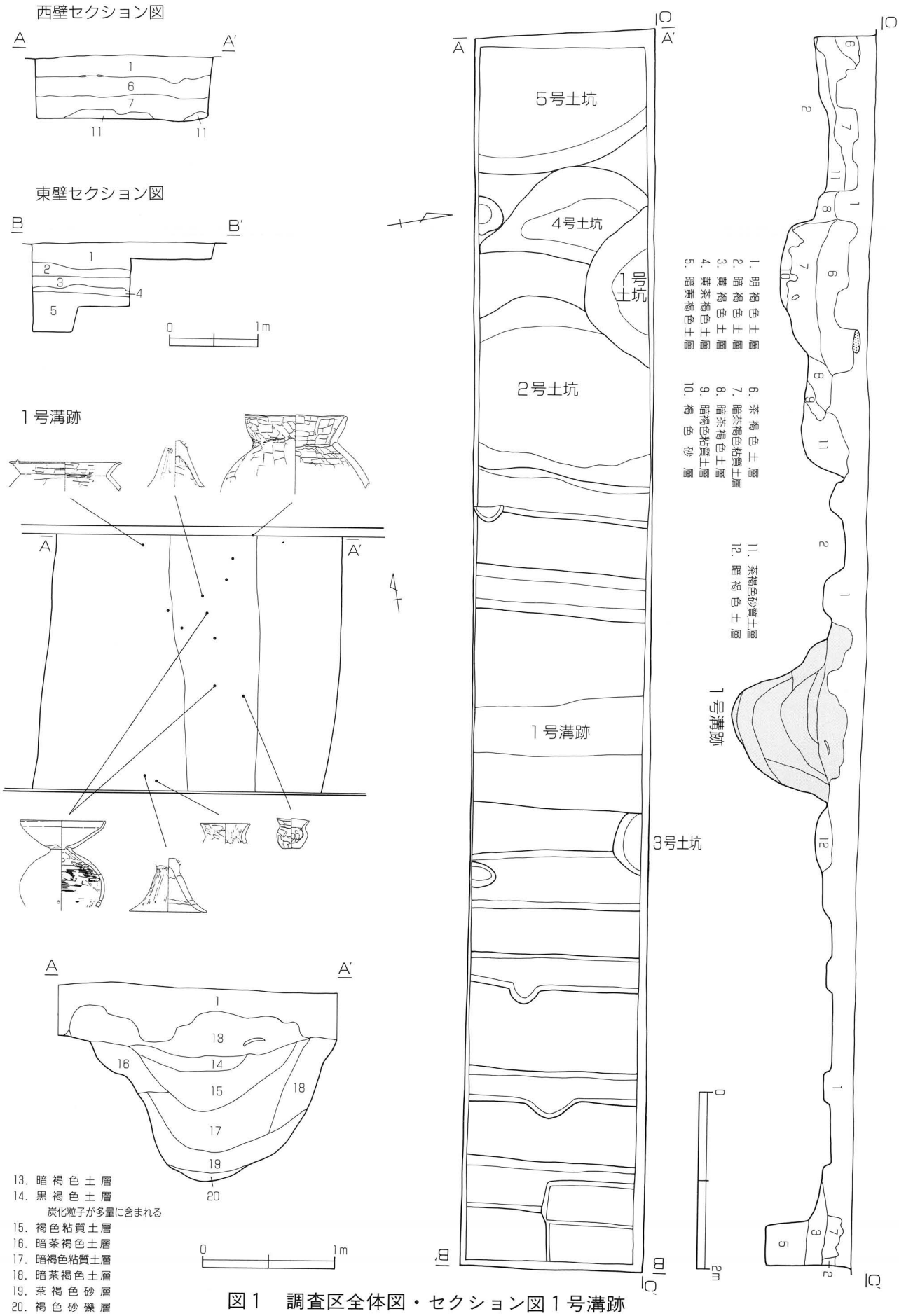


図1　調査区全体図・セクション図1号溝跡

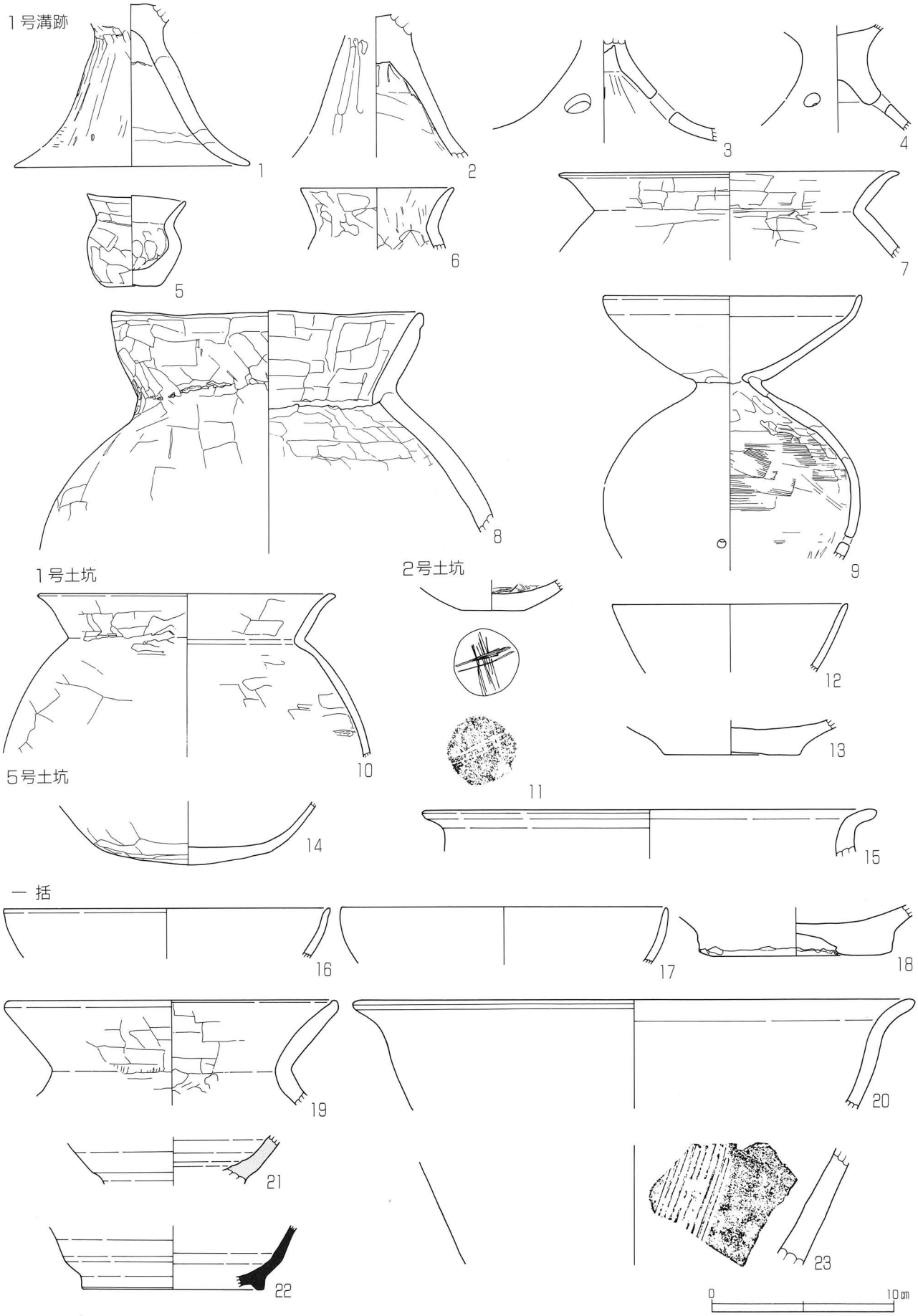

1号溝跡
1
2
3
4
5
6
7
8
9
1号土坑
10
2号土坑
11
12
13
5号土坑
14
15
一括
16
17
18
19
20
21
22
23
0
10cm

図2　出　土　遺　物

表１　桜井畑遺跡出土遺物観察表

( )復元値、単位 (cm)

番号	種別 産地	器種	法量 (cm) 口径・器高・底径	部位	調整など	胎土	焼成	色調	備考
1	土器	高坏	－ ・ － ・(13.0)	脚部	内面ナデ 外面ヘラミガキ、ハケ	長石・赤色、黒色粒子	良	5YR 橙 6/6	輪積痕、１号溝跡
2	土器	高坏	－ ・ － ・ －	脚部	内面ハケ 外面ヘラミガキ	長石・赤色粒子	良	5YR 橙 6/6	１号溝跡
3	土器	高坏	－ ・ － ・ －	脚部	摩耗にて不鮮明	長石・石英・赤色粒子	良	7.5YR 橙 6/6	１号溝跡
4	土器	高坏	－ ・ － ・ －	脚部	不明	長石・石英	良	7.5YR 橙 7/6	１号溝跡
5	土器	手捏ね土器	5.4 ・ 5.0 ・ 2.8	ほぼ完形	内面指頭痕 外面ナデ	長石	良	7.5YR 橙 7/6	１号溝跡
6	土器	小型壺か	(8.3) ・ － ・ －	口縁部～体部	内面ハケ、ナデ 外面ナデ	赤色粒子	良	5YR 橙 6/6	１号溝跡
7	土器	甕か壺	(18.0) ・ － ・ －	口縁部～胴部	内面ハケ、ナデ 外面ヘラケズリ	長石・石英・金雲母	良	7.5YR にぶい橙 6/4	１号溝跡
8	土器	壺	17.0 ・ － ・ －	口縁部～胴部	ナデ	長石・石英・赤色、黒色粒子	良	5YR 橙 6/6	１号溝跡
9	土器	不明	(14.0) ・ － ・ －	口縁部～体部	内面指頭痕、ハケ 外面ナデ	長石・石英・赤色粒子	良	7.5YR 橙 6/8	焼成前穿孔 １号溝跡
10	土器	甕	(16.0) ・ － ・ －	口縁部～胴部	内面ナデ 外面ヘラケズリ	長石・石英・金雲母	良	10YR 灰黄褐 5/2	１号土坑
11	土器	甕	－ ・ － ・(3.5)	体部～底部	内面ハケ 外面ナデ	赤色粒子	良	5YR 橙 6/6	底部に線刻 ２号土坑
12	土器	坏	(12.8) ・ － ・ －	口縁部～体部	摩耗にて不鮮明	長石・石英・赤色粒子	良	7.5YR 橙 6/6	２号土坑
13	土器	壺か	－ ・ － ・(7.5)	底部	不明	長石・赤色粒子	良	7.5YR にぶい橙 6/4	２号土坑
14	土器	坏	－ ・ － ・ －	体部～底部	内面摩耗にて不鮮明 外面ヘラケズリ	長石・赤色粒子	良	7.5YR にぶい橙 6/4	５号土坑
15	土器	甕	(24.0) ・ － ・ －	口縁部～頸部	ナデ	長石・石英・赤色粒子	良	5YR 橙 6/8	５号土坑
16	土器	鉢	(18.0) ・ － ・ －	口縁部～体部	ナデ	石英・赤色粒子	良	10YR 淡黄橙 8/4	
17	土器	鉢	(18.0) ・ － ・ －	口縁部～体部	ナデ	赤色粒子	良	7.5YR 浅黄橙 8/3	
18	土器	壺	－ ・ － ・ －	底部	不明	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	7.5YR 橙 7/6	
19	土器	壺	(18.0) ・ － ・ －	口縁部～頸部	内面ナデ 外面ハケ、ナデ	長石・石英・赤色粒子	良	5YR 橙 6/6	
20	土器	甕	30.4 ・ － ・ －	口縁部～体部	摩耗にて不鮮明	長石・赤色粒子	良	5YR 橙 6/6	
21	灰釉陶器	壺	－ ・ － ・ －	胴部	内面ナデ 外面ヘラケズリ	長石・石英	良	10YR 灰白 8/1	
22	須恵器	坏	－ ・ － ・ 9.8	体部～底部	ロクロナデ	長石	良	N 灰 5/	
23	土器	擂鉢	－ ・ － ・ －	体部	不明	長石・赤色粒子	良	10YR にぶい黄橙 7/4	

写真１　調査区全景

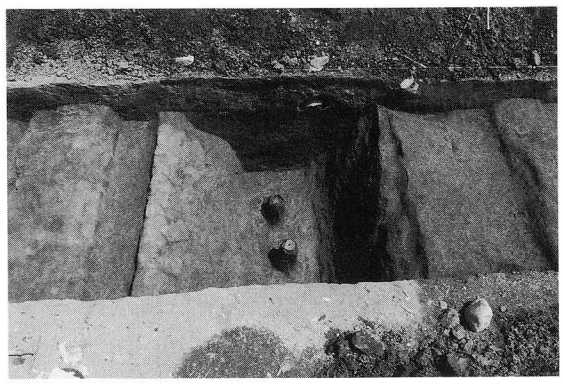


写真２　１号溝跡遺物出土状況

2 緑が丘二丁目遺跡（第１次）

調査位置　　甲府市緑が丘二丁目2431-1
調査原因　　宅地造成
対象面積　　約700㎡
調査面積　　6.0㎡
調査期間　　平成６年６月23日
調査担当　　信藤祐仁

遺跡の概要

緑が丘二丁目遺跡は、相川扇状地の西側を南流する相川の右岸、湯村山及び法泉寺山から東に突き出た丘陵の南に位置する。この丘陵によって相川は南に流路を変更しており、遺跡付近一帯が水害の影響を受けない比較的安定した土地となっている。

遺跡は、現在緑が丘スポーツ公園とその北側の住宅地にあたり、約20年前には現在の住宅地のほとんどは水田であった。古くは山梨県営グラウンド遺跡ともよばれ、昭和27年にグラウンド造成工事が行われた際に遺物が発見されている。テニスコート付近では、住居跡と推定される遺構に伴って土器が出土したと報告されている。また、市立北中学校には、本遺跡出土の縄文土器、弥生土器、古墳時代土師器、石棒、石皿などが保管されている。

調査の概要

調査地点は、標高約295ｍ、元は水田であり、遺跡のほぼ北西端に位置している。試掘調査は、東西方向に細長い土地に対して、１×２ｍの試掘坑を西・中・東と３箇所設定し、人力によって埋蔵文化財の有無を確認した。

ま　と　め

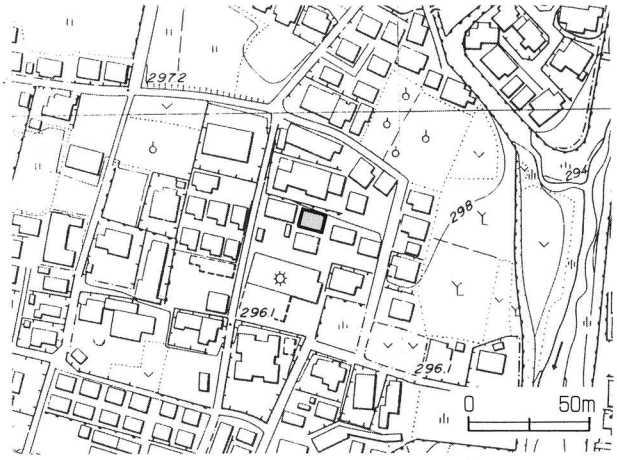
遺物は土器小片１点のみで、遺構は検出されなかった。土層は、第１層　暗褐色土層　水田耕作土、第２層　暗灰褐色砂質土層、第３層　暗灰褐色粘質土層、第４層　黒褐色粘土層、第５層　黒褐色礫混土層である。すべての試掘坑の土層中に、低湿地を示す鉄分の付着した高師小僧が見られ、遺物もほとんどないことから、当地域は遺跡の外縁部に当たるものと想定される。

（信藤祐仁）

写真１　調査区近景

写真２　土層堆積状況

3 緑が丘二丁目遺跡（第２次）



調査位置　甲府市緑が丘二丁目791-2
調査原因　集合住宅建設
対象面積　495.87㎡
調査面積　25.2㎡
調査期間　平成６年６月24日～６月30日
調査担当　信藤祐仁

調査の概要

調査地点は、遺跡の東北部、標高約297ｍ、南に緩やかに傾斜する相川の右岸の台地上に位置している。

調査対象地の中央部に、東西方向12.7×２ｍの試掘トレンチを設定し、人力によって埋蔵文化財の有無を確認した。調査区全体を約30～40cm下げたところで、完形のかわらけや石の集中が一部で確認されたため面的な精査を行った。石の集中部分は特別な規則性も観察されず、遺構の落ち込みも特に確認されなかった。トレンチの北側半分を全体的に更に約30cm掘り下げ、遺構と遺物の有無と土層の状況を確認した。

遺　　構

明確な遺構は確認されなかった。トレンチ西側には南北方向に拳大の石が集中する石列状のものがあったが、暗渠や配石遺構ではなかった。

調査区全体にわたって、地表下40cmの付近に大き目の石や平安時代の遺物が比較的集中しており、石列状の部分も含めて同時代の生活面を形成していたと思われる。

出 土 遺 物

縄文時代～中世にいたる土器及び須恵器等が約300点出土した。遺物の大半は、縄文土器で前期から後期のものであるが、中期中葉から後葉がその中心である。ほとんどの土器が５cm未満の小さい破片であり、割れ口は磨耗しているものが多く文様があるものは少ない。土器以外には、黒曜石、鉄石英、粘板岩など石器の原料となる石材がある。

１～３は縄文土器で、１は沈線による渦巻き文で後期初頭、２は横位に沈線が３本施された中期前葉、３は半截竹管による連続刺突文が横位に並ぶ前期後葉のものである。４は甲斐型土器の皿で、底部外面は手持ちのヘラ削り、内面はロクロによるナデがみられる。５は甕の口縁部で内外面ともにナデによる調整がある。６、７はかわらけであり、ともに底部に明瞭に回転糸切り痕を残す。７には口縁部に煤の付着と黒変した部分があり、灯明皿である。８は頁岩製の石鏃である。

ま　と　め

調査区全体にわたって、地表下40cmの付近に大きめの石や平安時代の遺物が比較的集中しており、石列状の部分も含めて同時代の生活面を形成していたと思われる。

（信藤祐仁）

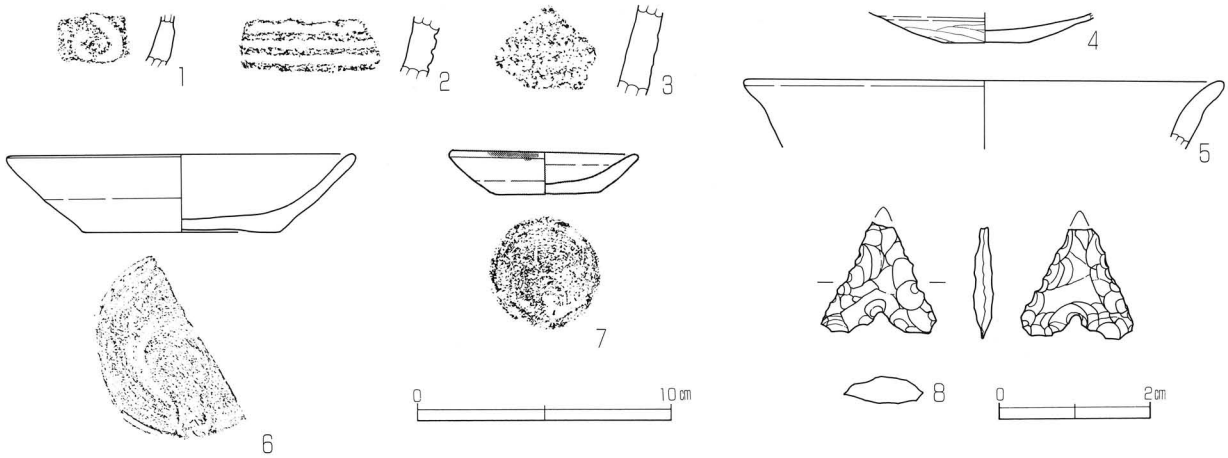


図1　出土遺物

表1　緑が丘二丁目遺跡（第2次）出土遺物観察表

( )復元値、単位（cm）

番号	種別 産地	器種	法量（cm） 口径・器高・底径	部位	調整など	胎土	焼成	色調	備考
1	土器	深鉢	－ ・ － ・ －	胴部		長石・石英・金雲母	良	5YR 赤褐 4/6	
2	土器	深鉢	－ ・ － ・ －	胴部		長石・石英	良	7.5YR にぶい橙 7/4	
3	土器	深鉢	－ ・ － ・ －	胴部		長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	5YR にぶい赤褐 5/4	
4	土器	皿	－ ・ － ・ 3.3	体部～底部	内面ナデ 外面ヘラケズリ	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	5YR にぶい赤褐 5/4	
5	土器	甕	(18.5)・ － ・ －	口縁部	ナデ	長石・赤色粒子	良	7.5YR 橙 7/6	
6	土器	かわらけ	(13.5)・ 3.1 ・ (7.7)	口縁部～底部	ロクロナデ 底部回転糸切り	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	7.5YR 橙 7/6	
7	土器	かわらけ	7.2 ・ 1.6 ・ 4.3	完形	ロクロナデ 底部回転糸切り	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	7.5YR にぶい橙 7/4	
8	石製品	石鏃	長さ 幅 厚さ 1.45 ・ 1.5 ・ 0.28	－	－	－	－	－	重量0.4g 頁岩

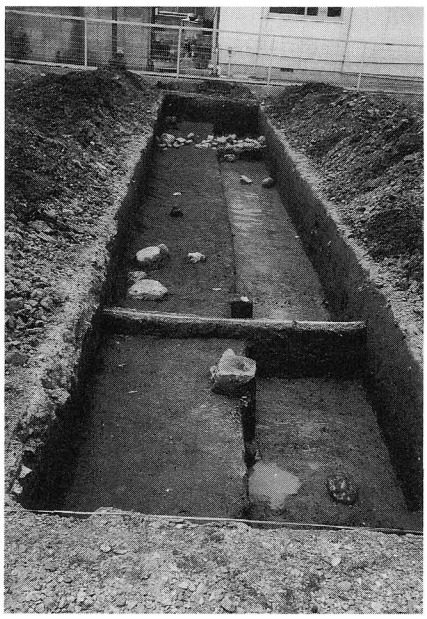


写真1　調査区全景

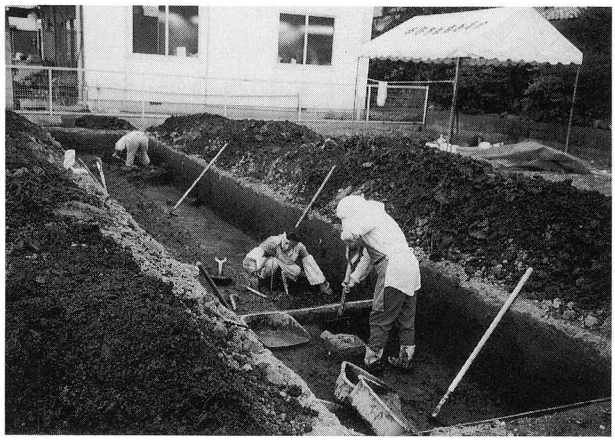


写真2　調査風景

4 朝気遺跡（第９次）

調査位置　甲府市朝気三丁目18
調査原因　個人住宅建設
対象面積　約200㎡
調査面積　12.0㎡
調査期間　平成６年７月５日～７月８日
調査担当　信藤祐仁

調査の概要

朝気遺跡は北部に居住域、南部に小区画水田等の生産域が確認されている。調査地点は、朝気遺跡の西南部に位置し、生産域に含まれると想定される。

工事予定地に、東西方向６×２ｍの試掘トレンチを設定し、人力によって埋蔵文化財の有無を確認した。トレンチ西端には２×２ｍの深掘り部分を設け、地表下1.8ｍまで掘り下げ土層の堆積状況を確認した。

出土遺物

平安時代と思われる磨耗した土師器片が６点出土したが、小片のため図示することができなかった。

まとめ

西端を除いて調査区のほぼ全面に、甲府空襲時の瓦礫を整理したと思われる焼土を含んだ撹乱層が20～40cm存在する。深いところで４層中まで達しており、底面は平坦で２段になっていることから、一度掘りくぼめて整地したことがわかる。

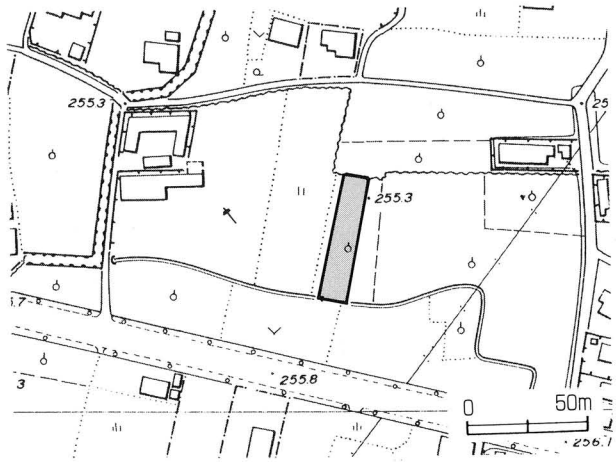
西端の基本土層堆積状況は、次のとおりである。第１層　暗褐色土層　10～15cm　旧建物の撹乱層。第２層　褐色土層　10～20cm、近代水田の耕作土。第３層　白褐色砂層　５～10cm　上面は酸化鉄により黄褐色に変色。第４層　暗褐色砂質土層　15～20cm。第５層暗褐色土層　約10cm。第６層　褐色砂質土層　約20cm。第７層　暗褐色砂質土層約15cm。第８層　暗灰褐色土層　約20cm。第９層　暗褐色砂質土層　約20cm。第10層　暗褐色砂質土層15～20cm。第11層　暗灰色砂層　30cm以上。第４層以下の土層中には、高師小僧が多量に含まれており、低湿地帯であったことが想定される。

第５層と８層は土壌化が進んでおり、水田土壌だった可能性がある。　（信藤祐仁）

写真１　調査区全景

写真２　土層堆積状況

5 塚腰遺跡



調査位置　甲府市国玉町899
調査原因　市道建設
対象面積　884㎡
調査面積　325㎡
調査期間　平成６年８月25日～９月28日
調査担当　平塚洋一

遺跡の立地

塚越遺跡は濁川の左岸約500ｍ、標高256ｍに位置する。濁川は甲府市内でも最も低い位置を流れる川で、周囲には水害伝説が存在する。しかし、本遺跡の西に鎮座する玉諸神社は甲斐国三宮とされ、草創が平安時代まで確実にさかのぼることからも、本遺跡周辺は比較的安定した地盤であることが想定できる。

調査の概要

当初２ｍ四方の試掘グリッドを３箇所設定し調査を行ったところ、そのうちの１箇所から古墳時代前期の土器がまとまって出土したため、５ｍ幅のトレンチを南北に50ｍ、東西に15ｍ設定し拡張調査を行った。

調査の結果、地表から約1.5ｍの黒色粘土層から古墳時代前期の土器がややまとまって出土した。その直上までは水田の耕作による撹乱を受けていた。また、遺構は確認できなかった。

ま　と　め

濁川左岸における発掘調査の事例はまだ少ないものの、今回の調査により出土したＳ字甕は肩部に横方向のハケ目を持つことから、古墳時代前期でも比較的早い段階の所産といえる。調査地点の東方約300ｍには藤塚古墳が所在し、その築造と本遺跡との関連も考えられる。

（平塚洋一）

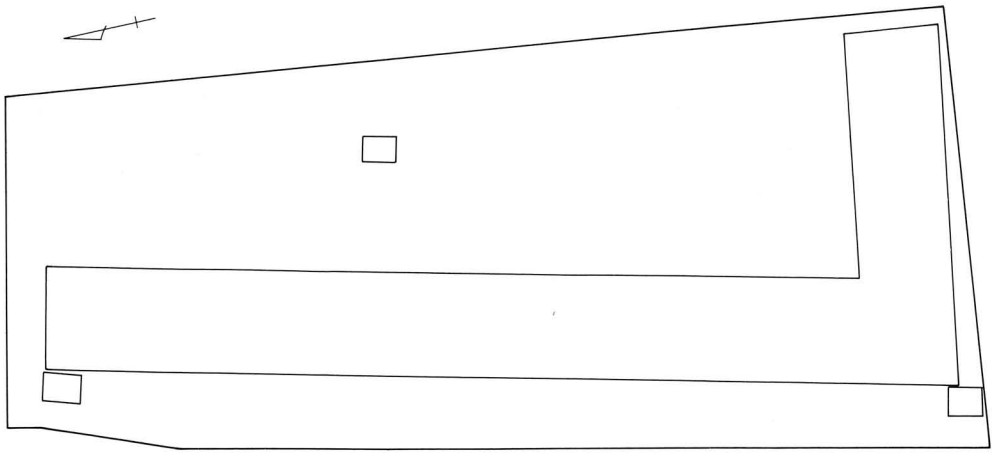
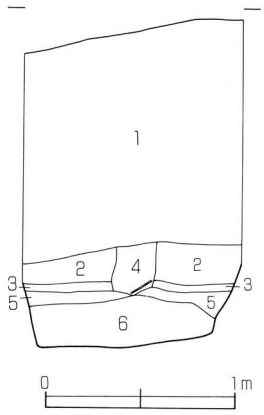


図１　塚腰遺跡トレンチ配置図

南壁セクション図



1. 撹　乱
2. 暗褐色粘土層　黄色ブロック混入
3. 黄褐色粘土層　床土
4. 撹乱、灰色粘土ブロック、黒色粘土ブロック混入（板が層の底に敷かれている。）
5. 黒色粘土層、細い砂粒混入（遺物包含層）
6. 暗褐色粘土層

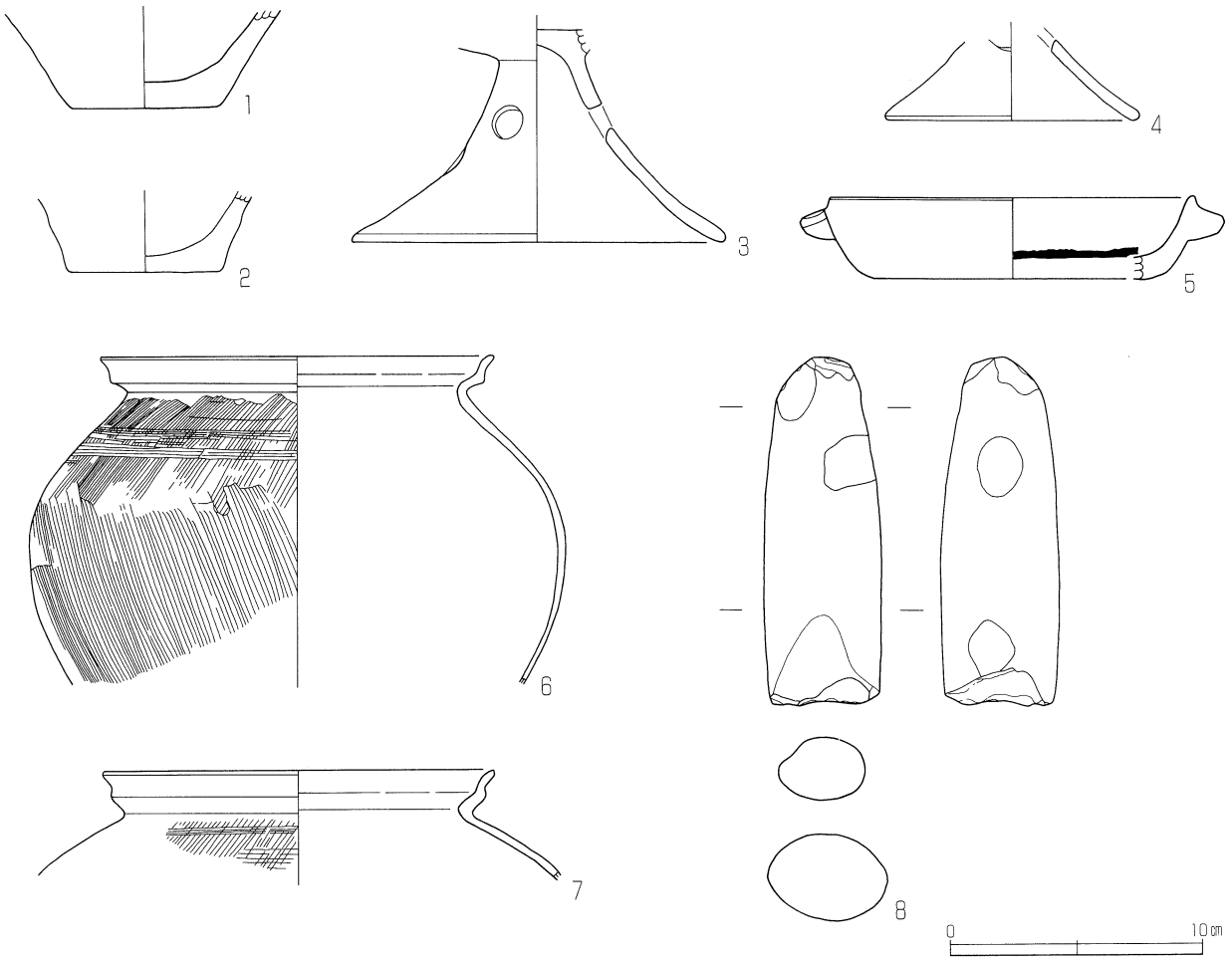


図2　出土遺物

表1　塚腰遺跡出土遺物観察表

( )復元値、単位（cm）

番号	種別 産地	器種	法量（cm） 口径・器高・底径	部位	調整など	胎土	焼成	色調	備考
1	土器	甕	－・－・(5.8)	底部	ナデ	長石・石英	良	内)7.5YR にぶい褐 5/4 外)10YR 灰黄褐 6/2	
2	土器	甕	－・－・(6.0)	底部	ナデ	赤色粒子	良	7.5YR にぶい褐 6/4	
3	土器	高坏	－・－・14.7	脚部	ナデ	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	7.5YR 橙 6/6	6箇所穿孔
4	土器	高坏	－・－・(10.0)	脚部	内面ナデ 外面ミガキ	赤色粒子	良	2.5YR 橙 6/6	
5	土器	鍋	(14.5)・(3.25)・(11.0)	口縁部～底部	ロクロナデ	長石・石英・金雲母	良	10YR にぶい黄褐 4/3	
6	土器	台付甕	(15.6)・－・－	口縁部～胴部	内面ナデ 外面ハケ	長石・石英	良	5YR 橙 6/6	
7	土器	台付甕	(15.4)・－・－	口縁部～胴部	内面ナデ 外面ハケ	長石・石英・金雲母	良	7.5YR 橙 6/6	
8	石製品	石斧	長さ・幅・厚さ 13.6・4.6・3.4	－	－	－	－	－	

6 本郷C遺跡

調査位置　甲府市善光寺一丁目1909－１
調査原因　集合住宅建設
対象面積　627㎡
調査面積　12㎡
調査期間　平成６年９月６日～９日
調査担当　兒玉好美

調査の概要

大笠山と八人山の間に開析された高倉川扇状地の扇端部に位置し、標高約257ｍを測る。扇状地北部の北原古墳群をはじめ、扇状地中央部を南流する高倉川周辺には縄文時代～近世に至る遺跡が数多く存在している。平成15年度には北側に隣接する本郷Ｂ遺跡の調査が行われ、弥生時代後期～古墳時代中期、平安時代、中世、近代に至るまでの溝・土坑・ピット等の遺構が確認されている。

調査は工事予定地の中央部に２×２ｍ、深さ１～1.5ｍの試掘坑を３箇所設定して行った。

遺　　構

遺構は確認されなかった。

遺　　物

各試掘坑から古墳時代、平安時代の土師器片及び近世の陶磁器等が出土したが小片であり、図示できたものは３点のみである。１は灰釉陶器の壺と思われる。２の陶器皿は高台のみ無釉。17～18世紀に位置づけられる。３は火鉢の口縁部で、在地のものと思われる。

ま　と　め

遺構は確認されなかったが、ＪＲ中央線を挟んで北側に隣接する本郷Ｂ遺跡からは溝跡が確認されており、今後の調査成果によって本郷遺跡周辺の様相がさらに明らかになるものと思われる。

（鈴木由香）

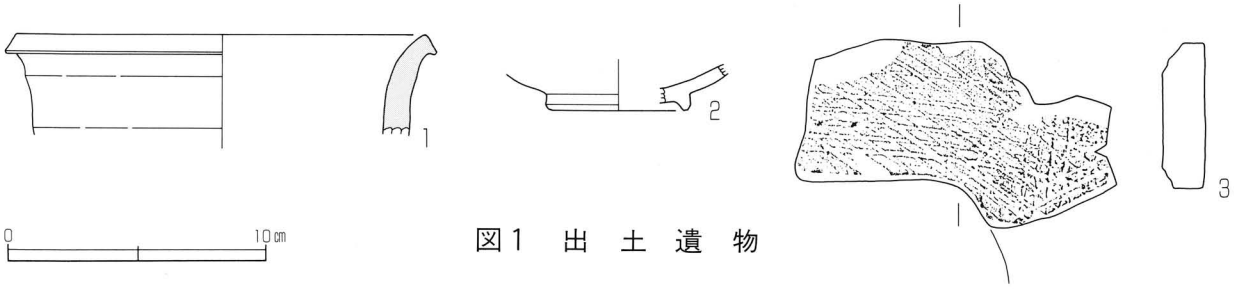


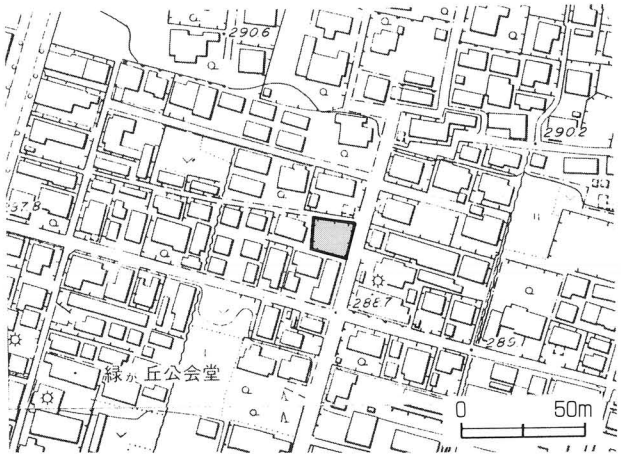
図１　出　土　遺　物

表１　本郷Ｃ遺跡出土遺物観察表

（）復元値、単位（cm）

番号	種別 産地	器種	法量（cm） 口径・器高・底径	部位	調整など	胎土	焼成	色調	備考
1	陶器	壺	(16.0)・－・－	口縁部	施釉	密	良	－	
2	陶器	皿	－・－・(5.0)	体部～底部	施釉	密	良	－	
3	土器	火鉢	－・－・－	口縁部～胴部	ナデ	雲母・金雲母	良	10YR にぶい黄橙 7/4	

7 緑が丘一丁目遺跡（第３次）



調査位置　甲府市緑が丘二丁目135－５
調査原因　個人住宅建設
対象面積　247.92㎡
調査面積　16㎡
調査期間　平成６年９月28日～10月12日
調査担当　兒玉好美

調査の概要

調査地点は、昭和60年度に甲府市教育委員会が実施した遺跡分布調査によって確認された。緑が丘一丁目遺跡は平成４、５年度にも調査が行われ、黒曜石や縄文時代中期の土器が出土している。現在、周辺は住宅地となっているが、北側に隣接する緑が丘二丁目遺跡内には和田無名墳が存在していた。また、北西約800ｍに湯村山古墳群、西側約600ｍには万寿森古墳が存在する。

調査は幅２ｍ、長さ８ｍのトレンチを設定し、地表から約１ｍ掘り下げて土層及び遺構の確認を行った。

遺　　構

土坑８基、溝２条が検出された。

土坑　１号土坑は長径72cm、短径67cm、深さ28cmを測り、平面形態はほぼ円形を呈する。古墳時代の坏口縁部が出土した。２号土坑は直径約45cm、深さ31cmを測り、平面形態は円形を呈する。３号土坑は長径67cm、深さ27cmを測る。北側の一部は調査区外になるが、平面形態はほぼ円形を呈する。４号土坑は直径約42cm、深さ12cmを測り、平面形態は円形を呈する。５号土坑は計測可能部分が50cm、深さ48cmを測る。２～５号土坑は、いずれも出土遺物はない。６号・７号土坑は重複し、長径65cm、短径25cm、深さ40cmを測る。６号土坑からは古墳時代の甕口縁部、坏口縁部（図２－１）、７号土坑からは古墳時代の高坏（図２－３）が出土した。８号土坑は長径27cm、短径16cm、深さ25cmを測り、平面は楕円形を呈する。古墳時代の台付甕脚部（図２－２）が出土した。

溝跡　１号溝跡は主軸をＮ－83°－Ｅに持ち、幅18cm、深さ８cmを測る。断面形態はＵ字形を呈する。６号土坑と重複し、調査区外へ延長する。２号溝跡は主軸をＮ－65°－Ｗに持ち、幅20cm、深さ17cmを測る。断面形態はＵ字形を呈し、６号・７号土坑と重複する。西側への延長方向は確認できなかった。１号・２号溝跡とも出土遺物はなかった。１号溝跡の北側に重複する掘り込みは性格等不明である。

遺　　物

出土遺物の多くは古墳時代前期から後期の土師器であるが、小片が多く図示できたものは３点である。１は古墳時代の坏で、内面・外面ともにナデ調整される。２は古墳時代の台付甕脚部である。内面は横方向にハケ調整、外面は赤色塗彩が施されている。３は古墳時代の高坏である。口縁部は歪み若干摩耗しているが、外面にはハケ調整が見られる。また、内面・外面ともに赤色塗彩が施されている。

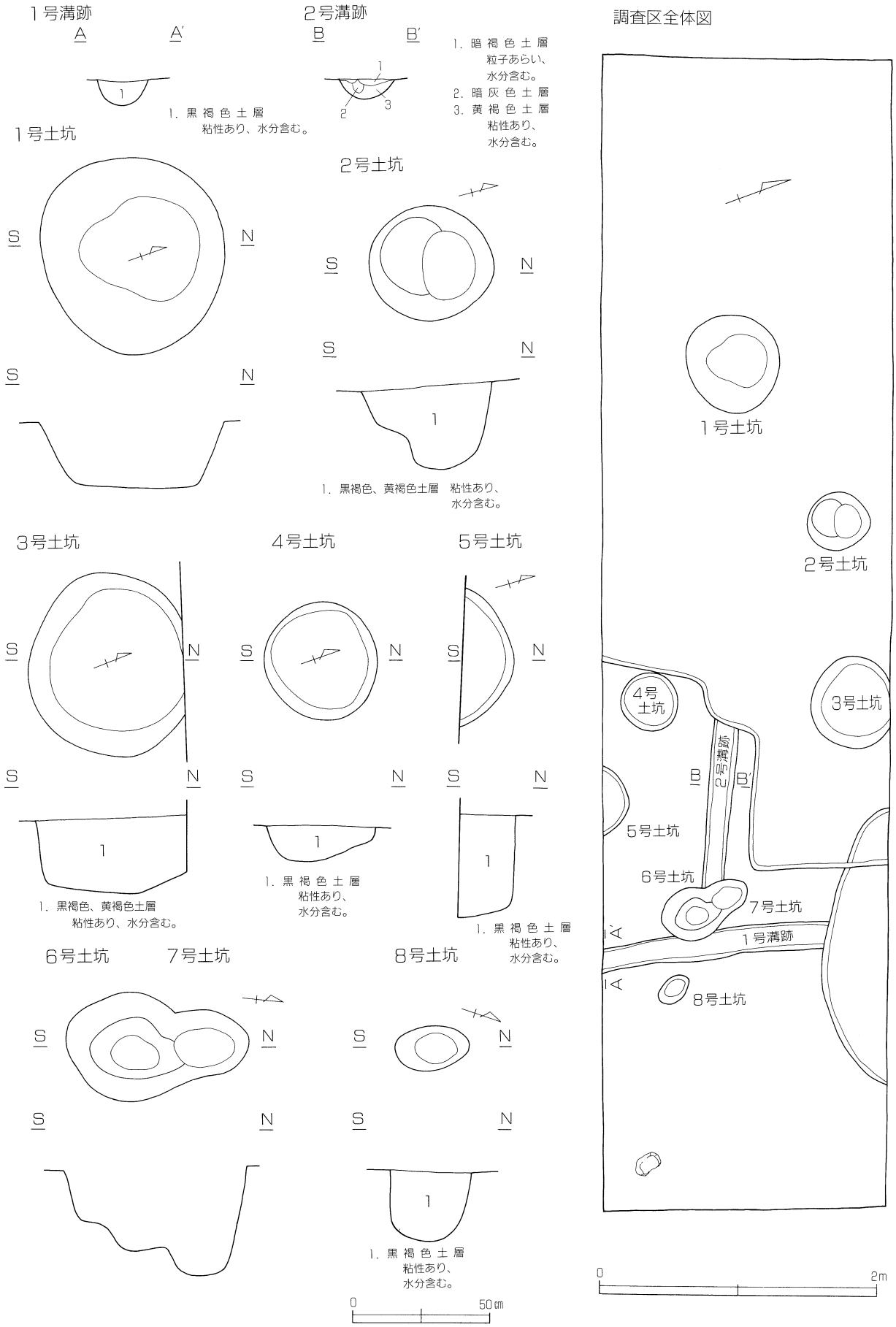


図1　1号～2号溝跡、1号～8号土坑、調査区全体図

ま と め

遺構は確認されたものの規則性が見られず、2号溝跡は延長が確認できなかった。また、遺構内からの出土遺物も少なく、遺跡の詳細を捉えることは困難である。しかし、これまでの分布調査と発掘調査の成果や近隣における古墳群の存在によって、古墳～平安時代に至る遺跡であることが確認されている。 (鈴木由香)

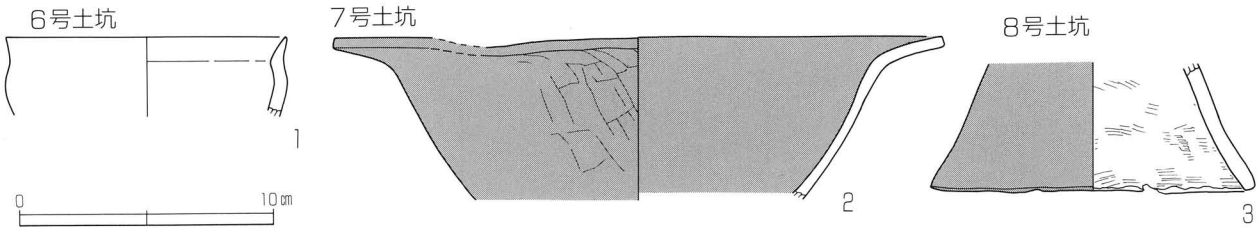


表1 緑が丘一丁目遺跡（第3次）出土遺物観察表

( )復元値、単位（cm）

番号	種別 産地	器種	法量(cm) 口径・器高・底径	部位	調整など	胎土	焼成	色調	備考
1	土器	坏	(11.0)・－・－	口縁部～体部	ナデ	赤色粒子	良	5YR 橙 7/6	－
2	土器	高坏か	(24.0)・－・－	口縁部～体部	外面ハケ 内外面赤色塗彩	長石・石英・金雲母・赤黒粒子	良	胎土 5YR 橙 6/6 表面 10R 赤 5/8	口縁部に歪み
3	土器	台付甕	－・－・(12.0)	脚部	内面ハケ 外面赤色塗彩	長石・石英・金雲母	良	5YR 橙 6/6	－

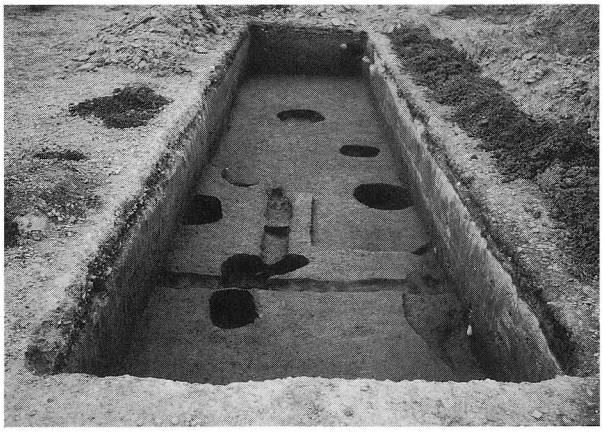


写真1 全 景

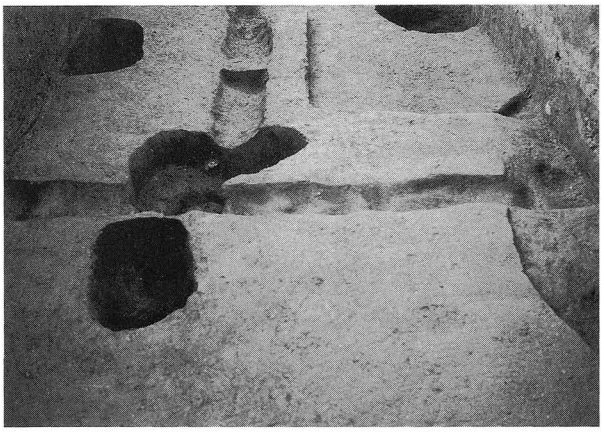
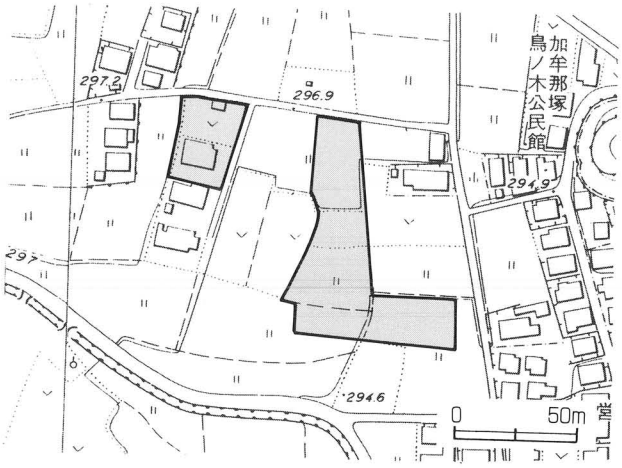


写真2 1号溝跡

写真3 2号溝跡

写真4 6号・7号土坑

8　金塚西遺跡



調査位置　甲府市千塚三丁目2237番外
調査原因　公園建設
対象面積　約10,000㎡
調査面積　80㎡
調査期間　平成６年９月13日～10月14日
調査担当　伊藤正幸

調査の概要

(1)調査経過　甲府市が計画を進めている千塚公園建設予定地は、一帯が金塚西遺跡の範囲に含まれていたため、平成５年12月14日付けで、埋蔵文化財発掘調査について依頼を受けた。協議の結果、既に公有地化が終了していた部分についての試掘・確認調査を実施することとした。

(2)地理歴史的環境　金塚西遺跡の北には里山が迫り、西から片山(665ｍ)、羽黒山(490ｍ)、湯村山(446ｍ)へと続く。本遺跡は、荒川によって開析された扇状地上に位置する。

扇央部に位置する米草遺跡（甲府市山宮町）では、平成12年（2000）に発掘調査が実施され、縄文時代前期の土坑、柱穴(ピット)等が確認されている。

背後の山間部及びこの扇状地には古墳が多く所在し、積石塚古墳や土石混合墳と呼ばれる特徴的な古墳も点在する。扇状地に存在する古墳は甲斐市（旧敷島町）にまで分布の範囲が広がるが、そのうちの甲府市内分は「千塚山宮古墳群」と呼ばれている。ちなみに『千塚』という地名は、塚の多い地域に由来していると『甲斐国志』は記している。県史跡加牟那塚古墳、証文塚、天神塚等、古墳時代後期の古墳が数多く分布していたが、そのうちの多くが現在は削平され消滅している。また本遺跡から750ｍほど北西に位置する榎田遺跡は、古墳時代後期の遺跡として知られ、これらの古墳造営に関係する可能性がある。

調査成果

(1)調査方法　県内でも最大級の石室を持つ加牟那塚古墳も隣接することから、調査地には消滅した古墳及び古墳を築造・維持した該期の集落の存在が予想された。調査は２ｍ四方の試掘坑（テストピット、以下「Ｔ.Ｐ.」と略す。）を20箇所設定し(図１)、人力により砂礫層まで掘り下げた。随時平面及び土層について記録しながら進行させ、層序の乱れに気を配った。

(2)層序　基本的には、概ね地表面から約1.5ｍ下層で砂礫層の地山に達する。その間明褐色砂を主体とした層が、色調の違いから３～５層に分層することが可能で、下層ほど褐色土の混入が多い傾向がある。層序的な乱れは認められないが、この砂層の下部から古墳時代の遺物が若干検出する。

調査地中央部北半は礫混じりの盛土が施され、その厚さは60㎝程に及ぶ。また調査区東端部のＴ.Ｐ.19及びＴ.Ｐ.20北壁からは、約60㎝下層から白色粗粒砂の入った落ち込みが確認されている。

(3)遺構

T.P.19及びT.P.20で確認された落ち込みは、溝跡の可能性もあるが、遺物は検出されず、時期及び性格を言及するには及ばない。他の試掘坑から、遺構と思われるものは、層序的な乱れも含めて確認することはできなかった。

(4)遺物（図２）

縄文時代から古墳時代までの遺物が出土しているが、図示できたものは23点である。

６は縄文土器である。胴部の破片と思われる。T.P.９から出土した。

古墳時代の遺物はT.P.１から２点、T.P.２から１点、T.P.４から１点、T.P.７から１点、T.P.９から２点、T.P.16から３点、T.P.17から２点、T.P.19から２点、T.P.20から１点が出土し、試掘坑外から５点が採集された。器形としては坏・高坏・甕・台付甕・長頸壺が認められるが、いずれも破片資料である。

T.P.16から出土した２点（８、９、10）及び19からのもの（14）は古墳時代後期の坏蓋で、T.P.17からは長頸壺が出土した。またT.P.20からは龍泉窯系の青磁が出土している。器形は碗であろうが、底部のみが残存している。

ま と め

今回の調査によって、明確に集落等の存在を示す成果はなかった。しかし調査地西北部分に比べて東部及び南部は層序的に比較的安定しており、性格的に不確定ながら落ち込みが確認できた試掘坑もあり遺構の存在をうかがわせる。今後の調査に期待したい。

（伊藤正幸）

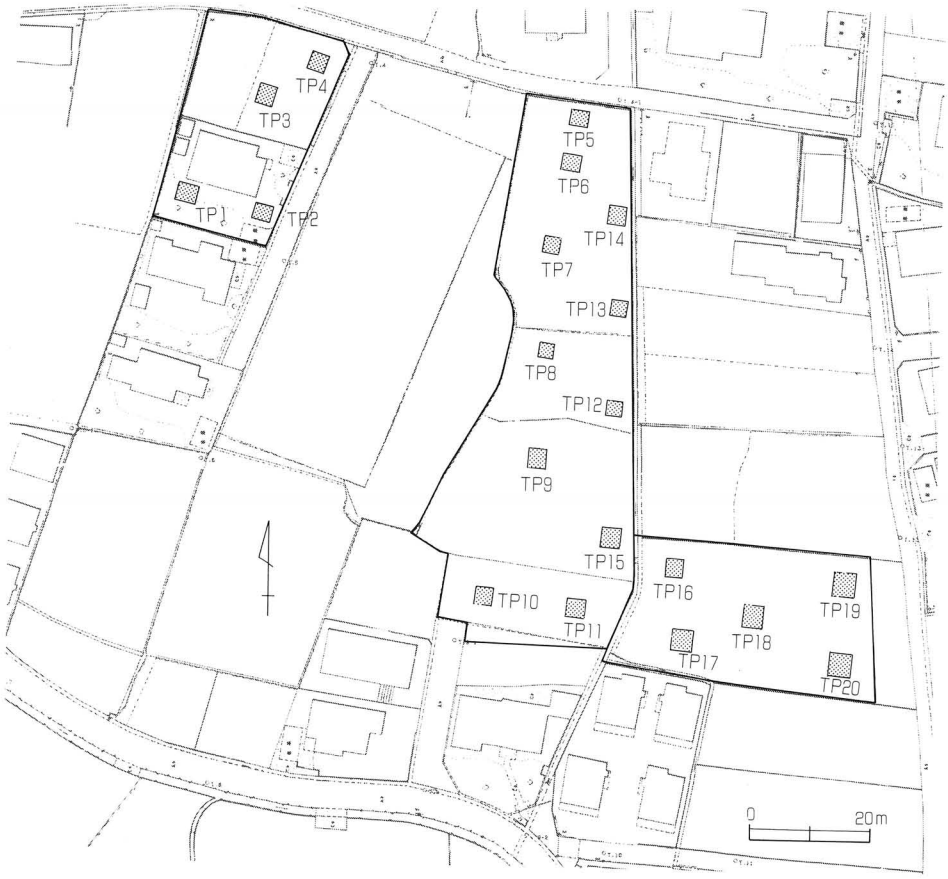
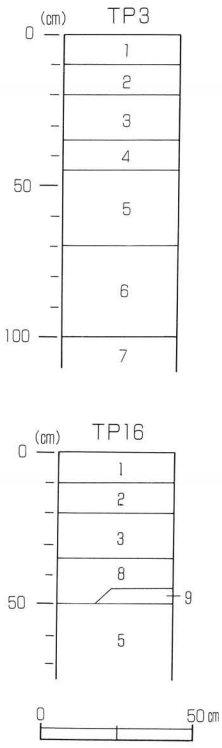


図１　試掘坑配置図

基本層序



1. 明褐色土層
2. 明褐色土層　黄褐色土を若干含む
3. 黄褐色土層
4. 赤褐色土層　白色粗粒砂を多く含む
5. 黄褐色粗粒砂層
6. 白色粗粒砂層
7. 礫　　層
8. 黒褐色土層
9. 白色及黄褐色混合細粒砂層

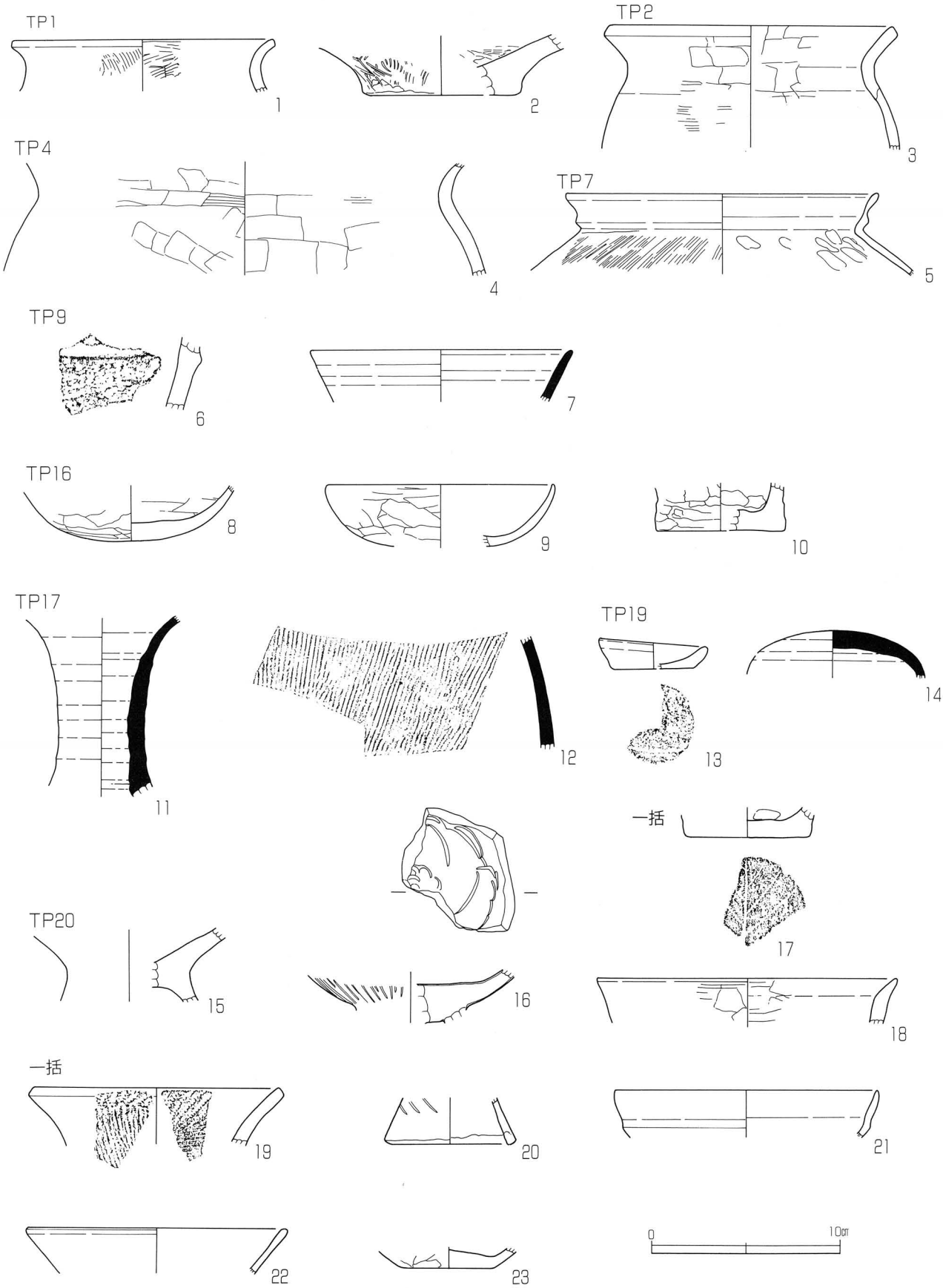

TP1
1
2
TP2
3
TP4
4
TP7
5
TP9
6
7
TP16
8
9
10
TP17
11
12
TP19
13
14
一括
17
TP20
15
16
18
一括
19
20
21
22
23
0
10cm

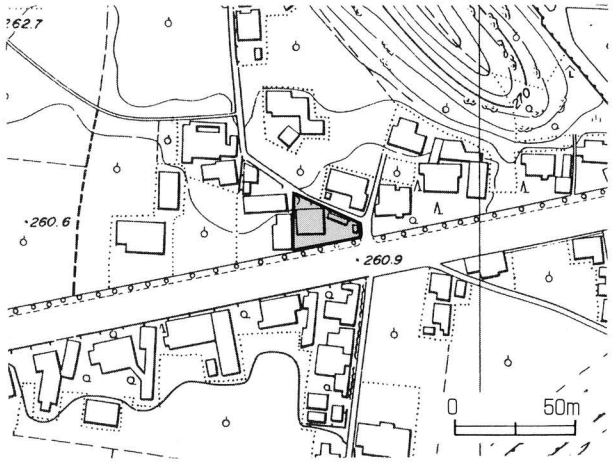
図2　出　土　遺　物

表1　金塚西遺跡出土遺物観察表

( )復元値、単位 (cm)

番号	種別 産地	器種	法量 (cm) 口径・器高・底径	部位	調整など	胎土	焼成	色調	備考
1	土器	甕	(13.8)・－・－	口縁部	ハケ	長石・赤色粒子	良	5YR 橙 6/6	
2	土器	壺	－・－・(7.5)	胴部～底部	ハケ	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	7.5YR にぶい橙 7/4	
3	土器	甕	(14.9)・－・－	口縁部～胴部	内面ナデ 外面ハケ	長石・石英・赤色粒子	良	5YR 明赤褐 5/6	輪積痕あり
4	土器	甕か	－・－・－	頸部～胴部	内面ナデ 外面ハケ	長石・石英・赤色粒子	良	7.5YR 橙 7/6	
5	土器	台付甕	(16.4)・－・－	口縁部～胴部	内面指頭痕 外面ハケ	長石・石英・赤色粒子	良	7.5YR 橙 7/6	
6	土器	深鉢か	－・－・－	胴部	縄文	長石・石英・赤色粒子	良	7.5YR にぶい褐 6/3	RL単節縄文
7	須恵器	坏	(13.8)・－・－	口縁部～体部	ロクロナデ	長石・黒色粒子	良	N 灰 6/	
8	土器	坏	－・－・－	体部～底部	内面ナデ 外面ヘラケズリ	長石・石英・赤色粒子	良	5YR 橙 6/6	
9	土器	坏	(12.0)・－・－	口縁部～体部	ナデ 外面ヘラケズリ	長石・石英・赤色粒子	良	7.5YR 明褐 5/6	
10	土器	不明	－・－・(6.8)	底部	ナデ	長石・石英・赤色粒子	良	10YR 明黄褐 6/6	
11	須恵器	長頸壺	－・－・－	頸部	ロクロナデ	長石・黒色粒子	良	N 灰 7/	
12	須恵器	甕	－・－・－	胴部	外面叩き	長石・石英	良	10YR 黒褐 3/1	
13	土器	かわらけ	5.6・1.4・4.3	口縁部～底部	ナデ 底部糸切り	長石・石英・黒色粒子	良	10YR にぶい黄橙 7/4	
14	須恵器	坏蓋	－・－・－	体部～底部	ロクロナデ 外面ケズリ	長石	良	5Y 灰 6/1	
15	土器	台付甕	－・－・－	胴部	摩耗にて不鮮明	長石・石英・赤、黒粒子	良	5YR 橙 6/6	
16	青磁	線描 連弁紋碗	－・－・－	体部～底部	線刻 高台内蛇目釉剝ぎ	緻密	良	－	
17	土器	甕か	－・－・(6.6)	底部	内面指頭痕 底部木葉痕	長石・石英・赤色粒子	良	5YR 橙 6/6	
18	土器	坏	(16.0)・－・－	口縁部～体部	ナデ	長石・赤色粒子	良	7.5YR 橙 7/6	
19	土器	壺か	(13.0)・－・－	口縁部～頸部	口唇部・内面縄文 外面条痕文	長石・石英	良	5YR 明赤褐 5/6	
20	土器	台付甕	－・－・(6.2)	脚部	ナデ 外面ハケ	長石・石英・金雲母	良	2.5YR 明赤褐 5/6	
21	土器	坏	(14.0)・－・－	口縁部～体部	摩耗にて不鮮明	長石・赤色粒子	良	10YR 浅黄橙 8/3	
22	土器	坏	13.6・－・－	口縁部～体部	ナデ	長石	良	2.5Y 灰黄 7/2	
23	土器	坏	－・－・4.8	体部～底部	外面ヘラケズリ	長石・赤色粒子	良	2.5Y 灰黄 7/2	

9 大坪遺跡（第５次）



調査位置　甲府市横根町608
調査原因　集合住宅建設
対象面積　約460㎡
調査面積　16㎡
調査期間　平成６年９月30日～10月12日
調査担当　平塚洋一

調査の概要

過去大坪遺跡として調査を行ったのは、主に十郎川の左岸地域であった。十郎川左岸では未焼成の土器群や土器焼成遺構なども検出され、土師器生産の性格がかなりクローズアップされてきた。大坪遺跡として括られた範囲のうち、十郎川右岸は調査が実施されず不明な点が多かった。

今回十郎川右岸で初となる大坪遺跡の調査は、２ｍ四方の試掘坑を２箇所設定し調査を行った。

遺構と遺物

地表から約20㎝現況の表土が堆積し、それより下層に旧表土と思われる暗褐色～茶褐色土が約５㎝堆積していた。東側に設定した試掘坑からは遺物も全く出土しなかった。しかし、西側に設定した試掘坑からは旧表土の下より溝状遺構が検出できた。溝状遺構の範囲を確認するため、溝の延長上南西方向に２×１ｍの試掘調査坑をさらに設定し、調査を行った。

検出された溝状遺構は、幅40～50㎝、深さ40㎝と規模はさほど大きなものではないが、多くの土器が出土した。平安時代（９世紀代）所産の土師器坏（甲斐型土器）が最も多いが、古墳時代前期の土器の破片や片口鉢なども出土している。

出土した遺物は、甲斐型の坏が最も多く体部外面の下半に手持ちヘラ削りが施され、口縁部がやや外反するものが多い。内面が黒色処理されるものもある。16は内面黒色処理された甲斐型の坏であるが、内側の表面は剥離が著しく、何らかの理由で二次的に熱を受けたものと想定できる。

ま　と　め

出土遺物の傾向に十郎川右岸で調査された大坪遺跡と同じく、坏・皿類が多く壺・甕類といった煮炊具が少ないという傾向がある。これは十郎川の現在の流路と古代における流路の違いが考えられる。『大坪遺跡』（2004甲府市教育委員会）で考察したとおり、古代における十郎川の流路は現在のものより更に東を流れていたものと考えられ、大坪遺跡としての古代集落の広がりは現在の横根跨線橋のあたりを中心に、今回の調査地点まで展開していたものと考えられる。また、坏・皿類が多く壺・甕類が少ない点から、坏・皿類の生産地に近いためより多くの消費が可能だったことが考えられる。

大坪遺跡が所在する甲運地区は、現在も国道20号線・140号線・411号線が接近し交通の要衝となっている。古代にはヤマトタケルの東征伝説の帰路に想定され、近代には甲州街道が通るなど、古代から現代まで交通の要衝といえる地域である。そのため、古墳時代の比較的早い時期から安定的な集落が営まれていた様子が窺える。

（平塚洋一）

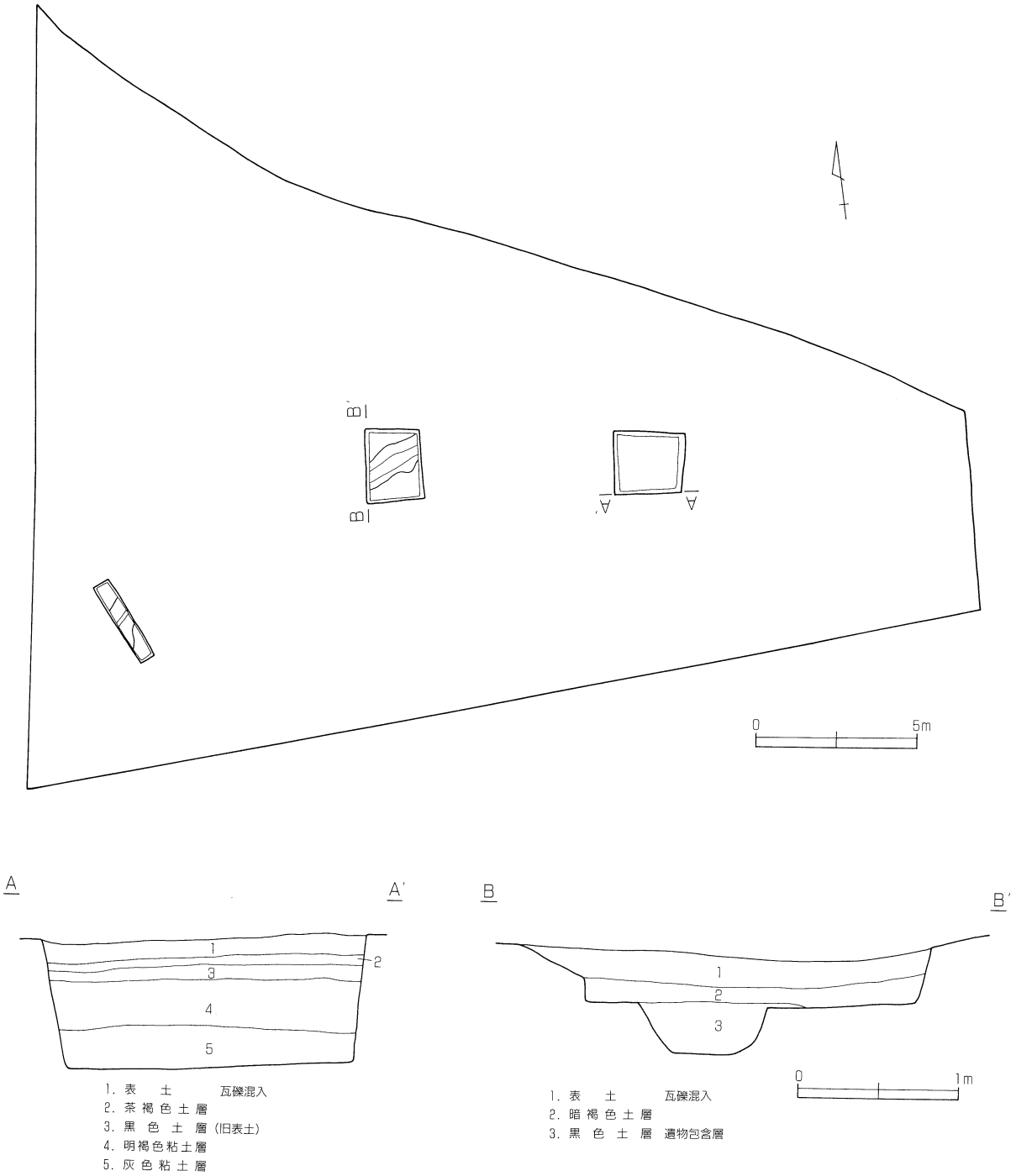


図１　試掘坑配置図、セクション

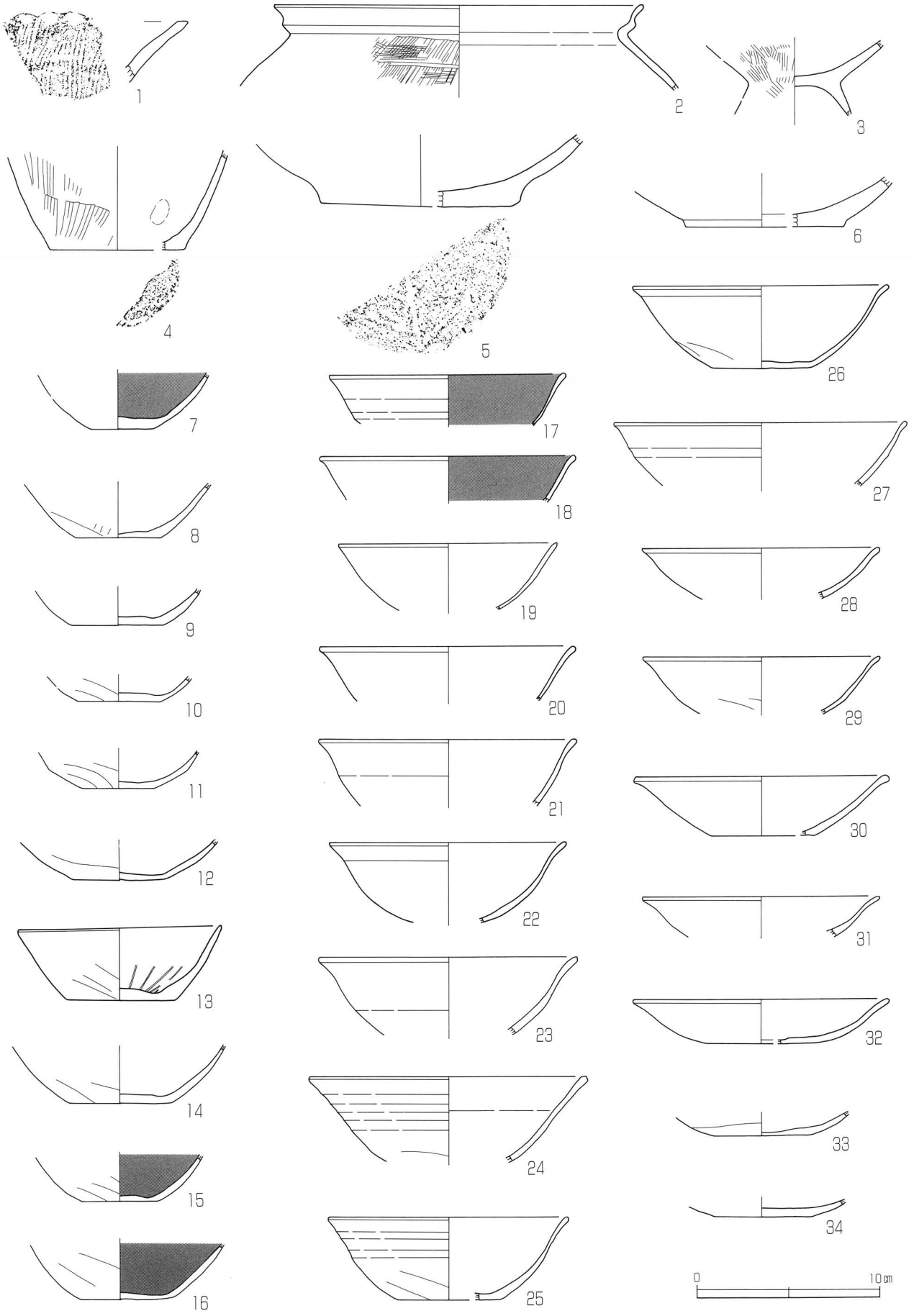

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
0
10cm

図2　出土遺物（1）

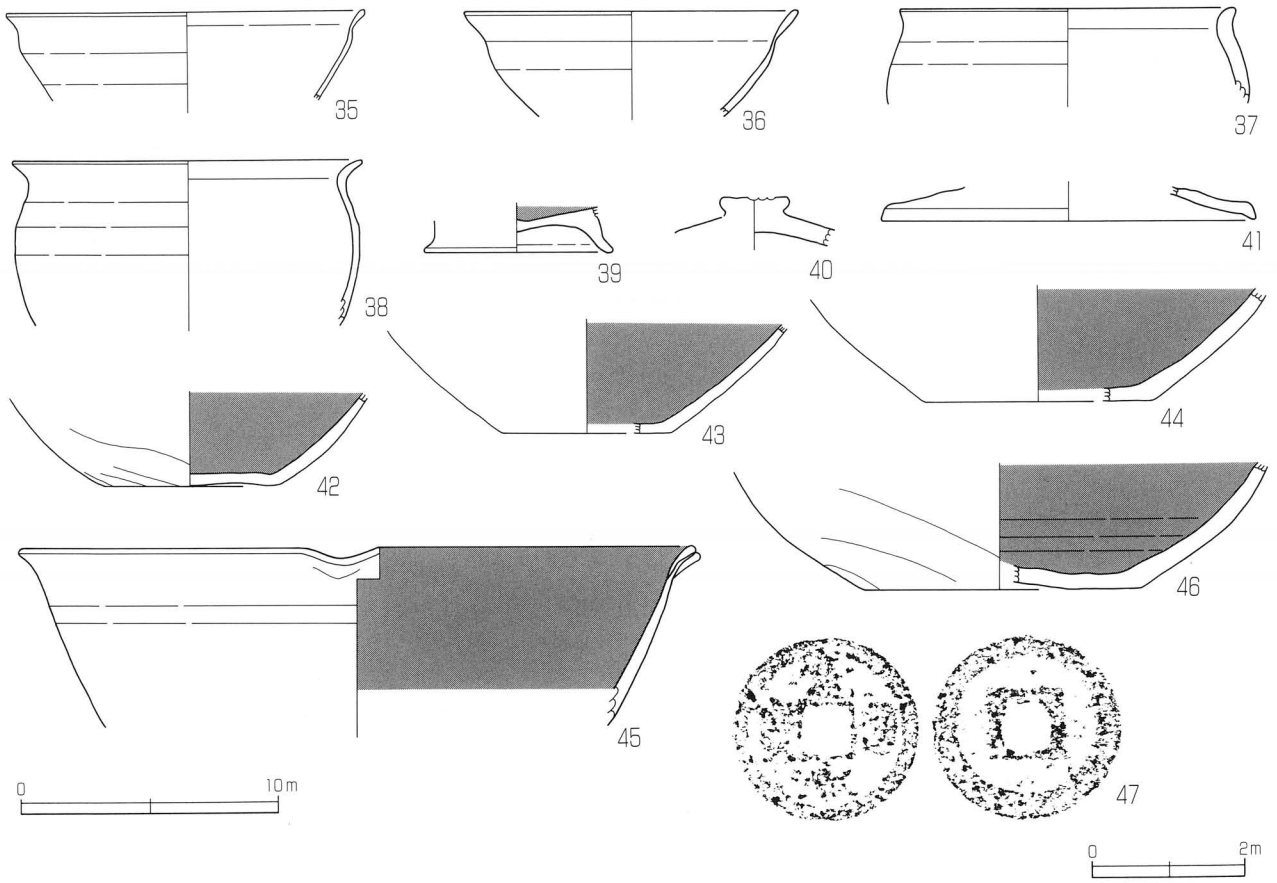


表1　大坪遺跡（第5次）出土遺物観察表

( )復元値、単位（cm）

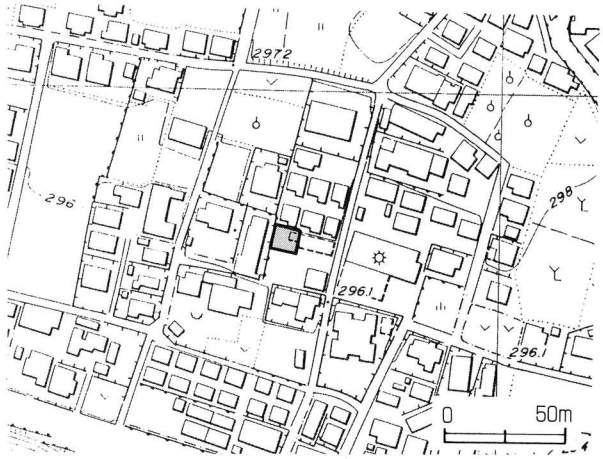
番号	種別 産地	器種	法量（cm） 口径・器高・底径	部位	調整など	胎土	焼成	色調	備考
1	土器	甕か	－・－・－	口縁部	内面ナデ 外面ハケ	長石・石英・雲母	良	内)10YR 灰黄褐 6/2 外)10YR 黒褐 3/1	
2	土器	台付甕	(20.0)・－・－	口縁部～ 胴部	内面ナデ 外面ハケ	長石・石英・金雲母	良	内)10YR 褐灰 4/1 外)5YR 橙 7/6	
3	土器	台付甕	－・－・－	脚部	内面ナデ 外面ハケ	長石・石英・雲母	良	10YR にぶい黄橙 6/4	
4	土器	甕か	－・－・(7.4)	底部	内面指頭痕 外面ハケ	長石・石英・雲母・金雲母	良	内)5YR 明赤褐 5/6 外)7.5YR 褐 4/3	底部に木葉痕
5	土器	甕か	－・－・(10.8)	底部	ナデ	長石	良	内)7.5YR にぶい橙 7/4 外)5YR 橙 7/6	底部に木葉痕
6	土器	坏	－・－・8.7	底部	ナデ	長石・石英	良	内)7.5YR 浅黄橙 8/4 外)5YR 橙 6/6	
7	土器	坏	－・－・3.4	体部～ 底部	ナデ	赤色粒子	良	内)10YR 灰白 7/1 外)7.5YR 橙 7/6	内面黒色
8	土器	坏	－・－・(4.6)	体部～ 底部	内面ナデ 外面ケズリ	赤色粒子	良	7.5YR 浅黄橙 8/4	
9	土器	坏	－・－・(5.0)	底部	ナデ	長石・赤色粒子	良	10YR 灰黄褐 6/2	
10	土器	坏	－・－・(4.5)	底部	内面ナデ 外面ケズリ	密	良	7.5YR 灰白 8/2	
11	土器	坏	－・－・(4.0)	底部	内面ナデ 外面ケズリ	赤色粒子	良	内)7.5YR 灰白 8/2 外)7.5YR 橙 6/6	
12	土器	坏	－・－・5.2	底部	内面ナデ 外面ケズリ	赤色粒子	良	10YR 灰白 8/2	
13	土器	坏	11.0・4.0・5.9	口縁部～ 底部	内面ナデ 外面ケズリ	金雲母	良	内)7.5YR 橙 6/6 外)7.5YR 明褐 5/6	
14	土器	坏	－・－・(5.6)	底部	内面ナデ 外面ケズリ	密	良	内)7.5YR 橙 6/6 外)7.5YR にぶい橙 7/4	

表２　大坪遺跡（第５次）出土遺物観察表

( )復元値、単位（cm）

番号	種別 産地	器種	法量(cm) 口径・器高・底径	部位	調整など	胎土	焼成	色調	備考
15	土器	坏	－ ・ － ・ (4.2)	底部	内面ナデ 外面ケズリ	赤色粒子	良	内)10YR 黒褐 3/1 外)10YR 灰白 8/2	内面黒色
16	土器	坏	－ ・ － ・ 5.2	体部～ 底部	内面ナデ 外面ケズリ	密	良	内)10YR 黒褐 3/1 外)7.5YR 橙 7/6	内面黒色
17	土器	坏	(13.0)・ － ・ －	口縁部～ 体部	ナデ	密	良	内)10YR 黒褐 3/1 外)7.5YR 浅黄橙 8/3	内面黒色
18	土器	坏	(4.0)・ － ・ －	口縁部～ 体部	ナデ	赤色粒子	良	内)7.5YR 黒褐 3/1 外)7.5YR にぶい橙 7/4	内面黒色
19	土器	坏	(12.0)・ － ・ －	口縁部～ 体部	ナデ	密	良	10YR 灰白 8/2	
20	土器	坏	(14.0)・ － ・ －	口縁部～ 体部	ナデ	赤色粒子	良	内)7.5YR にぶい橙 6/4 外)10YR 灰黄褐 5/2	
21	土器	坏	(14.0)・ － ・ －	口縁部～ 体部	ナデ	赤色粒子	良	5YR 橙 6/6	
22	土器	坏	(13.0)・ － ・ －	口縁部～ 底部	ナデ	長石・赤色粒子	良	7.5YR にぶい橙 7/4	
23	土器	坏	(14.0)・ － ・ －	口縁部～ 体部	ナデ	長石・石英	良	10YR 灰白 8/2	
24	土器	坏	(15.0)・ － ・ －	口縁部～ 体部	ナデ	長石	良	10YR 灰白 8/2	
25	土器	坏	(13.0)・(4.5)・(5.6)	口縁部～ 底部	ナデ	長石	良	内)5YR 明赤褐 5/6 外)7.5YR にぶい橙 7/4	
26	土器	坏	(14.0)・(4.55)・ 5.3	口縁部～ 底部	内面ナデ 外面ケズリ	赤色粒子	良	内)2.5Y 灰白 8/1 外)7.5YR 橙 6/6	
27	土器	坏	(14.0)・ － ・ －	口縁部～ 体部	ナデ	赤色粒子	良	10YR 灰白 8/1	
28	土器	坏	(13.0)・ － ・ －	口縁部～ 体部	ナデ	赤色粒子	良	5YR 橙 7/6	
29	土器	坏	(13.0)・ － ・ －	口縁部～ 体部	内面ナデ 外面ケズリ	赤色粒子	良	内)5YR 橙 7/6 外)7.5YR 浅黄橙 8/3	
30	土器	坏	(13.6)・(3.25)・(5.7)	口縁部～ 底部	ナデ	石英	良	10YR 灰白 8/2	
31	土器	坏	(13.0)・ － ・ －	口縁部～ 体部	ナデ	密	良	7.5YR にぶい橙 7/4	
32	土器	坏	(14.0)・(2.4)・(6.0)	口縁部～ 底部	ナデ	赤色粒子	良	7.5YR 浅黄橙 8/4	
33	土器	坏	－ ・ － ・ 5.1	底部	内面ナデ 外面ケズリ	密	良	7.5YR 浅黄橙 8/4	
34	土器	坏	－ ・ － ・ 5.1	底部	ナデ	赤色粒子	良	5YR 橙 6/6	
35	土器	坏	(14.0)・ － ・ －	口縁部～ 体部	ナデ	密	良	10YR 浅黄橙 8/3	
36	土器	坏	(13.0)・ － ・ －	口縁部～ 体部	ナデ	赤色粒子	良	5YR 橙 6/6	
37	土器	壺	(13.0)・ － ・ －	口縁部～ 胴部	ナデ	赤色粒子	良	7.5YR 橙 6/6	
38	土器	壺	(13.0)・ － ・ －	口縁部～ 体部	ナデ	赤色粒子	良	7.5YR 灰白 8/1	
39	土器	不明	－ ・ － ・ 7.4	脚部	ナデ 内面黒色	赤色粒子	良	内)10YR 黒褐 3/1 外)7.5YR にぶい橙 7/4	
40	土器	坏蓋	－ ・ － ・ 2.6	宝珠	ナデ	赤色粒子	良	内)7.5YR 浅黄橙 8/3 外)7.5YR にぶい褐 5/4	
41	土器	坏蓋	(14.6)・ － ・ －	口縁部～ 体部	ナデ	赤色粒子	良	7.5YR 浅黄橙 8/4	
42	土器	坏	－ ・ － ・ (6.6)	体部～ 底部	内面ナデ 外面ケズリ	長石・石英	良	内)10YR 黒 2/1 外)10YR 灰白 8/2	内面黒色
43	土器	坏	－ ・ － ・ (6.6)	体部～ 底部	ナデ	赤色粒子	良	内)10YR 黒褐 3/1 外)5YR 橙 7/6	内面黒色
44	土器	坏	－ ・ － ・ (9.0)	体部～ 底部	ナデ	長石・石英・赤色粒子	良	内)10YR 黒褐 3/1 外)7.5YR 浅黄橙 8/3	内面黒色
45	土器	坏	(26.0)・ － ・ －	口縁部～ 体部	ナデ	赤色粒子	良	内)10YR 黒褐 3/1 外)7.5YR にぶい橙 7/4	内面黒色
46	土器	坏	－ ・ － ・(10.8)	体部～ 底部	内面ナデ 外面ケズリ	赤色粒子	良	内)10YR 黒褐 3/1 外)5YR 橙 7/6	
47	銭貨	寛永通寶	直径 2.5 ・ 穿径 0.62 ・ 厚さ 0.14	－	－	－	－	－	

10 緑が丘二丁目遺跡（第３次）



調査位置　甲府市緑が丘二丁目893-1、-5、-12
調査原因　個人住宅建設
対象面積　180.25㎡
調査面積　８㎡
調査期間　平成６年10月18日～10月24日
調査担当　平塚洋一

遺跡の立地

緑が丘二丁目遺跡は、甲府盆地の北縁の一端を形成する湯村山・法泉寺山の南麓に所在する。緑が丘スポーツ公園造成の際大規模な造成が行われており、遺跡の全体像を把握するのは難しいと思われる。『甲府市史』資料編１によると、造成の際に出土したと思われるものに、縄文時代前期後葉から後期初頭の土器、及び弥生時代後期末の土器がある。今回の調査地点は標高294ｍ付近に位置する。

調査の概要

２ｍ四方の試掘坑を東西に２箇所設定し調査を行った。地表から約40cmまでは表土が堆積し、それより下層には黒褐色粘土が堆積していた。東側に設定した試掘坑では地表から60cmの深さの黒褐色粘土層から、古墳時代前期の土器片数点と人骨が検出できた。

検出された人骨の姿勢は、両足を折り曲げた屈葬で、いわゆる北頭西面の姿勢で検出された人骨の周囲には明確な掘り込みは確認できなかったが、中世の土坑墓と想定される。また、出土人骨に伴うものではないが、古墳時代前期の土器も数点出土している。

西側に設定した試掘坑からも、地表から60cm下層付近から土器片が数点出土したため、数回にわたり精査を行ったが、遺構は確認できなかった。そのため、試掘坑の北側半分をさらに地表から100cm付近まで掘り下げ、地層の変化の状況について調査を行った。しかし、土器片も出土しなくなり湧水し、調査が困難となったため、試掘調査を終了した。

ま　と　め

緑が丘二丁目遺跡のすぐ北には金剛福聚山法泉寺が所在する。法泉寺は『甲斐国社記寺記』によると元徳・元弘年間（1329－1334）に武田信武が開基となり創建され、信玄の頃府中五山の一つとして庇護を受けていた。法泉寺の最盛期に寺域がどこまで広がっていたのか詳細は不明であるが、今回出土した人骨は、法泉寺に関係する墓地の一つである可能性も考えられる。

（平塚洋一）

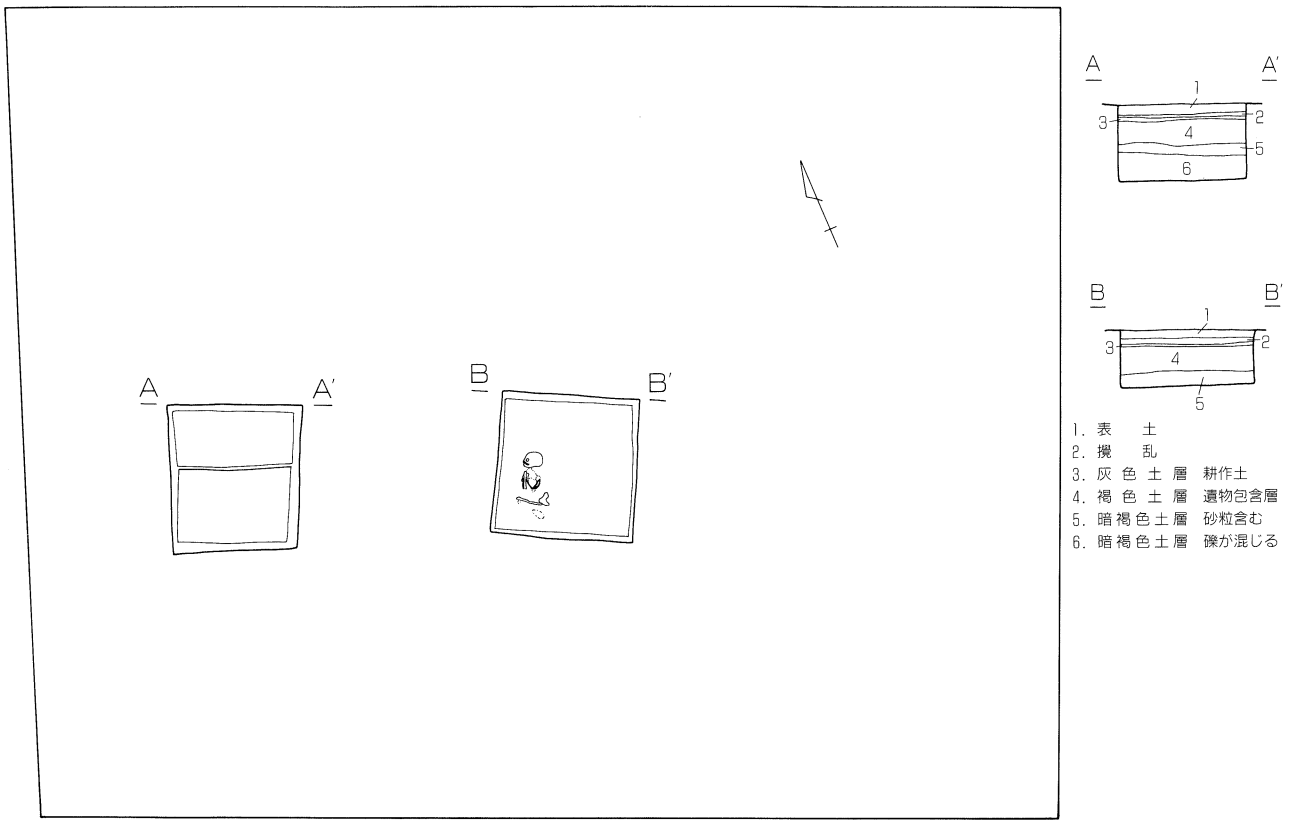


図1　試掘坑配置図

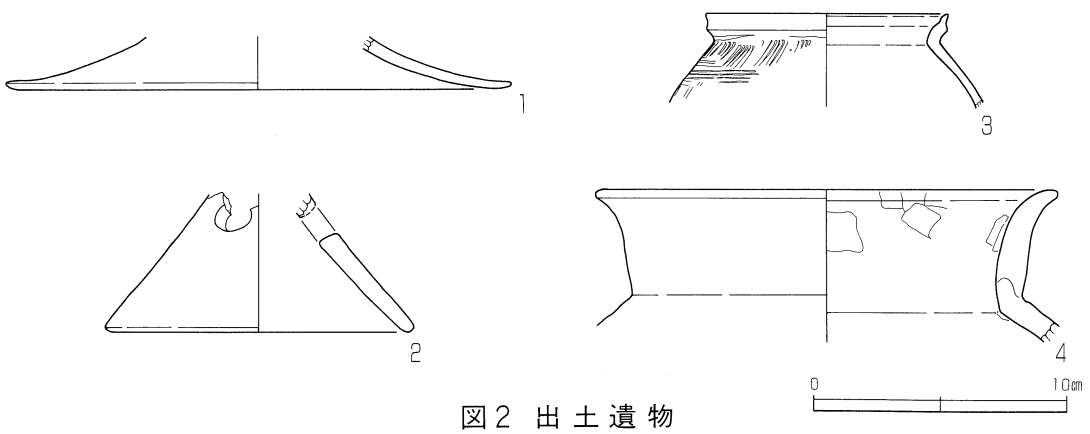


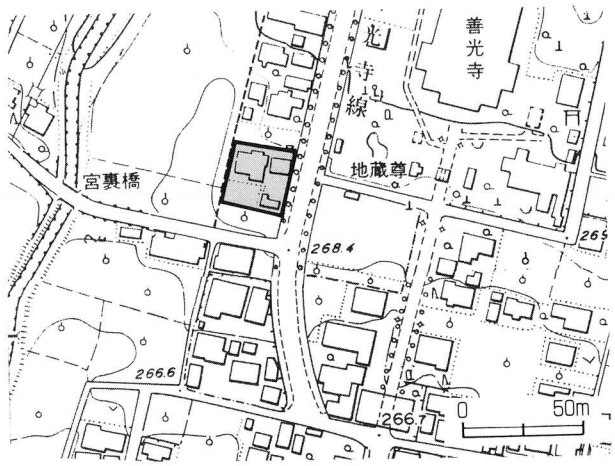
図2　出土遺物

表1　緑が丘二丁目遺跡（第3次）出土遺物観察表

( )復元値、単位（cm）

番号	種別 産地	器種	法量(cm) 口径・器高・底径	部位	調整など	胎土	焼成	色調	備考
1	土器	高坏	－・－・(19.7)	脚部	ナデ	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	5YR 橙 6/6	
2	土器	高坏	－・－・(11.7)	脚部	摩耗にて不鮮明	長石・赤色粒子	良	7.5YR 橙 6/6	
3	土器	台付甕	(9.5)・－・－	口縁部～胴部	内面ナデ 外面ハケ	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	10YR 浅黄橙 8/4	
4	土器	甕	(17.8)・－・－	口縁部～頸部	ナデ	長石・石英・赤色粒子	良	5YR 橙 6/6	

11 宮の脇A遺跡



調査位置　甲府市善光寺二丁目2739－1
調査原因　物置・車庫建設
対象面積　590.89㎡
調査面積　4㎡
調査期間　平成6年10月19日
調査担当者　兒玉好美

調査の概要

大笠山と八人山の間に開析された高倉川扇状地の扇端部に位置し、標高約266mを測る。扇状地のほぼ中央部を南流する高倉川と大円川に挟まれ、周辺には縄文時代～中世に至る遺跡が数多く存在する。また、扇状地北部の北原古墳群をはじめ、周辺には善光寺無名塚、ポンポコ塚といった数多くの古墳が存在する。

宮の脇遺跡は昭和61年度に調査が行われており、近世以降の土器や陶磁器の破片を伴う集石遺構が確認されている。しかし、高倉川の氾濫や耕作による撹乱を受けた可能性も考えられ、遺跡の詳細は不明である（『甲府市内遺跡Ⅰ』甲府市教育委員会　2004）。

調査は敷地中央部に2×2mの試掘坑を設定し、重機により地表から1mまで掘り下げ埋蔵文化財を確認した。

遺　　構

遺構は検出されなかった。基本層序は次の通りである。

Ⅰ層　茶褐色土層
Ⅱ層　黒褐色土層　粒子が細かく粘性あり。
Ⅲ層　褐色土層　粒子が細かく粘性強い。水分含む。

遺　　物

遺物の出土はなかった。　（鈴木由香）

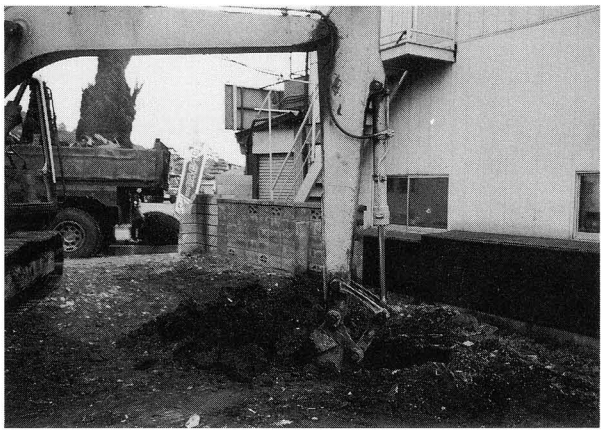


写真1　調査風景

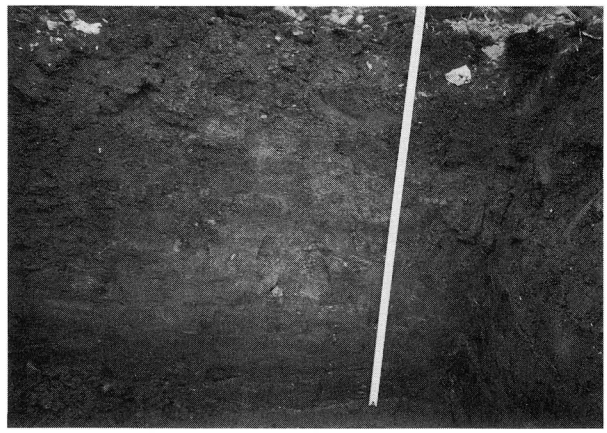
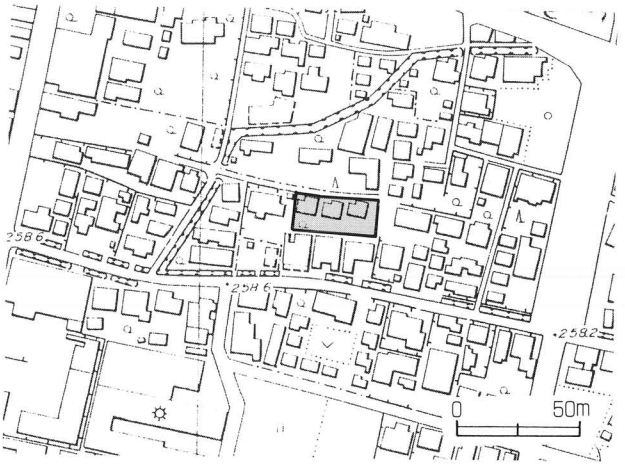


写真2　土層堆積状況

12 朝気遺跡（第10次）



調査位置　甲府市朝気三丁目71-1、2、3、4
調査原因　宅地造成
対象面積　734.63㎡
調査面積　12㎡
調査期間　平成６年11月１日～11月７日
調査担当　平塚洋一

遺跡の立地

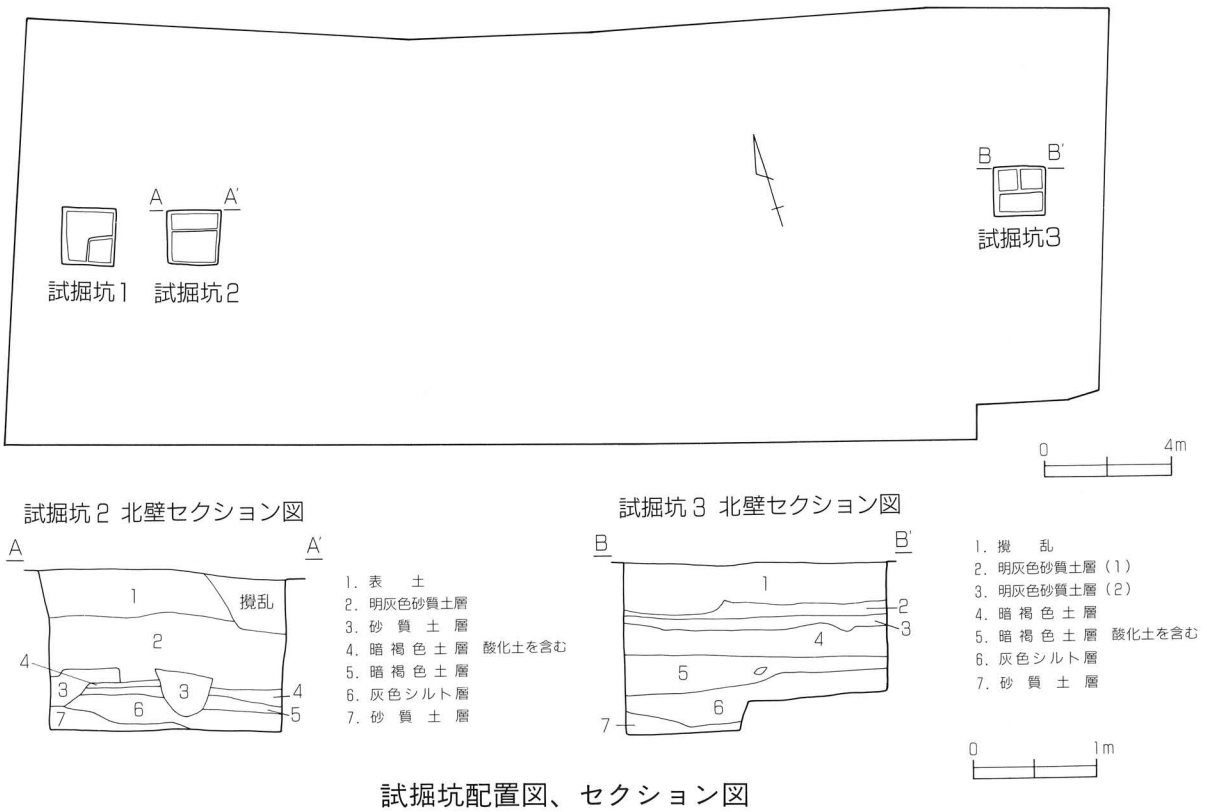
調査地点は濁川右岸約1.3㎞、標高258ｍに位置する。朝気遺跡は縄文時代から平安時代にかけての複合遺跡として知られ、当地域が『倭名類聚抄』に記載される巨摩郡青沼郷の中心的集落だったことが推定されている。

調査の概要

調査地点は朝気遺跡として括られた範囲の中でも南西隅にあたる。２ｍ四方の試掘坑を３箇所設定し調査を行った。西側及び中央の試掘坑は地表から約150㎝、東側の試掘坑は地表から約120㎝掘削した砂層で湧水し始める。出土遺物は認められなかった。

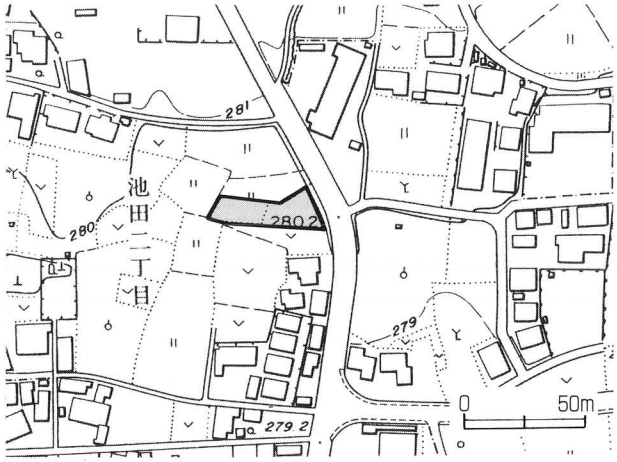
ま　と　め

大規模な集落遺跡である朝気遺跡であるが、今回の調査地点までは集落が展開しなかったことが想定できる。　（平塚洋一）



試掘坑配置図、セクション図

13 前田遺跡



調査位置　甲府市池田二丁目285－１他
調査原因　個人住宅建設
対象面積　800.64㎡
調査面積　８㎡
調査期間　平成６年11月７日～10日
調査担当者　兒玉好美

調査の概要

甲府市西部に位置し、標高約280ｍを測る。東側約900ｍには荒川が南流する。周辺には居村村上遺跡、豆田遺跡が点在するが、地元住民の話によると明治時代に調査区北側の堤が決壊して以来湿地帯となっていた。また、昭和初期には東側の堤が決壊し、一帯が流されている。平成５、６年度に実施した周辺の豆田遺跡の調査においても砂礫が地表から1.5ｍ以上堆積している状況が確認され、荒川の氾濫原であったことが推定される（『甲府市内遺跡Ⅰ』甲府市教育委員会　2004）。

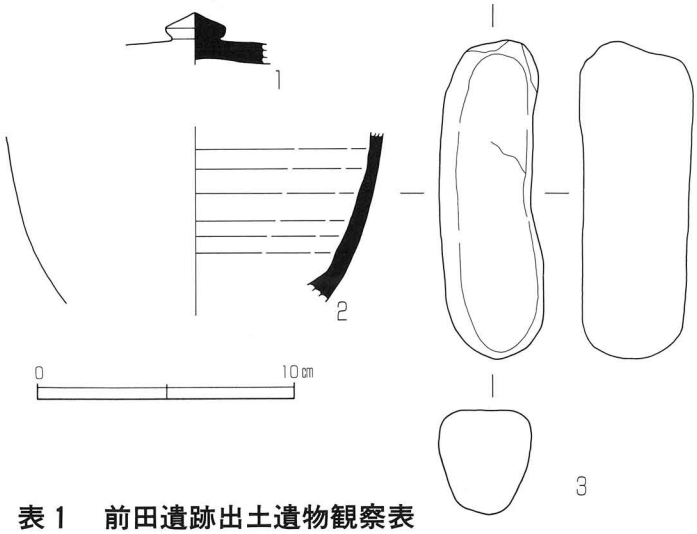
調査は建物予定地に２×２ｍの試掘坑を２箇所設定し、地表から２ｍ掘り下げた。

遺　　構

遺構は確認されなかった。

遺　　物

出土遺物の多くは摩耗した土師器小片で、図示できたものは３点のみである。１は須恵器蓋のつまみ部分、２は須恵器甕の胴部である。３は砥石と思われる。



ま　と　め

周辺は荒川の氾濫原であり、遺構確認には至らなかった。　（鈴木由香）

表１　前田遺跡出土遺物観察表

（ ）復元値、単位（cm）

番号	種別 産地	器種	法量（cm） 口径・器高・底径	部位	調整など	胎土	焼成	色調	備考
1	須恵器	蓋	－・－・－	つまみ	ロクロ	密	良	2.5YR 黄灰 6/1	
2	須恵器	甕	－・－・－	胴部	ロクロ	密	良	N 灰白 4/	
3	石製品	砥石	長さ・幅・厚さ 12.5・3.8・4.1	－	－	－	－	－	

14 緑が丘二丁目遺跡（第４次）

調査位置　甲府市和田町708の一部、709、710-1、712-1
調査原因　宅地造成
対象面積　1,080㎡
調査面積　20㎡
調査期間　平成６年11月８日～11月15日
調査担当　平塚洋一

遺跡の立地

今回の調査地点は、甲府盆地の北縁の一端を形成する湯村山・法泉寺山の麓に所在し、標高300ｍに位置する。緑が丘二丁目遺跡として括られた範囲のなかでも北側に位置し、今回の調査は遺跡の北側への広がりを確認する機会でもあった。

調査の概要

２ｍ四方の試掘坑を、４区画に分譲される予定地に各１箇所ずつ設定し調査を行った。南西隅に設定した試掘坑４から古墳時代後期の土器が出土したため、この坑のみ南北に２ｍ拡張し調査を行った。

調査の結果東側に設定した試掘坑は、２つとも地表から１ｍ掘り下げ検出した自然堆積土（青灰色砂質土）に達し、遺構は全く検出できなかった。また出土遺物も土師器小片が数点出土しただけであった。

北西に設定した試掘坑３は、20cmの盛土が施され、更に約100cm掘削したところで自然堆積層に達した。遺構・遺物ともに検出できなかった。

南東に設定した試掘坑４は、地表から50cm下の地層から土器片が出土し始め、65cm下の地層からほぼ完形の土師器坏が出土した。南側に２ｍ幅で拡張し調査を行った。結果、地表から85cm下層から土師器甕等の古墳時代の土器が出土した。しかし、明確な遺構は検出できなかった。

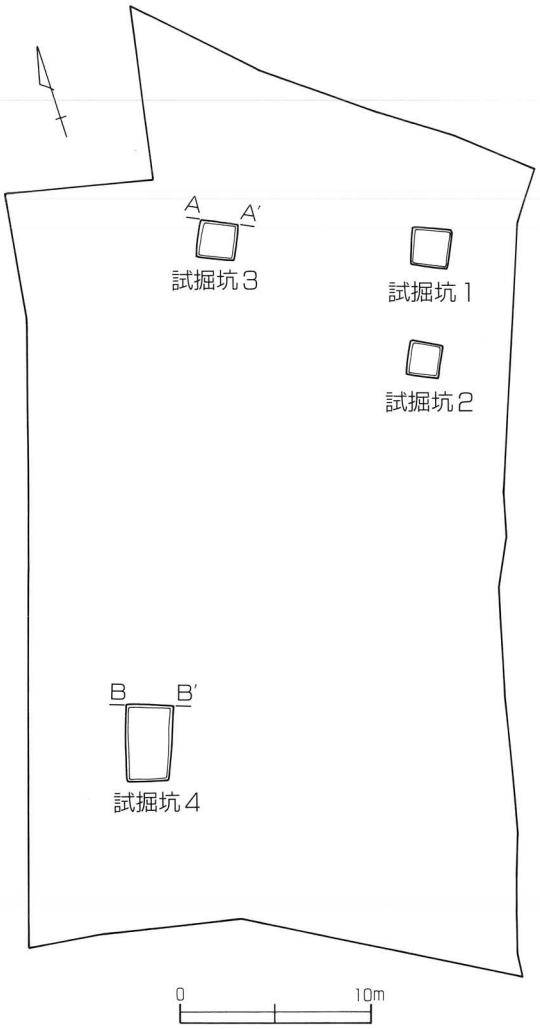
出土遺物

出土した土器は、古墳時代後期末葉を中心とした一群が中心となる。坏類は口縁部に稜を持つ、須恵器坏蓋を模倣して逆転した形態のものが出土している。

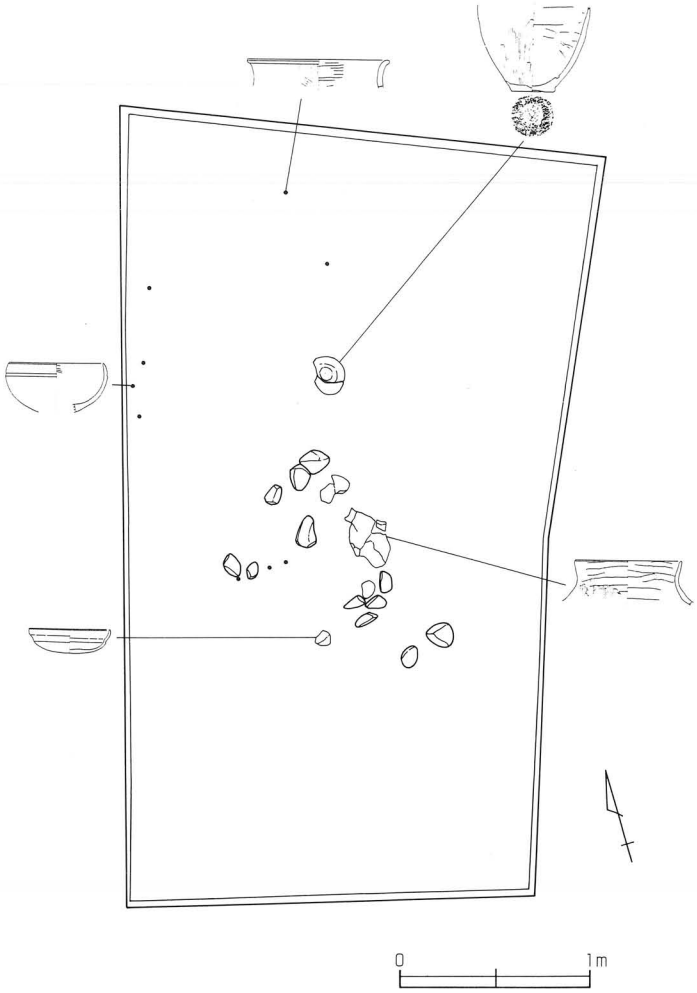
まとめ

今回の試掘調査により本遺跡の北への広がりが、和田町のこの地点まで展開することが確認できた。周辺の調査では縄文時代中期後半の土器や弥生時代末葉の土器の土器も出土しているため、かなり早い時期から集落が営まれたことが想定される遺跡ではあるが、試掘確認調査が「虫食い状」に行われているだけで、大規模に面的な発掘調査が未だ実施されていないことが残念である。今後の発掘調査により緑が丘二丁目遺跡の全容が解明されることが望まれる。

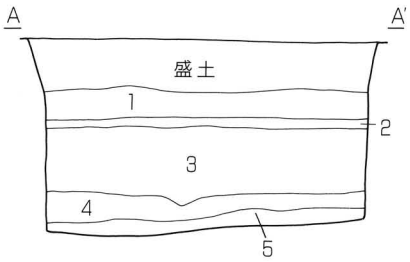
（平塚洋一）



試掘坑4　遺物出土状況

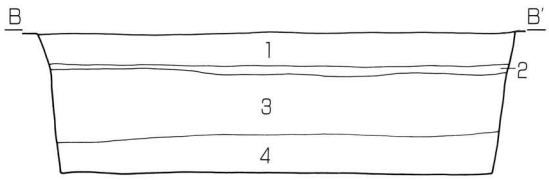


試掘坑3 北壁セクション図



1. 耕 作 土
2. 床　　土
3. 灰 色 粘 土 層（黄色土混入）
4. 暗褐色粘土層
5. 暗褐色粘土層　砂粒多く含む

試掘坑4 北壁セクション図



1. 耕 作 土
2. 床　　土
3. 灰 色 粘 土 層（黄色土混入）
4. 暗褐色粘土層

図1　試掘坑配置図、セクション図

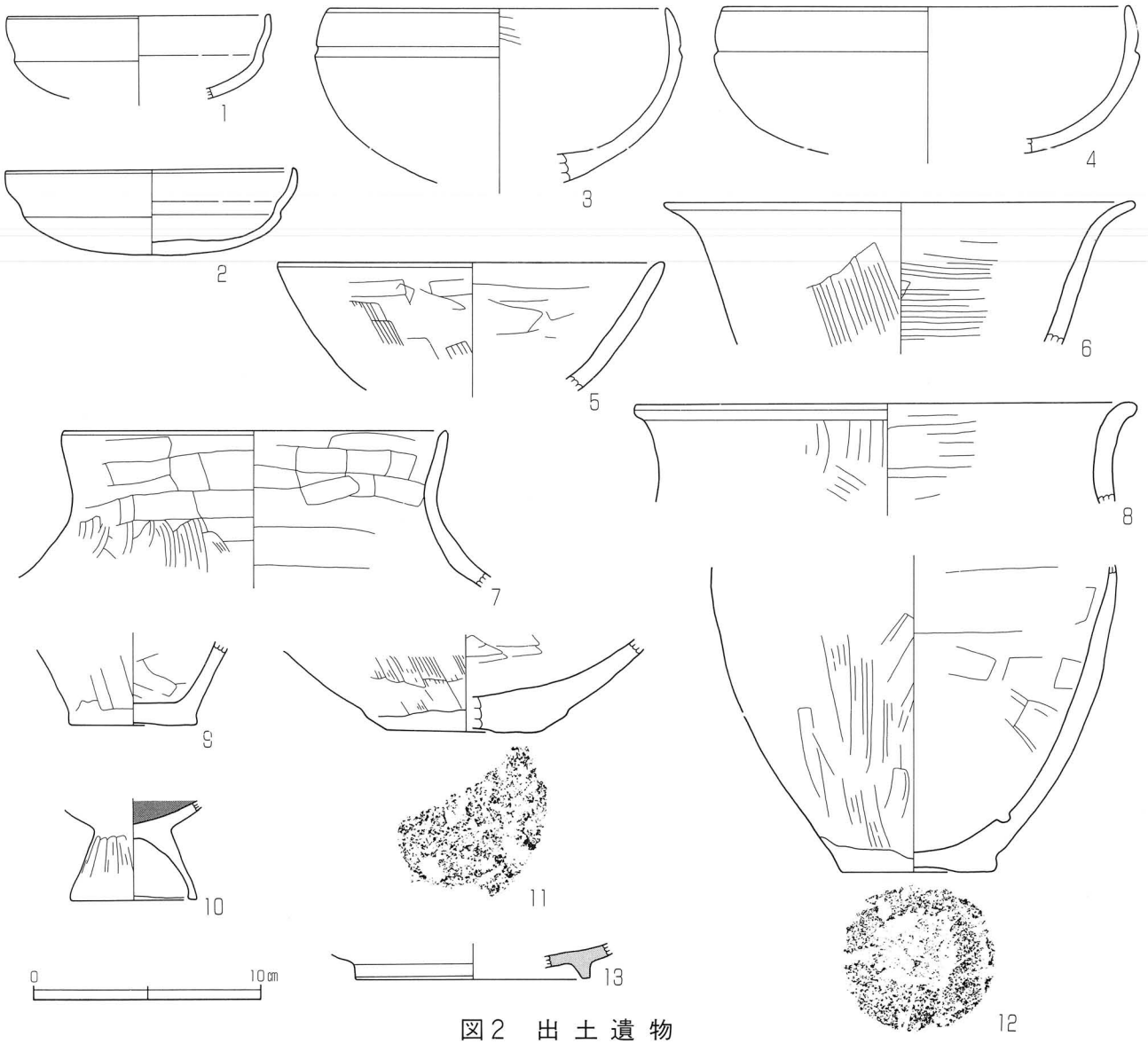


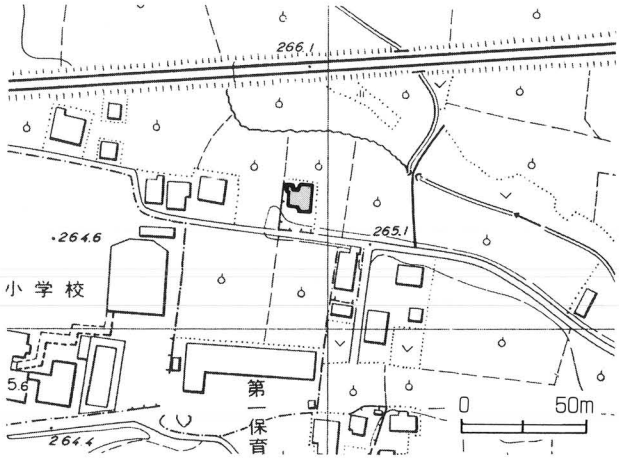
図2　出土遺物

表1　緑が丘二丁目遺跡（第4次）出土遺物観察表

( )復元値、単位（cm）

番号	種別 産地	器種	法量（cm） 口径・器高・底径	部位	調整など	胎土	焼成	色調	備考
1	土器	坏	(11.6)・－・－	口縁部～体部	ナデ	赤色粒子	良	7.5YR にぶい橙 7/4	
2	土器	坏	12.8・3.8・－	口縁部～底部	ナデ	長石・石英・赤色粒子	良	5YR 橙 6/6	
3	土器	埦	(14.8)・－・－	口縁部～体部	ナデ	長石・石英	良	内)10YR 褐灰 4/1 外)10YR にぶい黄橙 7/3	
4	土器	埦	(18.0)・－・－	口縁部～体部	ナデ	長石・石英・金雲母	良	7.5YR にぶい褐 5/3	
5	土器	坏	(17.0)・－・－	口縁部～体部	内面ナデ 外面ハケ	長石・石英・赤色粒子	良	7.5YR にぶい褐 6/4	
6	土器	甕	(20.7)・－・－	口縁部～胴部	ハケ	長石・石英・赤色粒子	良	7.5YR にぶい褐 6/4	
7	土器	壺	(16.8)・－・－	口縁部～頸部	内面ナデ 外面ハケ	長石・石英・金雲母	良	5YR 橙 6/4	
8	土器	甕か	(22.0)・－・－	口縁部～頸部	ハケ	長石・石英・赤色粒子	良	5YR にぶい赤褐 4/4	
9	土器	不明	－・－・(5.6)	体部～底部	ナデか	長石・石英・雲母	良	5YR 橙 6/6	
10	土器	台付甕	－・－・(5.6)	脚部	内面ナデ 外面ハケ	長石・石英・雲母	良	内)10YR 黒褐 3/1 外)5YR 明赤褐 5/6	内面赤色
11	土器	甕か	－・－・(6.8)	底部	ハケ	長石・石英・赤色粒子	良	内)10YR 黒褐 3/1 外)5YR 橙 6/6	
12	土器	甕	－・－・(6.8)	胴部～底部	内面ナデ 外面ハケ	長石・石英	良	2.5YR 橙 6/6	
13	緑釉陶器	皿	－・－・(10.4)	底部	－	密	良	－	

15 北田遺跡



調査位置　甲府市川田町字亀田114－３・９
調査原因　個人住宅建設
対象面積　260.62㎡
調査面積　８㎡
調査期間　平成６年11月11日～14日
調査担当者　兒玉好美

調査の概要

調査地点は甲府市東部に位置し、標高約265ｍを測る。周辺は縄文時代～中世に至る遺跡が集中し、南側約400ｍには古墳時代前期の方形周溝墓が確認された桜井畑遺跡、西側約１kmには古墳時代～平安時代の集落が確認された大坪遺跡が存在する。また、白鳳期～平安時代にかけて窯業生産地域であったことで知られ、川田瓦窯跡や上土器瓦窯跡が存在する。

調査は建物予定地に２×２ｍの試掘坑を２箇所設定し、約１ｍ掘り下げた。

遺　　構

遺構は検出されなかった。基本層序は次の通りである。

Ⅰ層　茶褐色土層　小礫を含む。
Ⅱ層　灰褐色土層　水分含む。
Ⅲ層　灰褐色土層　鉄分・水分含む。
Ⅳ層　暗褐色土層　水分を含み、粘性・しまりがある。
Ⅴ層　暗褐色土層　茶褐色粒子を含み、しまりがある。
Ⅵ層　黒褐色土層　粘性が強く、しまりがある。

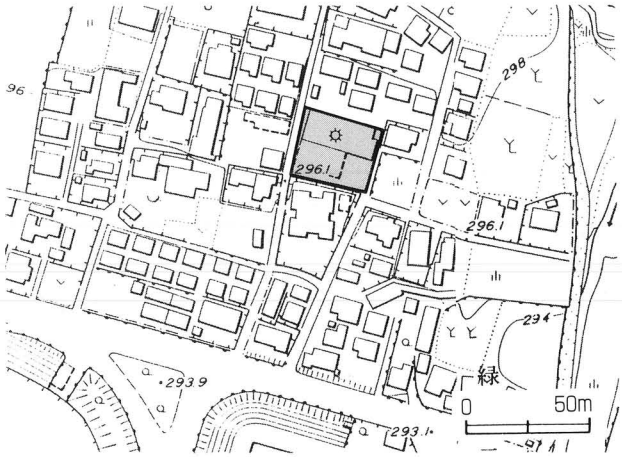
遺　　物

出土遺物はなかった。

ま　と　め

調査区周辺には数多くの遺跡が存在しており、これまでの分布調査等によって北田遺跡と登録された範囲内に位置しているが、遺構は確認されなかった。地元住民の話によると、調査区は瓦の原料となる土を売る為に削っており、遺物包含層と遺構部分が削られている可能性も考えられる。　（鈴木由香）

16 緑が丘二丁目遺跡（第５次）



調査位置　甲府市緑が丘二丁目897-1他
調査原因　宅地造成
対象面積　209.68㎡
調査面積　12㎡
調査期間　平成６年11月16日～11月25日
調査担当　平塚洋一

遺跡の立地

今回の調査地点は、甲府盆地の北縁の一端を形成する湯村山・法泉寺山の麓に所在し、標高296ｍ付近に位置する。道路を挟んだ西側の区画における試掘調査（本報告書の緑が丘二丁目遺跡第３次調査）では、古墳時代前期の土器と中世のものと思われる土坑墓が検出されている。

遺跡の概要

今回の調査は、緑が丘スポーツ公園北側の住宅地の一画で行ったものである。近隣の住民の話によると、試掘調査を実施する以前には自動車の板金工場があったようである。調査区に２ｍ四方の試掘坑を３箇所設定し調査を行った。

調査の結果、地表から50cmまでは工場を解体する際に受けた撹乱層が共通して確認できた。それより下層は、東に設定した試掘坑では地表から100cmまで粘土層、それより下層に拳大から人頭大ほどの礫に砂利が混じる土層が確認できた。また、調査区の北端の部分に長辺が約30cmの石を使用した石列らしきものが確認できた。

中央、西側の両試掘調査坑からは撹乱層より下層は灰色から暗褐色の粘土層が堆積していた。

出土遺物

縄文土器、須恵器、偶蹄目（馬か？）の顎骨が出土した。須恵器と獣骨は地表から約100cmとほぼ同じレベルで出土している。縄文土器は地表から約140cmの地層から出土した。

ま　と　め

今回の試掘調査で出土した須恵器と獣骨は、ほぼ同じレベルで検出され供伴遺物と判断できる。これらは過去の調査事例から、雨乞い等の水に関する祭祀に用いられたのではないか、と考えられる。

これまでの緑が丘二丁目遺跡の調査結果により、古墳時代の土器が数多く出土したことから、古墳時代の集落跡が展開していたことが想定されていた。『甲府市史』に記述のある縄文土器についても、今回の調査で曽利式土器が出土したことにより裏付けられ、緑が丘二丁目遺跡に縄文時代の集落跡が展開したことも想定される。　（平塚洋一）

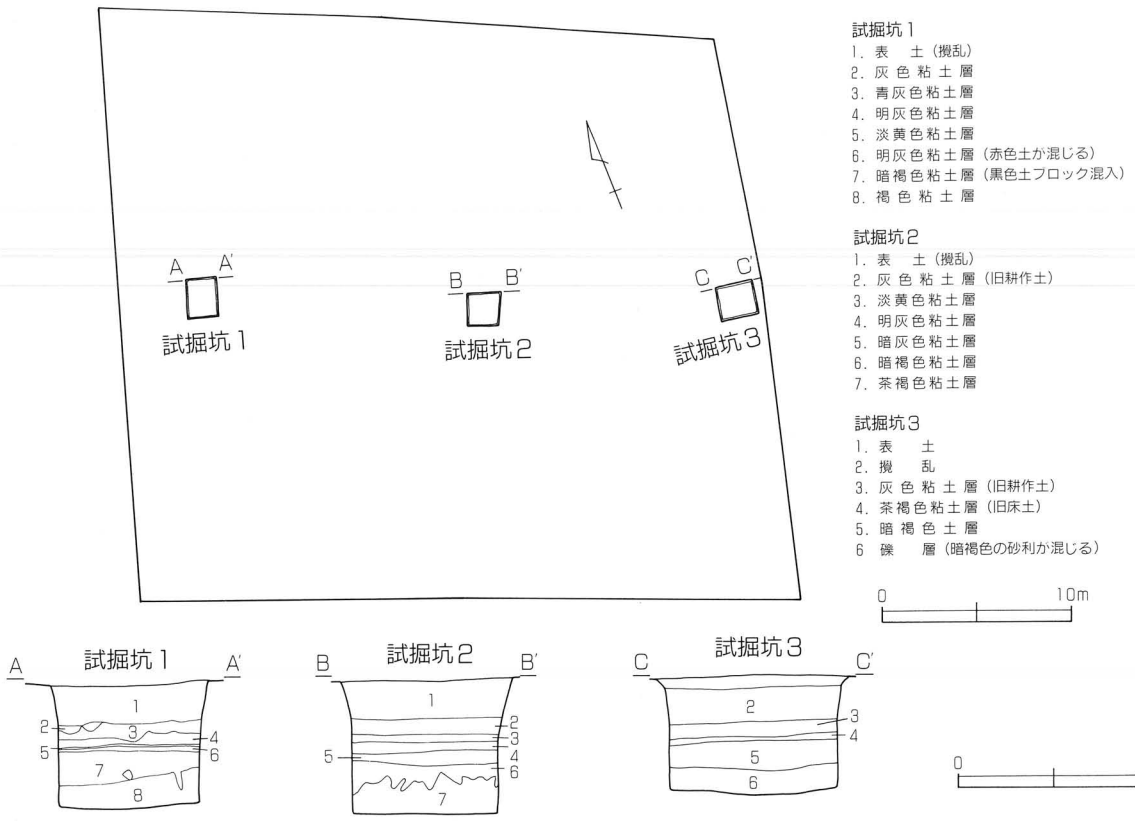


図1　試掘坑配置図、セクション図

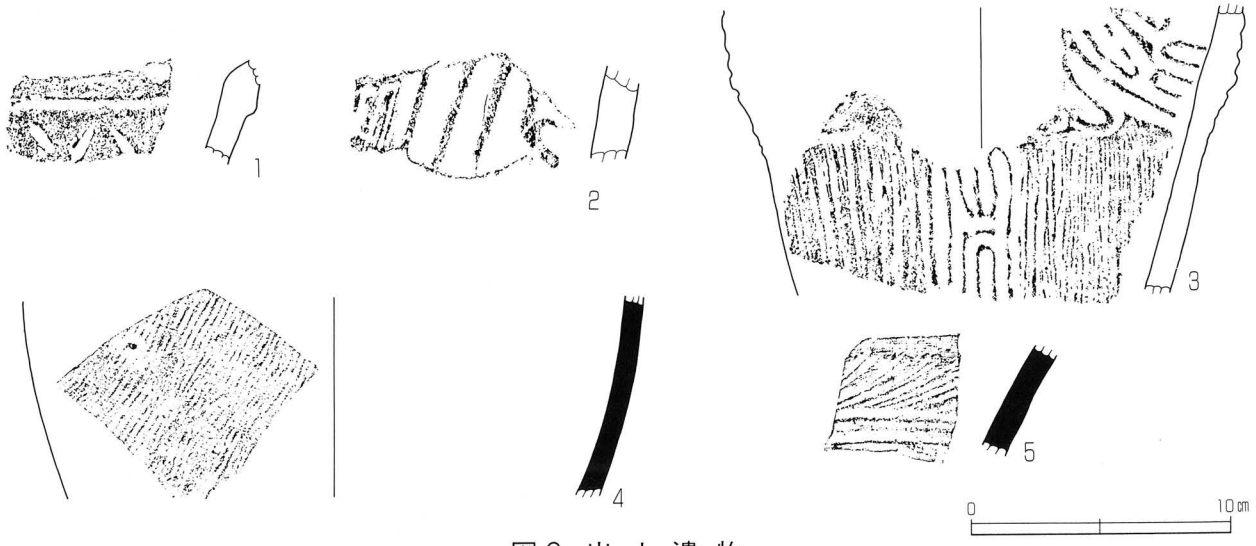


図2 出土遺物

表1　緑が丘二丁目遺跡（第5次）出土遺物観察表

（ ）復元値、単位（cm）

番号	種別 産地	器種	法量（cm） 口径・器高・底径	部位	調整など	胎土	焼成	色調	備考
1	土器	深鉢	―・―・―	頸部か	「ハ」の字文	長石・石英	良	2.5YR 赤褐 4/8	縄文中期後半
2	土器	甕か	―・―・―	胴部	隆線文＋条線文	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	5YR 明赤褐 5/6	縄文中期後半
3	土器	深鉢	(19.5)・―・―	口縁部～胴部	隆線文＋条線文	長石・石英・赤色粒子	良	7.5YR にぶい橙 6/4	縄文中期後半
4	須恵器	甕か	―・―・―	胴部	内面ナデ 外面叩き	長石	良	N 灰 6/	
5	須恵器	甕か	―・―・―	頸部	櫛描文か	長石	良	5PB 明青灰 7/1	

17 緑が丘二丁目遺跡（第６次）

調査位置　甲府市和田町字水口728－１
調査原因　集合住宅建設
対象面積　975㎡
調査面積　16㎡
調査期間　平成６年11月21日～12月８日
調査担当　兒玉好美

調査の概要

調査地点は、昭和60年度に甲府市教育委員会が実施した遺跡分布調査によって範囲が拡大した緑が丘二丁目遺跡に位置する。緑が丘二丁目遺跡は、本地点を含め平成６年度だけで７回に及ぶ調査が行われ、縄文～平安時代に至る遺物が出土している。現在、周辺は住宅地であるが、遺跡内に和田無名墳がかつて存在していた。また、西側約600ｍには湯村山古墳群、南西約800ｍには万寿森古墳が存在する。

調査は２×２ｍの試掘坑を４箇所設定し、約１ｍ掘り下げた。

遺　　構

遺構は検出されなかった。

遺　　物

古墳時代～平安時代の土師器、須恵器、陶器を主とし、モモの種、オニグルミ、ヒメグルミ、クリ等の植物遺体が出土した。また、縄文時代早期と思われる土器片も見られた。

１～３は坏である。１は底部から口縁部にかけての立ち上がりがきつく、厚みが薄い。２・３は器の厚みは薄いものの底部が厚く、ヘラケズリ調整されている。４は口縁部が外傾し、体部は半球形となる古墳時代後期の坏と思われる。５の坏は底部からの立ち上がり部分にふくらみを持ち、底部はヘラケズリ調整している。６の坏は器面にロクロ目を残し、底部が厚くヘラケズリ調整されている。７の坏はやや厚みがあり、器面にはロクロ目を残す。底部はヘラケズリ調整されている。８は高坏の脚部である。部分的に強く火を受けたと思われる箇所が見られる。赤色粒子を多く含み、胎土がやや粗い。９は坏状を呈する手捏ね土器である。長石を多く含み胎土が粗い。10・11は甕の口縁部で、内面・外面にハケ調整が施されている。12は緑釉陶器の皿と思われるが、小片のため詳細な時期や産地を特定するのは困難である。13は灰釉陶器の碗である。体部下半から高台部が無釉である。高台は高めで、底部から畳付がやや内側に湾曲する。14は須恵器の蓋である。15は明の染付皿と思われ、畳付は無釉である。

ま　と　め

遺物の出土のみで、遺構検出には至らなかった。緑が丘二丁目遺跡については数回に及ぶ試掘調査が行われているものの、本地点の出土遺物と同時期の遺構確認には至っていない。しかし、緑が丘二丁目遺跡（第３次）の調査においては中世の土坑墓が発見され、南側に隣接する緑が丘一丁目遺跡（第３次）では、古墳時代後期の土器を伴う土坑等の遺構が確認されている。今回の調査においても祭祀的要素が強いとされる手捏ね土器が出土しており、今後の調査によって本地域における遺構の検出は期待されるところである。

（鈴木由香）

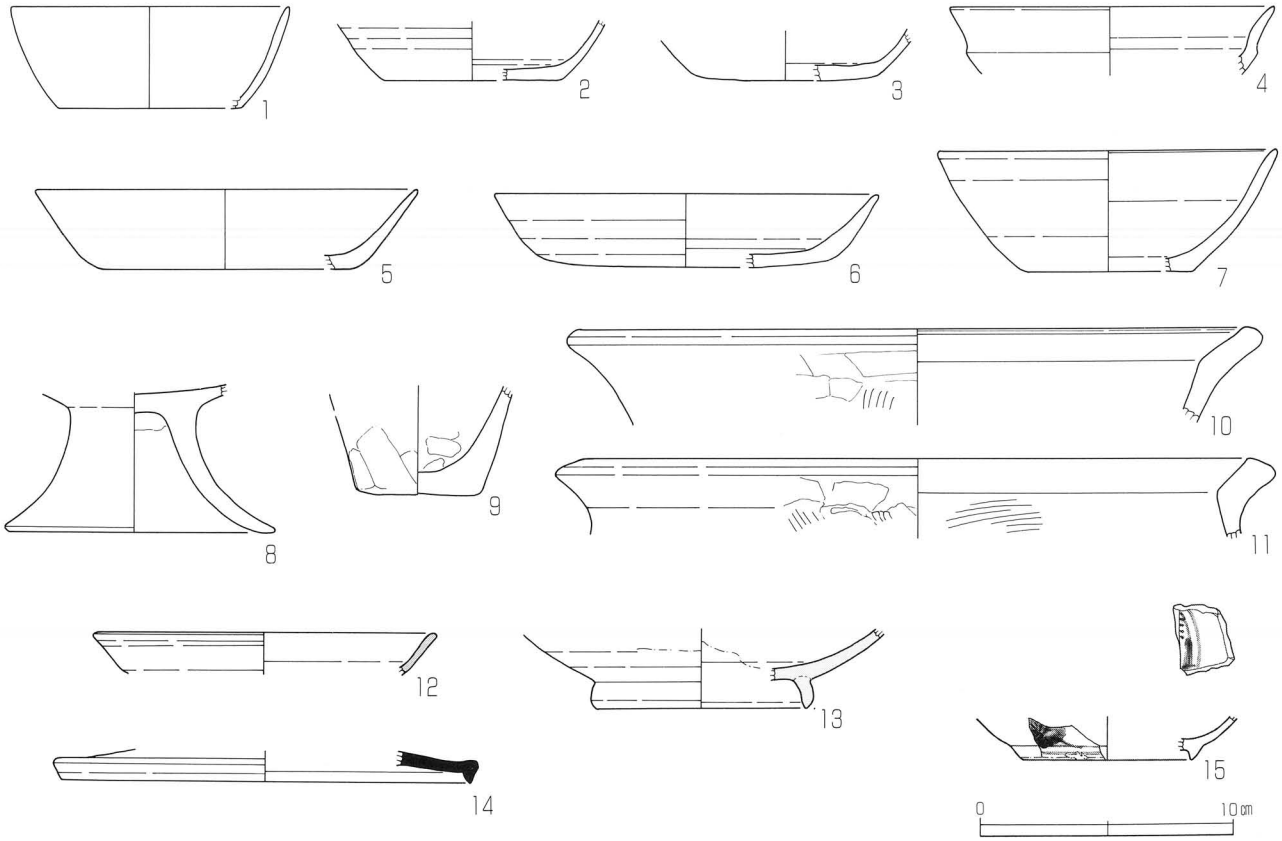


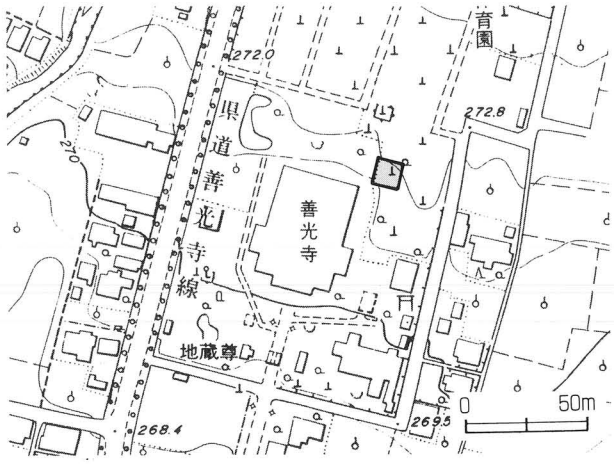
図1　出　土　遺　物

表1　緑が丘二丁目遺跡（第6次）出土遺物観察表

( )復元値、単位（cm）

番号	種別 産地	器種	法量（cm） 口径・器高・底径	部位	調整など	胎土	焼成	色調	備考
1	土器	坏	(10.9)・4.0・(7.3)	口縁部～底部	ロクロナデ	赤色粒子	良	7.5YR にぶい橙 7/4	
2	土器	坏	－・－・6.9	体部～底部	外面ヘラケズリか	赤色粒子	良	7.5YR にぶい橙 7/4	
3	土器	坏	－・－・(7.0)	体部～底部	底部ヘラケズリ	赤色粒子	良	10YR 浅黄橙 8/3	
4	土器	坏	(12.7)・－・－	口縁部～体部	ナデ	赤色粒子	良	10YR にぶい黄橙 7/3	
5	土器	坏	(14.8)・3.1・(9.8)	口縁部～底部	ロクロナデ 底部ヘラケズリか	長石	良	10YR 灰白 8/1	
6	土器	坏	(15.0)・2.9・(11.3)	口縁部～底部	ロクロナデ	長石	良	10YR 浅黄橙 8/3	
7	土器	坏	(13.2)・4.8・(6.6)	口縁部～底部	ロクロナデ	赤色粒子	良	7.5YR にぶい褐 6/3	
8	土器	高坏	－・－・10.0	脚部	ナデ	長石・赤色粒子	良	7.5YR にぶい橙 7/4	
9	土器	不明	－・－・4.8	底部	ナデ	長石・石英・赤色粒子	良	7.5YR にぶい橙 7/4	
10	土器	甕	(26.0)・－・－	口縁部	内面ナデ 外面ハケ	長石・石英	良	2.5YR にぶい赤褐 4/4	
11	土器	甕	(26.0)・－・－	口縁部	ハケ	長石・石英・赤色粒子	良	7.5YR にぶい橙 6/4	
12	緑釉陶器	皿か	(13.0)・－・－	口縁部～体部	－	密	良	－	
13	灰釉陶器	碗	－・－・(8.0)	体部～底部	－	密	良	N 灰白 8/	
14	須恵器	坏蓋	(16.0)・－・－	口縁部～体部	ロクロナデ	密	良	N 灰 6/	
15	磁器	皿か	(6.6)・－・－	体部～底部	染付　畳付無釉	緻密	良	－	中国磁器

18 加藤光泰の墓



調査位置　甲府市善光寺三丁目2678番
調査原因　墓域整備
対象面積　40㎡
調査面積　10㎡
調査期間　平成６年11月21日～12月９日
調査担当　伊藤正幸

調査の概要

甲府市善光寺にある加藤光泰の墓に対し、平成６年、善光寺は墓域の整備を計画した。墓域の周囲にある樹木の根が入ったため、石段の歪みや石垣のはらみ等危険な状態が確認されたことによる。この計画は、解体・掘削を含む大規模なもので、現状を大きく変更するものであった。

加藤光泰は美濃斎藤氏に仕えていたが、斎藤氏の滅亡後は豊臣秀吉に仕え、天正19年（1591）甲斐の領主となった。甲斐入国と同時に、徳川家康の家臣の平岩親吉が縄張りした甲府城の築城に着手したが、その後文禄の役（1592年）に秀吉の代官七人衆の一人として渡鮮し陣中で死亡、甲斐善光寺に埋葬されたと言われる。

これらの状況を踏まえ、甲府市教育委員会では善光寺と協議・調整をし、埋蔵文化財の確認調査を実施することとした。

調査成果

(1)調査方法　調査に着手したのは11月21日である。墓石直下に２ｍ四方の調査グリッドを設定し、人力で掘り下げ調査を行った。墓域の下部構造を確認するため、部分的に拡張し調査を進めた。調査は12月８日に終了し、翌日埋め戻しを終了させた。

(2)層序　全体的に人頭大から拳大の礫が混入し、盛土されたことが確認できた。地表下0.7ｍ程の位置に欅の根（太さ約10㎝）が入り込む。人頭大の礫が顕著に認められるのは地表下0.8ｍから1.2ｍ程の地層であり、北から東の面については地表下0.4ｍ程の位置に拳大の礫が確認できた。土色としては全体的に褐色若しくは明茶褐色を呈し、部分的に黒色の炭化物が散布する。炭化物が散布する面は人頭大の礫の上面にほぼ一致する。

(3)遺構　拡張トレンチを含む調査区から、遺構は検出されなかった。当初想定していた埋葬に伴う掘り込みや、追葬等を示す痕跡は認められなかった。

(4)出土遺物　石造物、陶磁器、土器及び古銭を検出した。

五輪塔（地輪）は蓮台に載せられるように確認されたが中心は若干ずれていた。縦・横・高さとも40㎝を測り、正面には『地』の文字が深々と刻まれ、その両脇には「加藤前遠州太守曹渓院殿月剛宗勝大禅定門於朝鮮国釜山浦逝去因茲彫刻一軀以伸供養者也文禄二年癸巳八月廿九日」の銘が刻まれる。この銘は『甲斐国志』に記述される五輪塔の脇に建てた石碑の銘文と一致する。上面及び底面は丸く彫り窪められている。

その地輪を据えるように置かれていた蓮台は直径56㎝を測り、約25㎝の円形の窪みを有

する。窪みの中には拳大前後の礫が充塡されていた。外面には単弁16葉の蓮弁が刻まれ、丸底を呈する。地輪、蓮台とも上部は深く幅の広い割れ口が確認でき、意図的に割られたことが想定できる。なおこの２つの遺物については、住職の希望もあり、墓域整備工事の際に再埋納した。

土器（図２）土器は11点出土した。いずれも小振りの土師質土器（かわらけ）で、底部に糸切り痕が認められるロクロ成形によるものである。近世以降の所産と考えられる。

陶磁器(図２)　陶器９点、磁器６点が出土した。いずれも小破片ではあるが、それぞれ図示した。

陶器　器形としては、壺・碗・皿・鉢が確認できたが、いずれも破片であった。図14の陶器は鉄釉が施されている。また18～20は擂鉢である。

磁器　碗及び猪口であろう。21を除いては口唇部及び底部の小破片である。21は高台部分から胴部下半までが残存している。いずれも近代以降のものであろう。

古銭(図２)　１枚のみ出土した。元豊通宝と思われる。

ま　と　め

遺構の項目で記述したとおり、埋葬地としての根拠に欠ける。また、今回出土した五輪塔（地輪）が、『甲斐国志』に記述される五輪塔の脇に建てられた石碑として想定されるものの根拠は弱い。いずれにしても碑文から考えると、現存する墓石は後世に建てられた供養塔である可能性が高い。

（伊藤正幸）

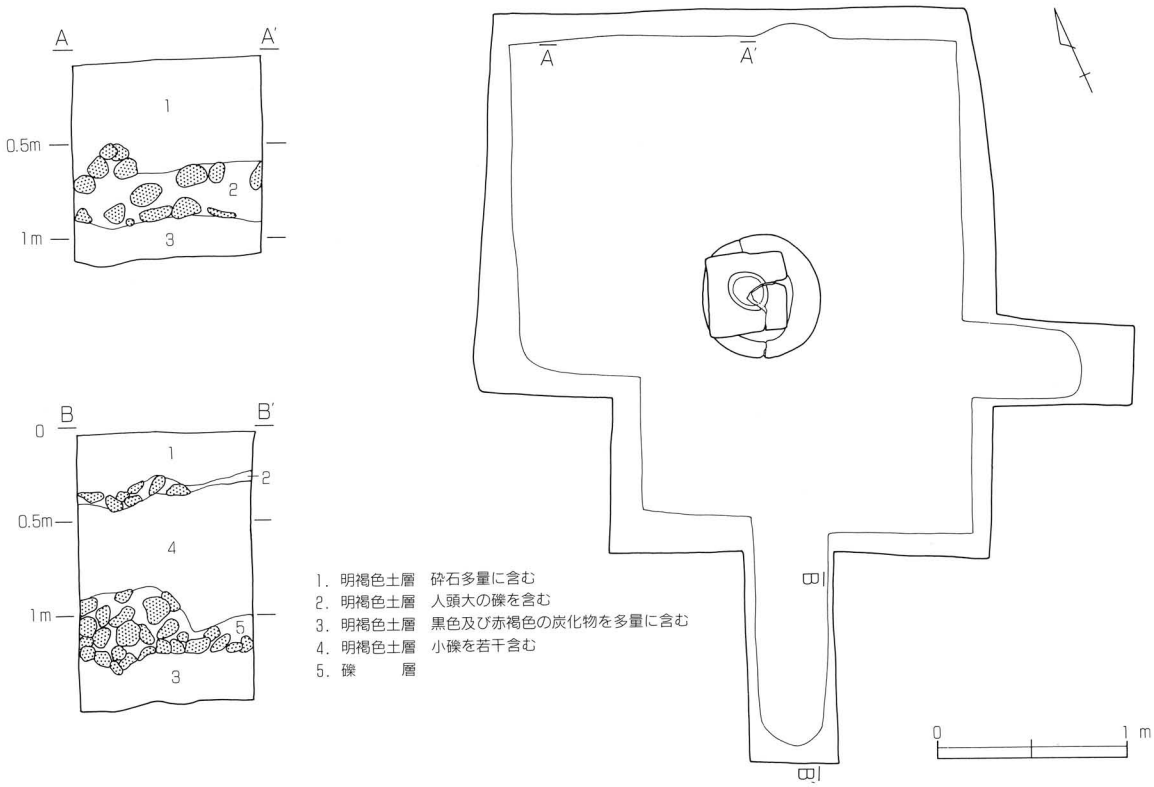


図１　調査区全体図、セクション図

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
0
10cm
0
2cm

図2　出土遺物

表１　加藤光泰の墓出土遺物観察表

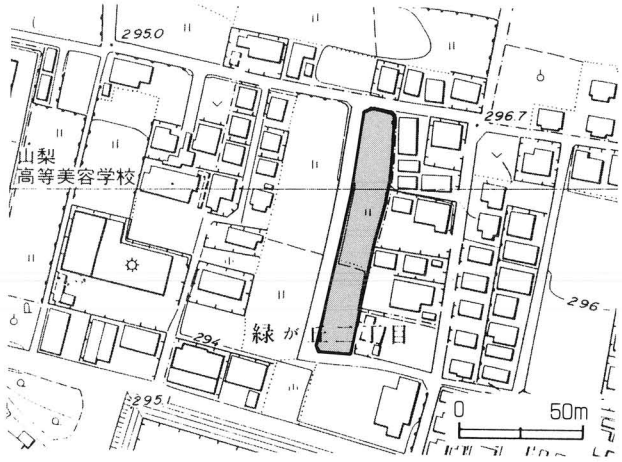
( )復元値、単位（cm）

番号	種別 産地	器種	法量（cm） 口径・器高・底径	部位	調整など	胎土	焼成	色調	備考
1	土器	かわらけ	(5.1)・(1.2)・3.3	口縁部～底部	ロクロナデ 底部回転糸切り	長石・石英・雲母	良	内)10YR 浅黄橙 8/4 外)10YR 黒褐 3/1	
2	土器	かわらけ	5.7・1.2・3.6	口縁部～底部	ロクロナデ 底部回転糸切り	長石・石英・雲母・金雲母	良	7.5YR 橙 6/6	
3	土器	かわらけ	(6.0)・(1.3)・(4.3)	口縁部～底部	ロクロナデ 底部回転糸切り	長石・石英・金雲母	良	5YR 明赤褐 5/6	
4	土器	かわらけ	(5.5)・(1.1)・(4.2)	口縁部～底部	ロクロナデ 底部回転糸切り	長石・石英・雲母	良	5YR 明赤褐 5/6	
5	土器	かわらけ	5.3・1.3・4.4	完形	ロクロナデ 底部回転糸切り	長石・石英・雲母	良	10YR 浅黄橙 8/4	
6	土器	かわらけ	(6.0)・(1.0)・(4.6)	口縁部～底部	ロクロナデ 底部回転糸切り	長石・石英・金雲母	良	7.5YR 明褐 5/6	
7	土器	かわらけ	(6.4)・(1.1)・(5.0)	口縁部～底部	ロクロナデ 底部回転糸切り	長石・石英・金雲母	良	5YR 明赤褐 5/6	
8	土器	かわらけ	7.2・1.4・5.9	口縁部～底部	ロクロナデ 底部回転糸切り	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	7.5YR 明褐 5/6	口縁部に油煙付着
9	土器	かわらけ	(8.0)・(2.3)・(5.0)	口縁部～底部	ロクロナデ 底部回転糸切り	長石・石英・雲母・金雲母	良	5YR 明赤褐 5/6	
10	土器	かわらけ	8.6・2.3・6.5	ほぼ完形	ロクロナデ 底部回転糸切り	長石・石英・金雲母	良	7.5YR 橙 6/6	口縁部に油煙付着
11	土器	かわらけ	(10.7)・(2.4)・(7.0)	口縁部～底部	ロクロナデ 底部回転糸切り	長石・石英・雲母	良	7.5YR 橙 6/6	
12	陶器	花瓶か	(5.0)・－・－	口縁部～体部	施釉	密	良	－	
13	陶器	皿か	4.9・－・－	底部	内面施釉	密	良	－	
14	陶器	皿	(11.0)・－・－	口縁部～体部	施釉(鉄釉)	密	良	－	
15	陶器	碗	(8.0)・－・－	口縁部～体部	施釉 外面に花の押印	密	良	－	
16	陶器	碗	(11.0)・(4.4)・(7.4)	口縁部～底部	施釉	密	良	－	
17	陶器	碗か鉢	(12.0)・－・－	口縁部～体部	施釉	密	良	－	
18	陶器	擂鉢	(31.4)・－・－	口縁部～体部	施釉	密	良	－	
19	陶器	擂鉢	(32.0)・－・－	口縁部～体部	施釉	密	良	－	
20	陶器	擂鉢	－・－・－	体部	ロクロ	長石・石英	良	－	
21	磁器	碗	－・－・(4.2)	底部	染付 畳付に砂目	緻密	良	－	
22	磁器	碗	(8.8)・－・－	口縁部～体部	染付	緻密	良	－	
23	磁器	碗	(10.0)・－・－	口縁部～体部	染付	緻密	良	－	
24	磁器	猪口	－・－・(4.6)	底部	染付	緻密	良	－	
25	磁器	碗	(12.0)・－・－	口縁部	染付	緻密	良	－	
26	磁器	碗	(10.9)・－・－	口縁部	染付	緻密	良	－	
27	銭貨	元豊通宝(?)	直径 2.38・穿径 0.69・厚さ 0.15	－	－	－	－	－	

写真１　調査前風景

写真２　地輪出土状況

19 緑が丘二丁目遺跡（第７次）



調査位置　甲府市緑が丘二丁目2393-1他
調査原因　宅地造成
対象面積　1548.15㎡
調査面積　180㎡
調査期間　平成６年12月６日～
　　平成７年１月10日
調査担当　平塚洋一

遺跡の立地

今回の調査地点は、緑が丘二丁目遺跡として括られた範囲のなかでもほぼ中央に位置し、今回の調査区に隣接した西の区画には和田無名墳の存在が想定されている。標高は294～296ｍを測る。

調査の概要

今回の調査の対象地は、約８×８ｍの畑地と10×100ｍの畑地であり、南北に長い区画の宅地造成であるため、幅２ｍの試掘調査トレンチを区画の中央に設定し調査を行った。

狭い区画の調査については、地表から約100cmまで掘削し調査を行ったが、土師器細片が出土するものの人工的な遺構は確認できなかった。また、この地層で湧水し始めた。

広い区画の調査については、約70cmの深さで掘削し、精査を行った。調査の結果、調査区の南側を中心に長径５～20cm程度の川原石がまとまって検出できた。また、検出できた自然堆積層が暗褐色の粘土層であるの対し、調査区の南端から約３～７ｍにわたり黒色土が確認できた。黒色土を掘り下げると、トレンチ西側から炭化物の集中と焼土が確認でき、その周囲から古墳時代前期の土器がややまとまって出土した。

和田無名墳の存在することも予測された調査区の北側では、周囲と土層に変化がみられず、その存在は確認できなかった。

出土遺物

出土した土器は、弥生時代後期末葉から古墳時代前期前葉を中心とした一群が中心となる。図２－３、５、６、７、19は赤色顔料が塗布されている。図２－３～７は広口壺で、その口縁端部には棒状浮文やクシ状工具やハケ状工具での刺突文が施される。これらの祖形は東海地方菊川流域の菊川式土器に求められ、土器様式が山梨に受容されてからさらに退化した形態であろう。年代的には４世紀後葉から５世紀前葉頃が考えられる。

古墳時代後期に属する出土遺物に、図２－19、図３－26～28がある。

ま　と　め

今回の調査目的に調査対象地における集落跡の存在と、和田無名墳の存在を確認することがあったが、そのどちらについても明確に確認することができず、残念な結果となった。今後周囲における開発に対しては十分な注意を払い、緑が丘二丁目遺跡の性格・規模等を把握する必要があるだろう。

（平塚洋一）

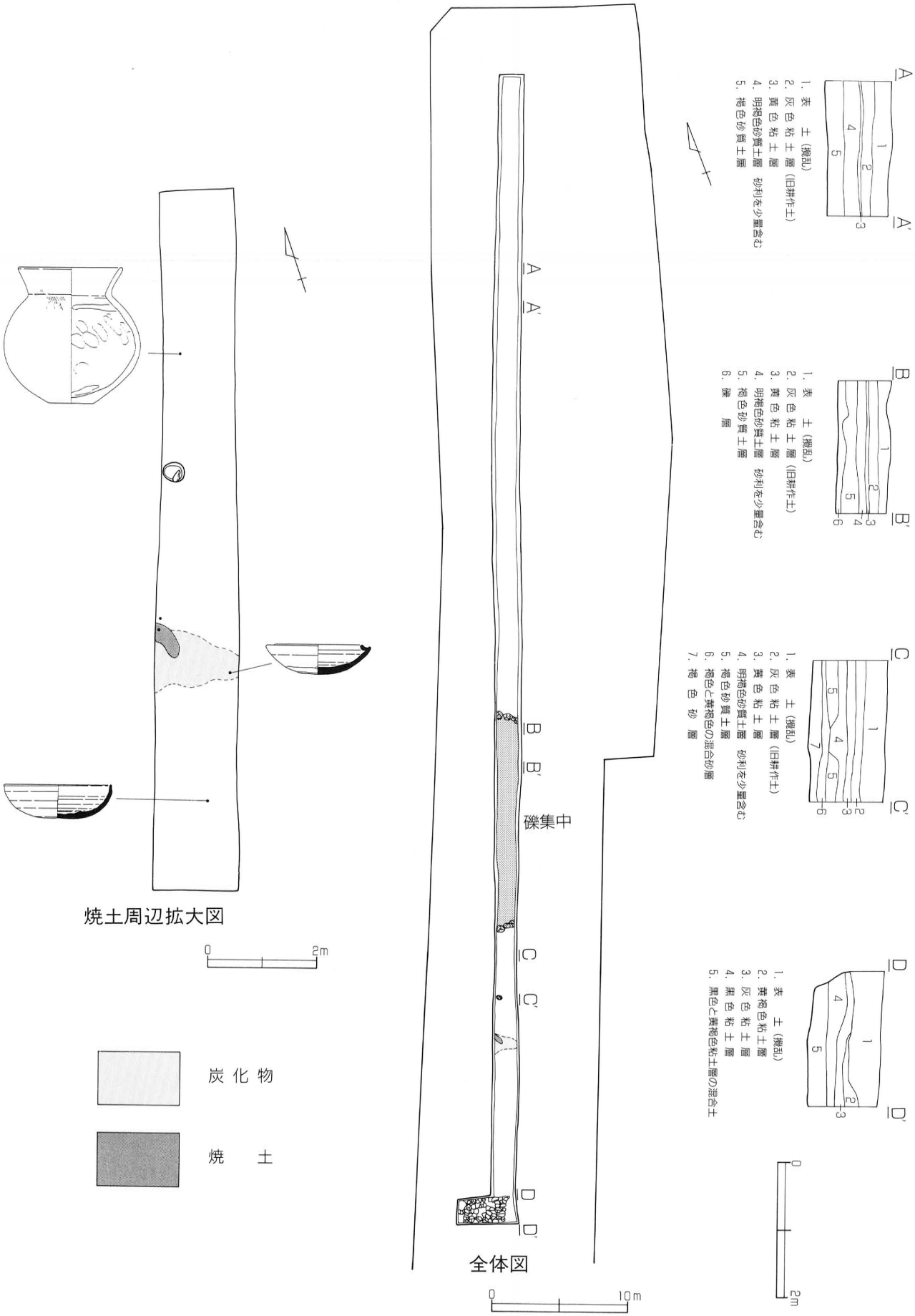


図１　調査区全体図、セクション図

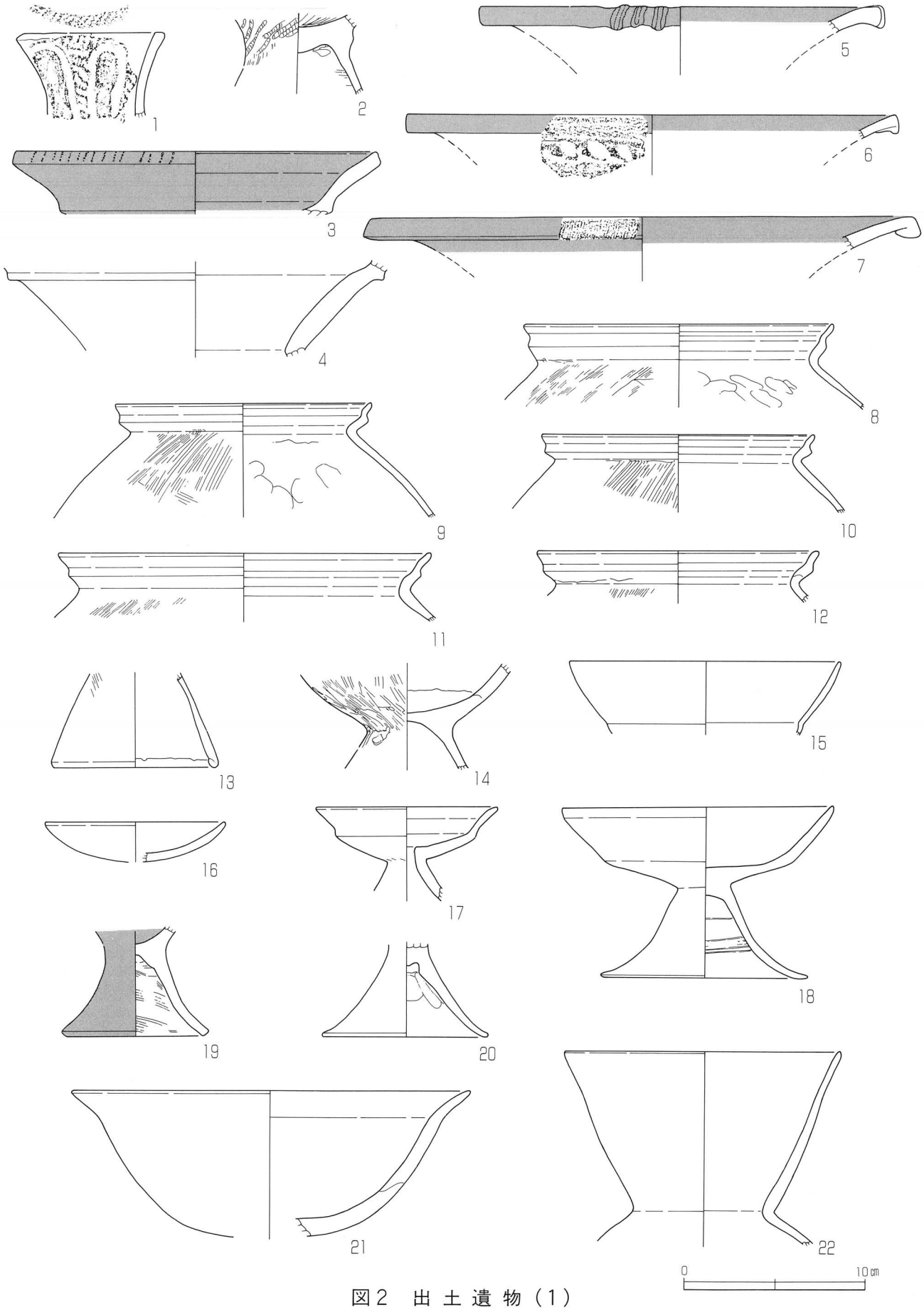


図2　出土遺物（1）

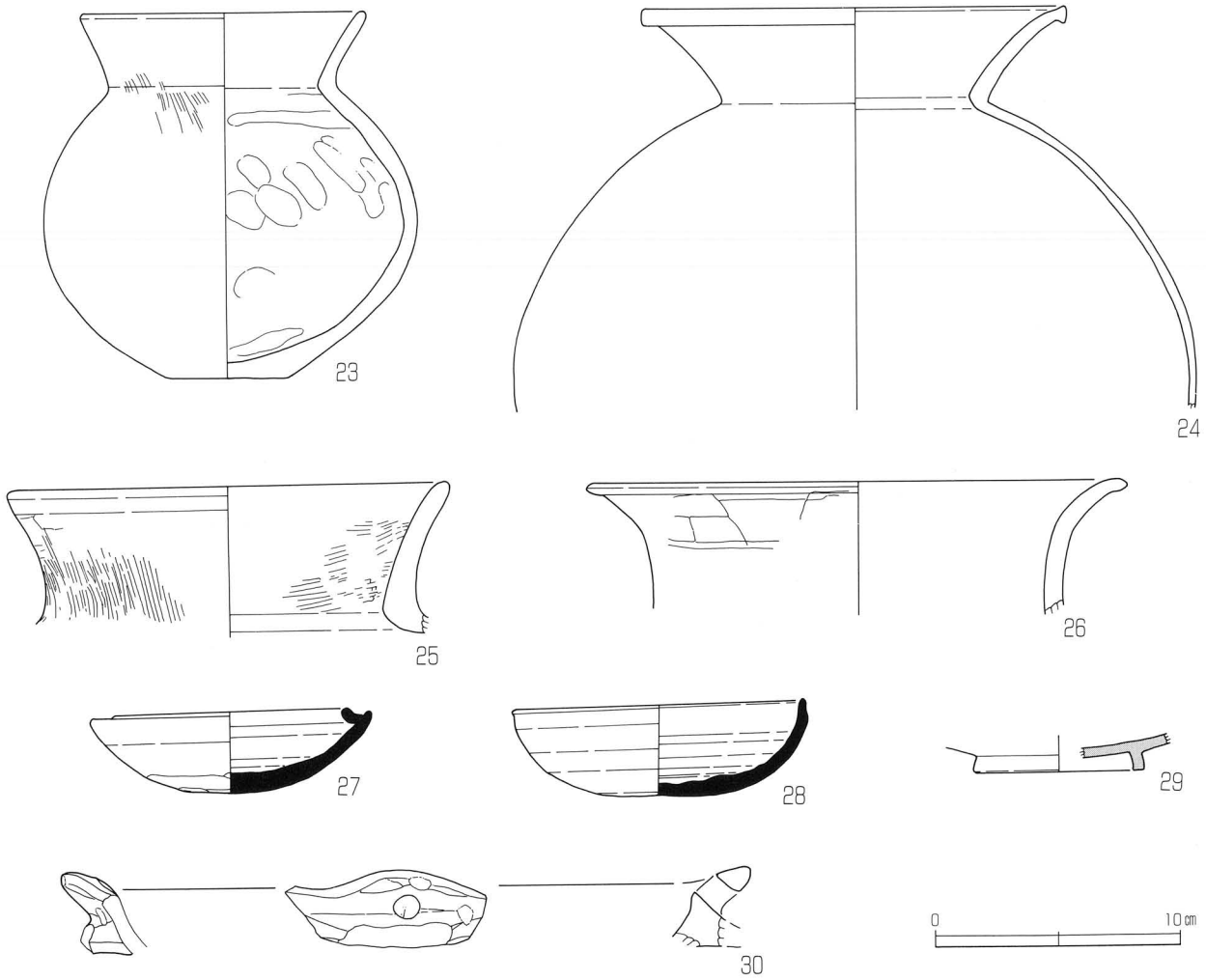


図3　出土遺物（2）

表1　緑が丘二丁目遺跡（第7次）出土遺物観察表

（）復元値、単位（cm）

番号	種別 産地	器種	法量（cm） 口径・器高・底径	部位	調整など	胎土	焼成	色調	備考
1	土器	壺	7.7・－・－	口縁部～頸部	縄文	長石・石英・赤色粒子	良	7.5YR にぶい褐 5/4	
2	土器	台付甕	－・－・－	脚部	内面ハケ・ヘラミガキ、	長石・石英・赤色粒子	良	7.5YR 浅黄橙 8/4	
3	土器	壺	(19.7)・－・－	口縁部	刺突文 内外面赤色塗彩	長石・石英・赤色粒子	良	5YR 橙 7/8	
4	土器	壺か	－・－・－	頸部	ナデか	長石・石英・赤色粒子	良	10YR 浅黄橙 8/3	
5	土器	壺か	(22.0)・－・－	口縁部	棒状浮文、口縁部内外面赤色塗彩	長石・石英	良	7.5YR にぶい橙 7/4	
6	土器	壺か	(27.0)・－・－	口縁部	櫛描波状文、口縁部内外面赤色塗彩	長石・石英	良	内)10R 赤 4/6 外)10YR にぶい黄橙 6/3	
7	土器	壺	(30.0)・－・－	口縁部	刺突文、口縁部内外面赤色塗彩か	長石・石英	良	10YR 灰白 8/2	
8	土器	台付甕	16.8・－・－	口縁部～胴部	内面指頭痕 外面ハケ	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	7.5YR にぶい橙 7/4	
9	土器	台付甕	(13.9)・－・－	口縁部～胴部	内面指頭痕 外面ハケ	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	10YR にぶい黄橙 7/4	
10	土器	台付甕	(14.8)・－・－	口縁部～胴部	内面ナデ 外面ハケ	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	10YR にぶい黄橙 7/4	
11	土器	台付甕	(20.2)・－・－	口縁部～胴部	内面ナデ 外面ハケ	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	5YR 橙 6/8	
12	土器	台付甕	(15.1)・－・－	口縁部～胴部	内面ナデ 外面ハケ	長石・石英・金雲母	良	5YR 橙 6/6	
13	土器	台付甕	－・－・(9.0)	脚部	内面ナデ 外面ハケ	長石・石英・赤色粒子	良	7.5YR にぶい橙 7/4	
14	土器	台付甕	－・－・－	胴部～脚部	内面ナデ 外面ハケ	長石・赤色粒子	良	7.5YR 橙 6/6	輪積痕あり

表2　緑が丘二丁目遺跡（第7次）出土遺物観察表

( )復元値、単位（cm）

番号	種別 産地	器種	法量（cm） 口径・器高・底径	部位	調整など	胎土	焼成	色調	備考
15	土器	丸底鉢	(14.8)・－・－	口縁部～体部	ナデ	赤色粒子	良	7.5YR 橙 7/6	
16	土器	坏	(9.9)・－・－	口縁部～体部	ナデ	長石・石英	良	10YR 浅黄橙 8/3	
17	土器	器台	9.9・－・－	口縁部～脚部	ナデ	長石・石英・赤色粒子	良	5YR 橙 6/6	
18	土器	高杯	14.9・9.5・11.1	口縁部～底部	ナデ 脚部内面ハケ	長石・赤色粒子	良	5YR 橙 6/6	
19	土器	高杯	－・－・7.5	脚部	ナデ 脚部内面ハケ 内外面赤色塗彩	長石・石英・赤色粒子	良	5YR 橙 6/6	
20	土器	高杯	－・－・8.8	脚部	ナデ	長石・石英・赤色粒子	良	7.5YR にぶい橙 7/4	
21	土器	鉢か	(21.8)・－・－	口縁部～体部	ナデ	長石・石英・赤色粒子	良	10YR にぶい黄橙 7/4	
22	土器	坩	(15.0)・－・－	口縁部～体部	ナデ	長石・赤色粒子	良	7.5YR 浅黄橙 8/4	
23	土器	壺	11.2・15.0・4.8	口縁部～底部	内面指頭痕 外面ハケ	長石・石英・赤色粒子	良	7.5YR にぶい橙 7/4	
24	土器	壺	(17.0)・－・－	口縁部～胴部	ナデ	長石・石英・赤色粒子	良	7.5YR 浅黄橙 8/4	
25	土器	甕か壺	(17.4)・－・－	口縁部～頸部	ハケ	長石・赤色粒子	良	7.5YR 橙 6/6	
26	土器	壺	(21.0)・－・－	口縁部～頸部	ナデ	長石・石英・赤色粒子	良	7.5YR にぶい橙 7/3	
27	須恵器	坏	11.1・3.3・－	完形	ロクロナデ 底部ヘラケズリ	長石	良	N 灰 5/	
28	須恵器	坏	11.6・3.7・4.4	口縁部～底部	ロクロナデ 底部ヘラケズリ	緻密	良	N 灰白 7/	
29	緑釉陶器	皿か	－・－・(6.8)	体部～底部	－	密	良	－	
30	土器	鍋か	(28.0)・－・－	把手	ナデ	長石・石英・赤色粒子	良	5YR 橙 6/6	

写真1　調査区全体

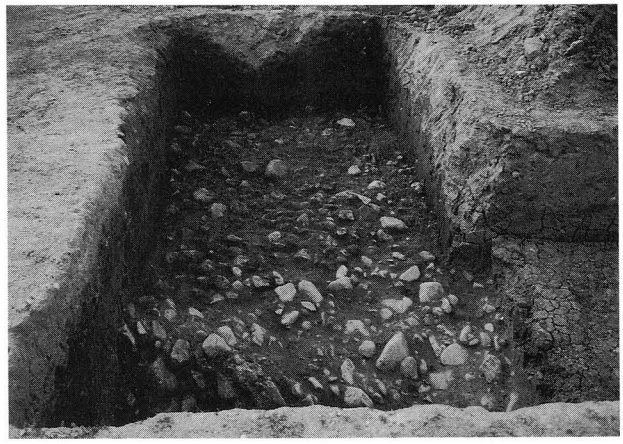


写真2　礫石検出状況

写真3　遺物出土状況(1)

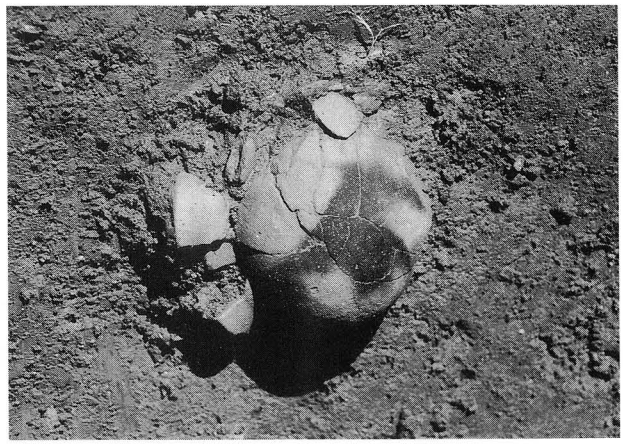
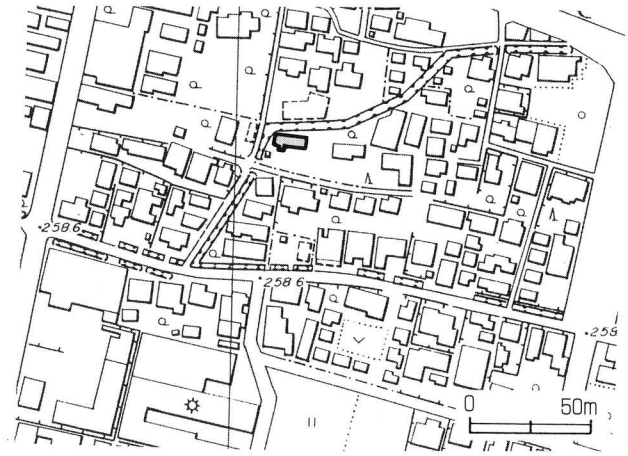


写真4　遺物出土状況(2)

20 朝気遺跡（第11次）



調査位置　甲府市朝気三丁目81
調査原因　個人住宅建設
対象面積　901㎡
調査面積　4㎡
調査期間　平成6年12月12日～16日
調査担当　兒玉好美

調査の概要

甲府市南東部に位置し、標高約259mを測る。これまで数回に及ぶ調査が行われ、弥生～平安時代に至る集落遺跡が確認された。平成3年度に南東約200m地点を調査した際は平安時代の水田跡が検出され、朝気遺跡は居住域と生産域が存在する遺跡であることが明らかとなった。

調査は建物予定地に2×2mの試掘坑を設定し、地表から1.7m掘り下げた。

遺　　構

木製杭が3本確認された。垂直に切られた痕跡があり、近世以降のものと思われる。

出土遺物

1は平安時代の坏である。口縁部は玉縁化し、外面下半にヘラケズリ調整される。底部は中央部に糸切り痕を若干残し、ヘラケズリ調整される。2の坏は底部に回転糸切り痕を残す。3、4は甕の口縁部である。3は折り返し口縁で外面にハケ調整、4は内面と外面にハケ調整される。

ま と め

周辺の調査結果から遺構の確認が予想されたが、杭以外に遺構は確認されなかった。

（鈴木由香）

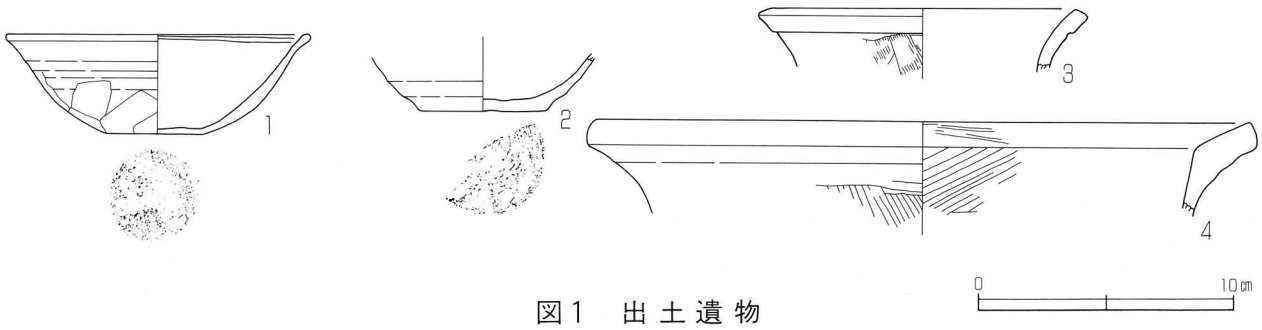


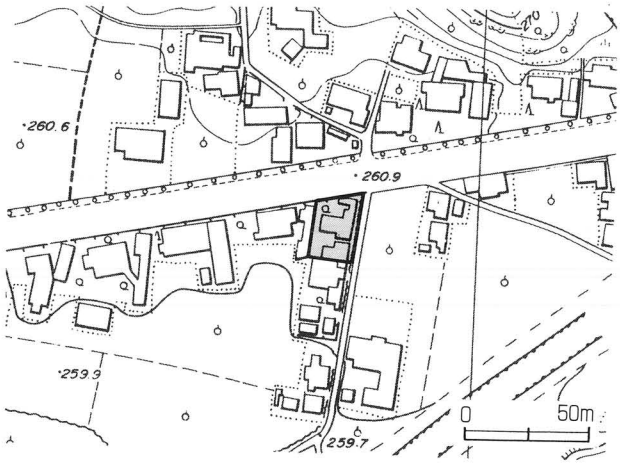
図1　出土遺物

表1　朝気遺跡（第11次）出土遺物観察表

（）復元値、単位（cm）

番号	種別 産地	器種	法量(cm) 口径・器高・底径	部位	調整など	胎土	焼成	色調	備考
1	土器	坏	11.8・3.9・3.8	口縁部～底部	外面ヘラケズリ 底部回転糸切り	赤色粒子	良	7.5YR 浅黄橙 8/4	
2	土器	坏	－・－・(5.0)	底部	ナデ 底部回転糸切り	赤色粒子	良	5YR 橙 6/6	
3	土器	甕	(12.0)・－・－	口縁部	内面ナデ 外面ハケ	密	良	内)5YR 橙 6/6 外)10YR にぶい黄橙 7/3	
4	土器	甕	(25.8)・－・－	口縁部	ハケ	長石・石英・金雲母	良	7.5YR 褐 4/6	

21 大坪遺跡（第６次）



調査位置　甲府市横根町字左右手305
調査原因　個人住宅建設
対象面積　432.24㎡
調査面積　2.76㎡
調査期間　平成６年12月19日～21日
調査担当　兒玉好美

調査の概要

調査地点は甲府市東部に位置し、標高約261ｍを測る。1982年、東側約300ｍ地点に流れる十郎川の改修工事地点から、「甲斐国山梨郡表門」と刻書された甲斐型土器が発見され、大坪遺跡周辺が『和名抄』に記載される表門郷であることが判明した。また、近年における調査の成果から、甲斐型土器を生産した遺跡と考えられている。

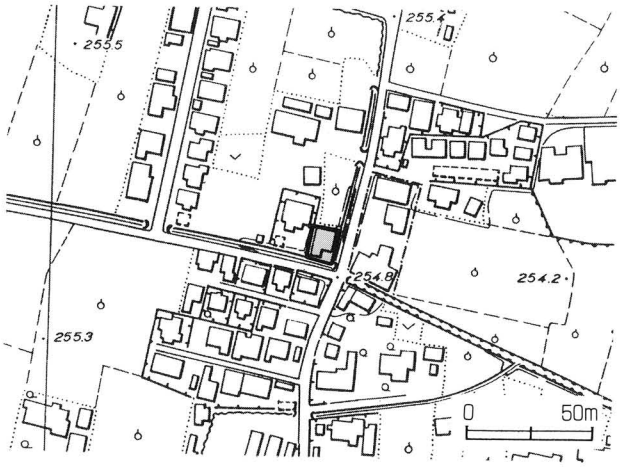
調査は1.2×2.3ｍの試掘坑を設定し、地表から１ｍ掘り下げた。

ま　と　め

遺構は確認されなかった。遺物も平安時代の土師器小片が数点出土したのみである。

（鈴木由香）

22 油田遺跡



調査位置　甲府市蓬沢一丁目123－１
調査原因　個人住宅建設
対象面積　223.51㎡
調査面積　90㎡
調査期間　平成７年２月８日
調査担当　兒玉好美

調査の概要

甲府市南東部に位置し、標高約255ｍを測る。東側約100ｍに濁川が南流し、周辺には古墳～平安時代、近世の遺跡が数多く存在する地域である。

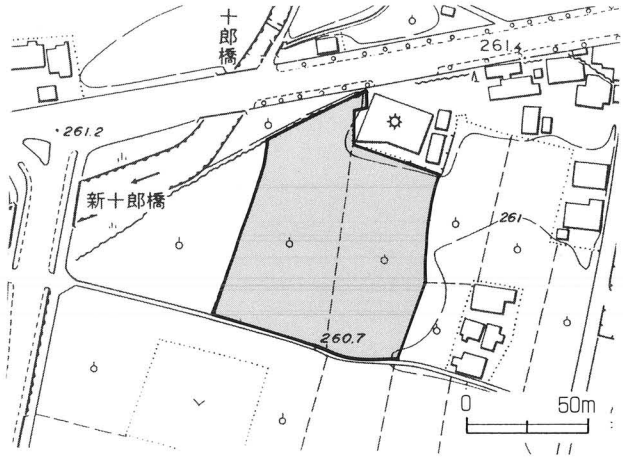
旧建築物の基礎を取り除く作業の際、重機により１～1.5ｍ程度掘り下げ、土層と廃土を調査した。

ま　と　め

遺構は確認されず、旧建築物の基礎設置のため地表から約１ｍは撹乱を受けていた。遺物も確認されなかった。

（鈴木由香）

23 大坪遺跡（第７次）



調査位置　甲府市桜井町600、605、609
調査原因　埋蔵文化財確認
対象面積　6600㎡
調査面積　300㎡
調査期間　平成７年３月13日～３月27日
調査担当　平塚洋一

遺跡の立地

十郎川によって形成された扇状地の、十郎川が南東から南西に向きをかえる標高約260ｍ地点に立地する。大坪遺跡は昭和50年（1975）、国道140号線改良工事に際し発掘調査され、未焼成の土器が出土した。今回の調査地点の隣接地が本調査されている。上記の調査結果から、本遺跡が平安時代に土器を生産した遺跡であることが想定されている。

調査の概要

幅２ｍ、長さ約50ｍの試掘調査トレンチを東西に３箇所設定し、調査を行った。重機で表土を掘削し、その後人力で精査した。調査の結果、調査区の西側を中心に遺構・遺物が確認できた。この調査の目的は、埋蔵文化財の有無を確認するものであり、調査の結果によっては開発そのものが取りやめになる可能性が高かったため、調査によって確認された遺構については、完掘せずそのまま埋設保存することとした。

遺構・遺物

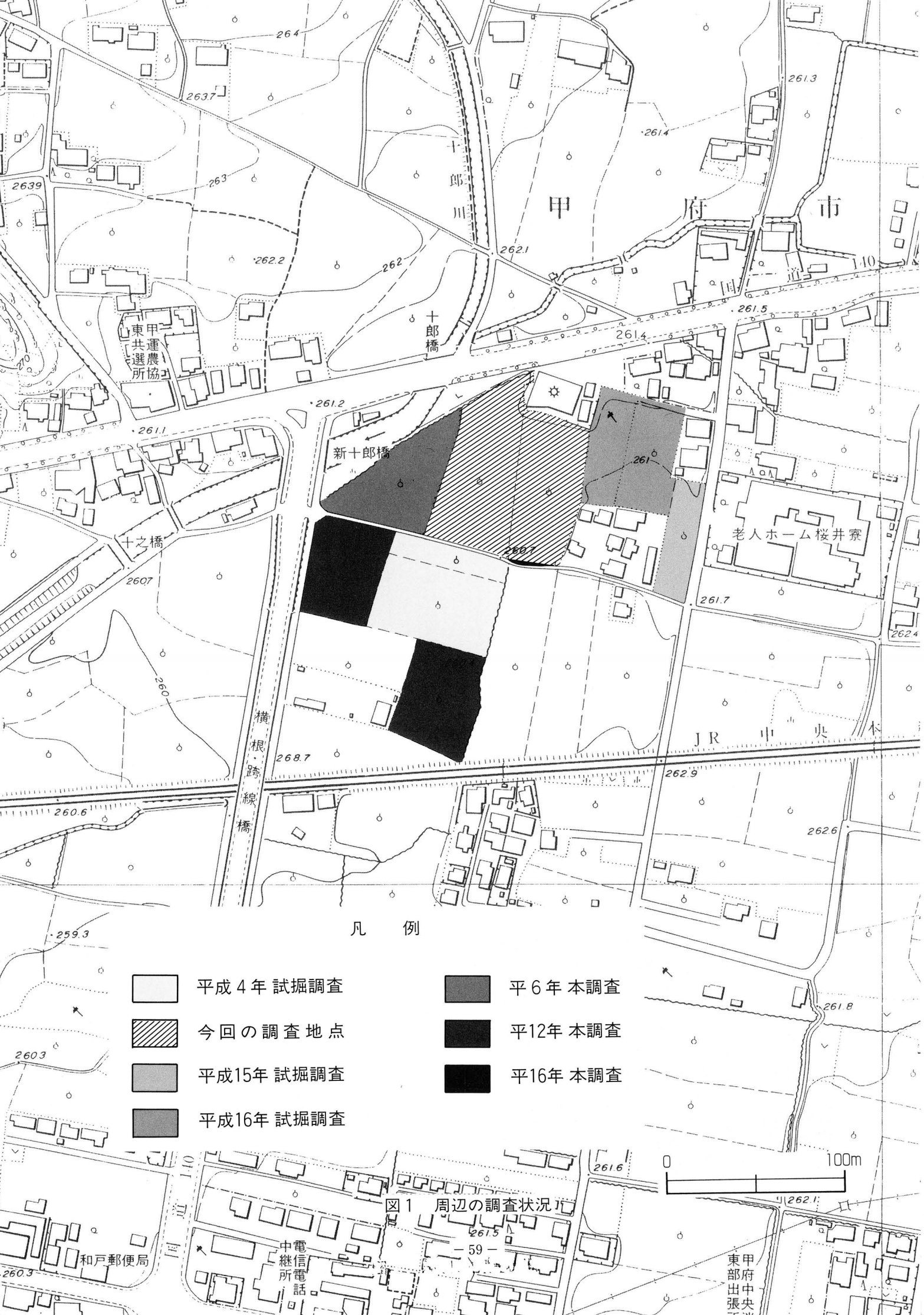
前述の通り、遺構は確認するだけに留め掘り下げなかったため、詳細は不明である。しかし、遺構検出の傾向として西側に偏って多く検出され、東側は遺構検出も疎になり徐々に湧水し始め自然流路になる様相がうかがえた。

出土遺物は土師器坏・皿が最も多く、次いで坏蓋が多い。壺・甕等の貯蔵具・煮炊具の出土は少ない。桜井畑瓦窯跡も距離的に近いためか、瓦も出土している。出土した坏は体部外面下半に手持ちヘラ削りが施されるものの、底部にロクロ成形後の糸切り痕が残される。内面に明瞭な暗文が確認できる個体は少ない。成形技法から９世紀後半の所産のものが多い。出土した瓦のなかに軒丸瓦片もある。色調は赤褐色を呈し、内区のみ約1/6程度の破片資料で複弁八葉蓮華文であることが確認できる。破損し外区まで存在しないため全体像は不明だが、寺本廃寺と国分寺の両方から出土している軒丸瓦と同笵と思われる。

ま　と　め

大坪遺跡が所在する甲運地区は、古墳～平安時代にかけての遺跡が密集する地域である。本遺跡北に所在する東畑遺跡や道々芽木遺跡からは古墳～平安時代の集落跡とともに、山梨県最古である金銅製の仏像や金銅製海老錠が出土している。また、本遺跡の東には白鳳期に操業し寺本廃寺に瓦を供給した川田瓦窯跡、甲斐国分寺に瓦を供給した上土器瓦窯跡が所在するなど、古代において一帯が生産地域を形成し、なおかつ役所的な機構が存在したことも想定される地域である。今後の調査によりこの地域が担った役割等が解明されることが望まれる。

（平塚洋一）



甲府市
十郎川
十郎橋
新十郎橋
十之橋
横根跨線橋
老人ホーム桜井寮
JR中央本
甲運農協
東共選所
和戸郵便局
中継所
電信電話
甲府中央
東部出張
凡例
平成4年 試掘調査
今回の調査地点
平成15年 試掘調査
平成16年 試掘調査
平6年 本調査
平12年 本調査
平16年 本調査
0
100m

図1　周辺の調査状況

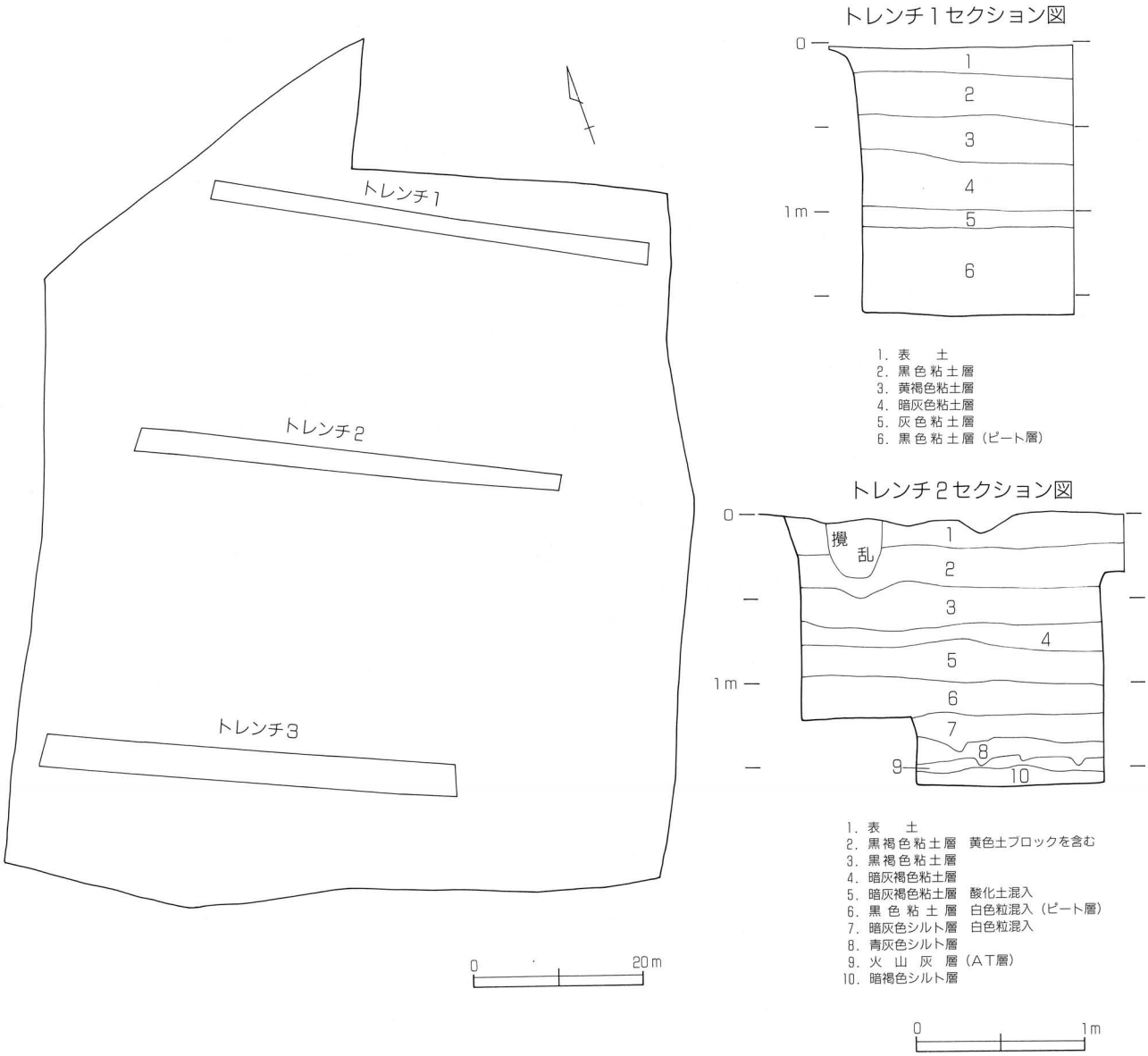


図2　トレンチ配置図、セクション図

写真1　竪穴住居跡確認状況

写真2　トレンチ3遺物出土状況

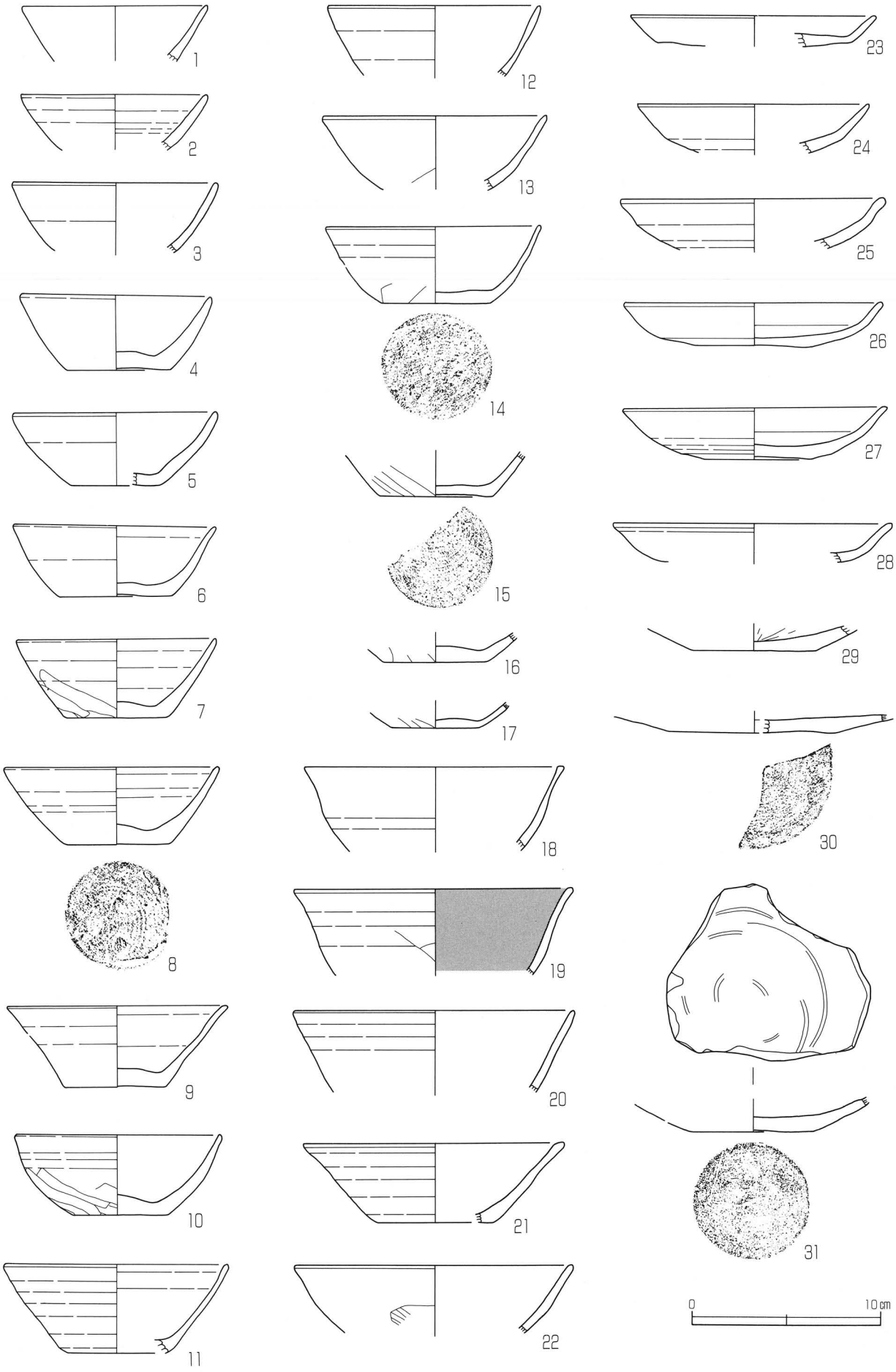

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
0
10cm

図3　出土遺物（1）

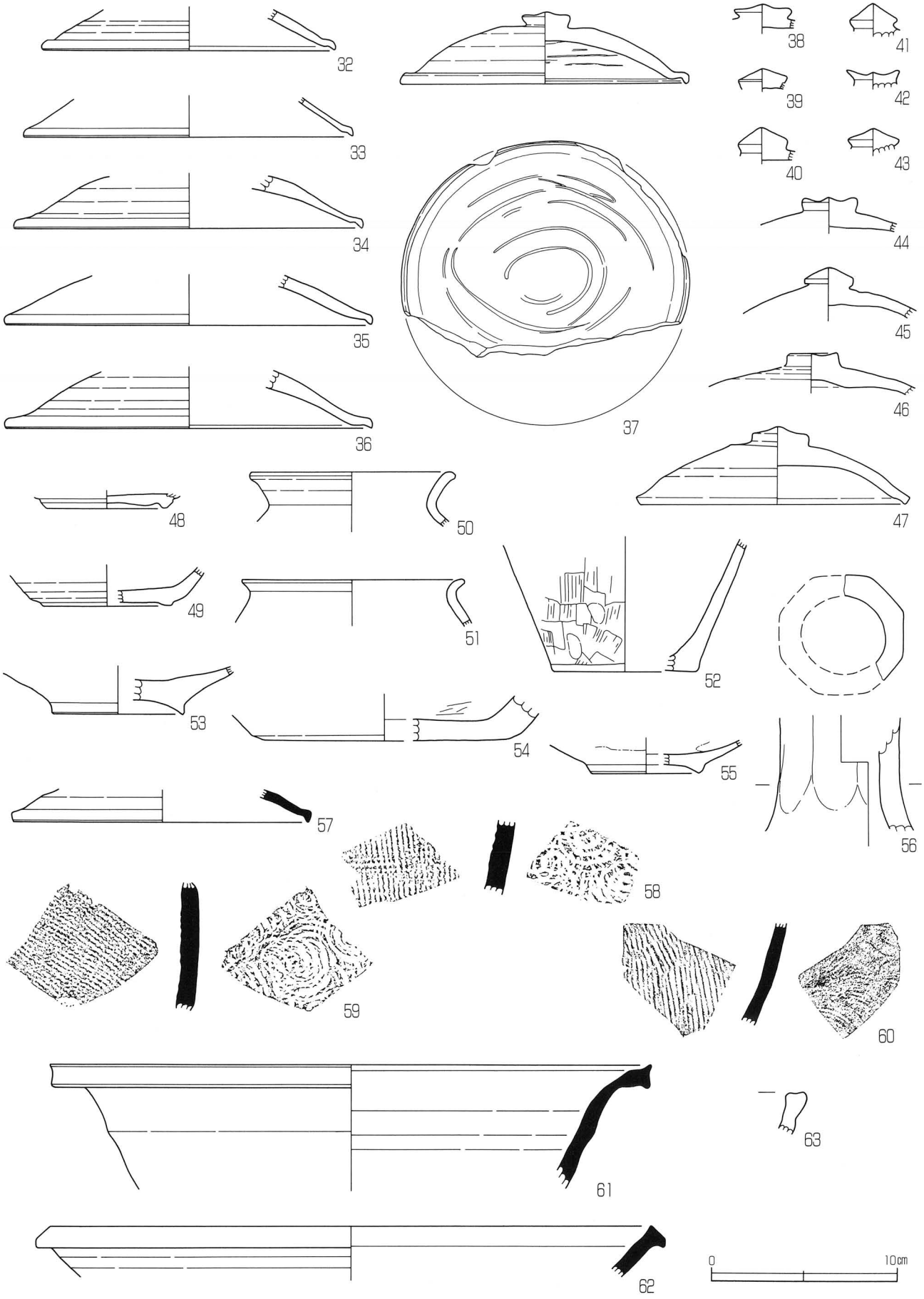

32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
0
10cm

図4　出土遺物（2）

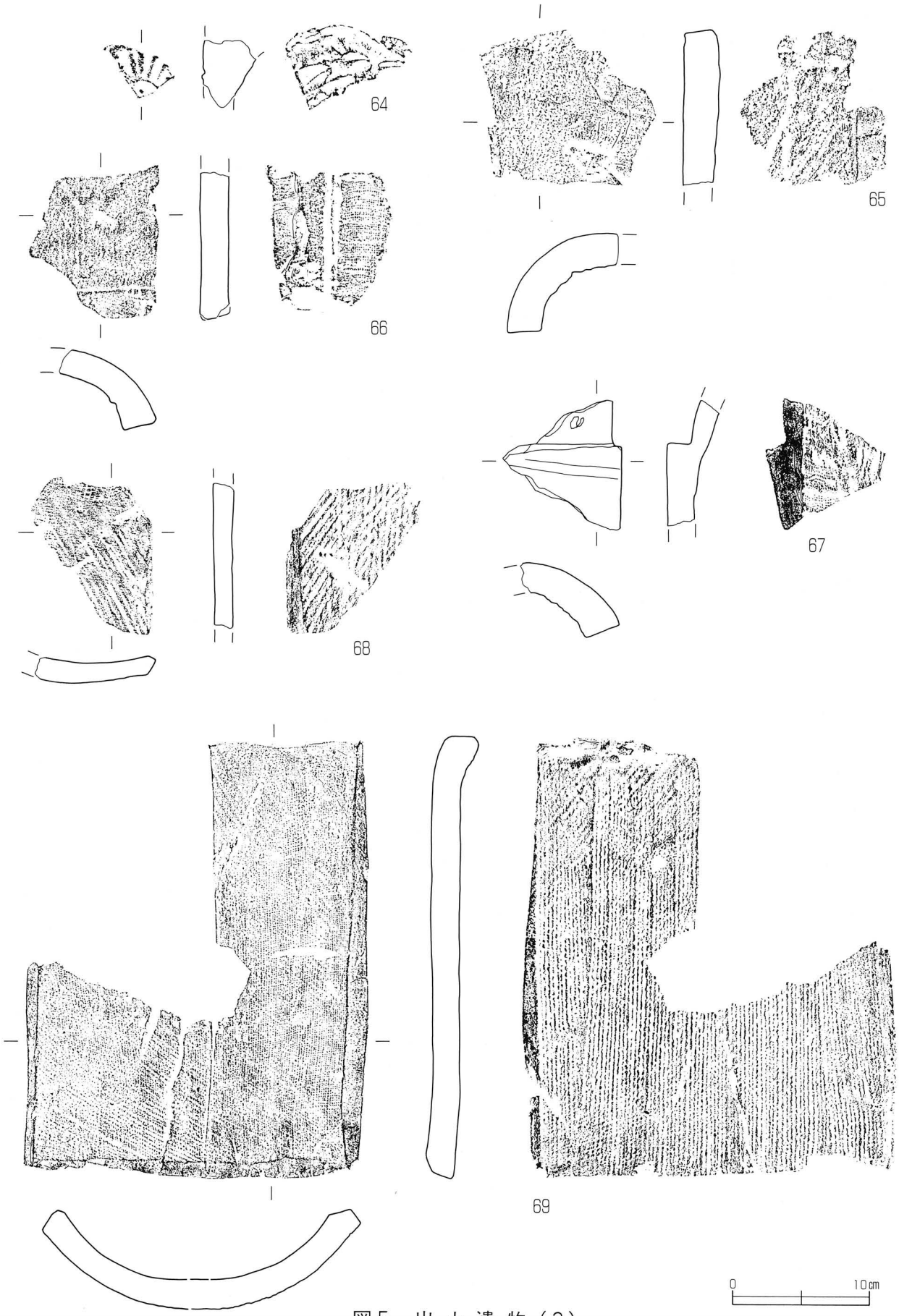


図5　出土遺物（3）

表１　大坪遺跡（第７次）出土遺物観察表

( )復元値、単位（cm）

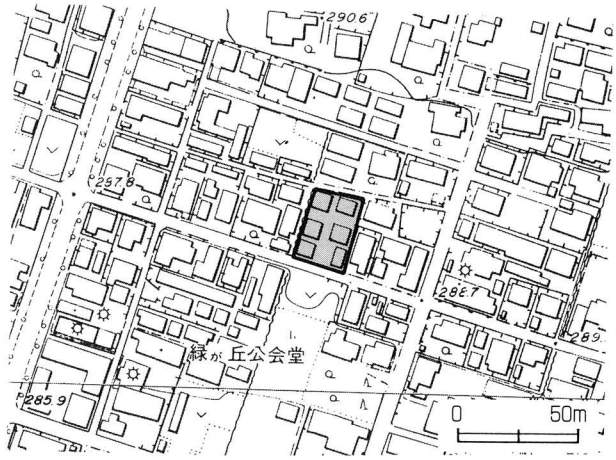
番号	種別 産地	器種	法量（cm） 口径・器高・底径	部位	調整など	胎土	焼成	色調	備考
1	土器	坏	(9.8)・－・－	口縁部～体部	ナデ	長石・赤色粒子	良	5YR 橙 6/6	
2	土器	坏	(10.0)・－・－	口縁部～底部	ナデ	長石・赤色粒子	良	5YR 橙 6/6	
3	土器	坏	(11.0)・－・－	口縁部～体部	ナデ	赤色粒子	良	7.5YR 橙 7/6	
4	土器	坏	10.0・4.0・5.5	口縁部～体部	ナデ 底部ヘラケズリ	長石・赤色粒子	良	5YR 橙 6/6	
5	土器	坏	(10.8)・(3.95)・(4.8)	口縁部～底部	ナデ	密	良	7.5YR 橙 7/6	
6	土器	坏	10.7・3.8・6.0	口縁部～底部	ナデ	長石・石英・赤色粒子	良	5YR 橙 6/6	
7	土器	坏	(10.6)・4.2・(5.3)	口縁部～底部	内面ナデ 外面ヘラケズリ	長石・赤色粒子	良	7.5YR にぶい橙 7/4	
8	土器	坏	(11.5)・4.1・5.7	口縁部～底部	ナデ　底部回転糸切り後ヘラケズリか	密	良	5YR 橙 6/6	
9	土器	坏	11.6・4.4・5.5	口縁部～底部	ナデ	長石・石英・赤色粒子	良	5YR 橙 6/6	
10	土器	坏	11.0・4.3・5.0	口縁部～底部	内面ナデ 外面ヘラケズリ	長石・石英・赤色粒子	良	5YR 橙 6/6	
11	土器	坏	(12.0)・(4.8)・(5.1)	口縁部～底部	ナデ	長石・石英・赤色粒子	良	内) 7.5YR 浅黄橙 8/4 外) 5YR 橙 7/6	
12	土器	坏	(11.4)・－・－	口縁部～体部	ナデ	赤色粒子	良	内) 10YR 浅黄橙 8/3 外) 7.5YR 浅黄橙 8/6	
13	土器	坏	(12.0)・－・－	口縁部～体部	ナデ	赤色粒子	良	5YR 橙 6/6	
14	土器	坏	(11.4)・(5.25)・5.8	口縁部～底部	内面ナデ 外面ヘラケズリ	赤色粒子	良	5YR 橙 6/6	
15	土器	坏	－・－・6.0	底部	内面ナデ 外面ヘラケズリ	石英	良	7.5YR 浅黄橙 8/3	
16	土器	坏	－・－・5.6	底部	内面ナデ　外面・底部ヘラケズリ	長石・赤色粒子	良	内) 5YR 橙 6/6 外) 5YR 明赤褐 5/6	
17	土器	坏	－・－・4.8	底部	内面ナデ 外面ヘラケズリ	雲母・金雲母・赤色粒子	良	内)5YR 明赤褐 5/6 外)10YR にぶい黄橙 7/2	
18	土器	坏	(14.0)・－・－	口縁部～体部	ナデ	赤色粒子	良	5YR 橙 6/6	
19	土器	坏	(15.0)・－・－	口縁部～体部	内面ナデ 外面ヘラケズリ	赤色粒子	良	内) 10YR 黒褐 3/1 外) 10YR 灰白 8/2	内面黒色
20	土器	坏	(15.0)・－・－	口縁部～体部	ナデ	赤色粒子	良	5YR 橙 6/6	
21	土器	坏	(14.0)・(4.3)・(6.2)	口縁部～底部	ナデ	赤色粒子	良	10YR にぶい黄橙 7/2	
22	土器	坏	(15.0)・－・－	口縁部～体部	内面ナデ 外面ヘラケズリ	赤色粒子	良	7.5YR にぶい橙 6/4	
23	土器	皿	(13.0)・－・－	口縁部～体部	ナデ	赤色粒子	良	5YR 橙 6/6	
24	土器	皿	(12.4)・－・－	口縁部～体部	ナデ	赤色粒子	良	内)10YR にぶい黄橙 7/3 外)7.5YR にぶい橙 7/4	
25	土器	皿	(14.0)・－・－	口縁部～体部	ナデ	赤色粒子	良	内) 10YR 褐灰 4/1 外) 7.5YR 橙 6/6	
26	土器	皿	13.6・2.3・5.8	口縁部～底部	ナデ	石英・赤色粒子	良	5YR 橙 6/6	
27	土器	皿	13.8・2.8・5.5	口縁部～底部	ナデ 底部ヘラケズリ	長石・赤色粒子	良	5YR 橙 6/6	
28	土器	皿	(15.0)・－・－	口縁部～底部	ナデ	赤色粒子	良	内)10YR 明黄褐 7/4 外)7.5YR 橙 6/6	
29	土器	皿	－・－・(6.6)	底部	内面放射状暗文 底部ヘラケズリ	金雲母・赤色粒子	良	内)10YR にぶい黄橙 7/4 外)7/5YR 橙 6/6	
30	土器	皿	－・－・(8.6)	底部	ナデ 底部ヘラケズリ	赤色粒子	良	内)5YR 橙 6/6 外)7.5YR 浅黄橙 8/4	
31	土器	皿	－・－・6.4	底部	ナデ 内面渦巻暗文	長石	良	10YR にぶい黄橙 7/2	
32	土器	坏蓋	(16.0)・－・－	口縁部～体部	ナデ	赤色粒子	良	内)10YR にぶい黄橙 7/4 外)7.5YR にぶい橙 7/4	
33	土器	坏蓋	(18.0)・－・－	口縁部～体部	ナデ	赤色粒子	良	7.5YR 橙 6/4	
34	土器	坏蓋	(19.0)・－・－	口縁部～体部	ナデ	赤色粒子	良	内)10YR 浅黄橙 8/3 外)7.5YR 浅黄橙 8/4	
35	土器	坏蓋	(20.0)・－・－	口縁部～体部	ナデ	赤色粒子	良	内)7.5YR 浅黄橙 8/4 外)7.5YR 橙 7/6	

表2　大坪遺跡（第7次）出土遺物観察表

( )復元値、単位（cm）

番号	種別 産地	器種	法量（cm） 口径・器高・底径	部位	調整など	胎土	焼成	色調	備考
36	土器	坏蓋	(20.0)・－・－	口縁部～体部	ナデ	赤色粒子	良	7.5YR 橙 7/6	
37	土器	坏蓋	15.7・4.0・つまみ 2.6	つまみ～口縁部	ナデ 内面渦巻状暗文	長石・赤色粒子	良	5YR 橙 6/6	
38	土器	坏蓋	－・－・－	つまみ	ナデ	赤色粒子	良	7.5YR にぶい橙 7/4	
39	土器	坏蓋	－・－・－	つまみ	ナデ	赤色粒子	良	10YR 浅黄橙 8/3	
40	土器	坏蓋	－・－・－	つまみ	ナデ	密	良	10YR 褐灰 5/1	
41	土器	坏蓋	－・－・－	つまみ	ナデ	密	良	10YR 明黄褐 7/6	
42	土器	坏蓋	－・－・－	つまみ	ナデ	密	良	10YR 明黄褐 7/6	
43	土器	坏蓋	－・－・－	つまみ	ナデ	密	良	7.5YR 浅黄橙 8/3	
44	土器	坏蓋	－・－・－	つまみ	ナデ	密	良	10YR にぶい黄橙 7/2	
45	土器	坏蓋	－・－・－	つまみ	ナデ	密	良	内)10YR 灰白 8/2 外)7.5YR 浅黄橙 8/4	
46	土器	坏蓋	－・－・－	つまみ～体部	内面ナデ 外面ヘラケズリ	長石・赤色粒子	良	5YR 橙 6/6	
47	土器	坏蓋	14.4・4.3・－	つまみ～口縁部	内面ナデ 外面ヘラケズリ	長石・石英・赤色粒子	良	5YR 橙 6/6	
48	土器	高台付坏	－・－・6.6	底部	ロクロナデ 削り出し高台	金雲母・赤色粒子	良	内)10YR 浅黄橙 8/3 外)7.5YR 橙 7/6	
49	土器	高台付坏	－・－・(7.0)	体部～底部	ロクロナデ 削り出し高台	長石・赤色粒子	良	5YR 橙 7/6	
50	土器	小形甕	(11.0)・－・－	口縁部～頸部	内外面ナデ	赤色粒子	良	7.5YR にぶい橙 7/4	
51	土器	小形甕	(12.0)・－・－	口縁部～頸部	内外面ナデ	赤色粒子	良	10YR 灰白 8/1	
52	土器	甕	－・－・(8.0)	底部	内面ナデ 外面ハケ・指頭痕	長石・石英・雲母・金雲母	良	内)5YR 明赤褐 5/6 外)7.5YR 黒褐 3/2	
53	土器	脚高高台坏	－・－・(7.0)	底部	内外面ナデ	赤色粒子	良	内)10YR 黄橙 8/6 外)7.5YR 橙 6/6	
54	土器	甕か	－・－・(13.7)	底部	内面ナデ 外面・底部ヘラケズリ	密	良	内)7.5YR 明褐灰 7/1 外)10YR 浅黄橙 8/3	
55	灰釉陶器	皿	－・－・(6.0)	底部	灰釉	雲母	良	－	
56	土器	高坏	－・－・－	脚部	内面ナデ 外面ケズリ	密	良	10YR 灰白 8/2	
57	須恵器	蓋	(16.0)・－・－	口縁部	内外面ナデ	密	良	N 灰 6/	
58	須恵器	甕	－・－・－	胴部	内面青海波文 外面叩き	密	良	N 灰 6/	
59	須恵器	甕	－・－・－	胴部	内面青海波文 外面叩き	密	良	N 灰 6/	
60	須恵器	甕	－・－・－	不明	外面叩き	密	良	5Y 灰白 7/1	転用硯
61	須恵器	甕	(33.0)・－・－	口縁部～体部	－	密	良	N 灰 5/	
62	須恵器	甕	(33.0)・－・－	口縁部	－	密	良	N 灰白 7/	
63	陶器	片口鉢	－・－・－	口縁部	施釉	密	良	－	
64	瓦	軒丸瓦	－・－・－	－	－	長石・赤色粒子	良	5YR 橙 6/6	
65	瓦	丸瓦	厚さ 2.5・－・－	－	表面ナデ 裏面布目か	長石	良	2.5Y 黄灰 4/1	
66	瓦	丸瓦	厚さ 2.1・－・－	－	表面縄目 裏面布目	長石	良	2.5Y 灰黄 7/2	
67	瓦	丸瓦	厚さ 2.3・－・－	－	表面ケズリ・ナデ 裏面布目	長石	良	5Y 灰 4/1	
68	瓦	平瓦	厚さ 1.4・－・－	－	表面布目・叩目 裏面縄目	長石・黒色粒子	良	2.5Y 黄灰 6/1	
69	瓦	平瓦	厚さ 1.4・幅 27.2・厚さ 2.6	－	表面布目 裏面縄目	長石	良	10YR 灰 4/1	歪みあり

24 緑が丘一丁目遺跡（第４次）



調査位置　甲府市緑が丘二丁目135－３、４
調査原因　集合住宅建設
対象面積　607.61㎡
調査面積　４㎡
調査期間　平成７年３月22日～31日
調査担当　兒玉好美

調査の概要

緑が丘一丁目遺跡はこれまでの発掘調査の結果、縄文～古墳時代の土器が出土し、東側約100ｍ地点の緑が丘一丁目遺跡（第３次）の調査では、古墳時代の土器を伴う土坑や溝が確認されている。

調査は２×２ｍの試掘坑を設定し、約１ｍ掘り下げた。

遺　　構

遺構は確認されなかった。基本層序は次の通りである。

Ⅰ層　茶褐色土層　礫を含む。
Ⅱ層　灰青褐色土層　鉄分・水分を含み、粘性がある。
Ⅲ層　褐色土層　黄色粒子を少量含み、しまりがある。
Ⅳ層　灰褐色土層　白色粒子・鉄分を含み、しまりがある。
Ⅴ層　暗灰褐色土層　しまりがある。
Ⅵ層　暗褐色土層　水分を含み、しまりがある。
Ⅶ層　暗茶褐色土層　黄色粒子・水分を含み、しまりがある。

遺　　物

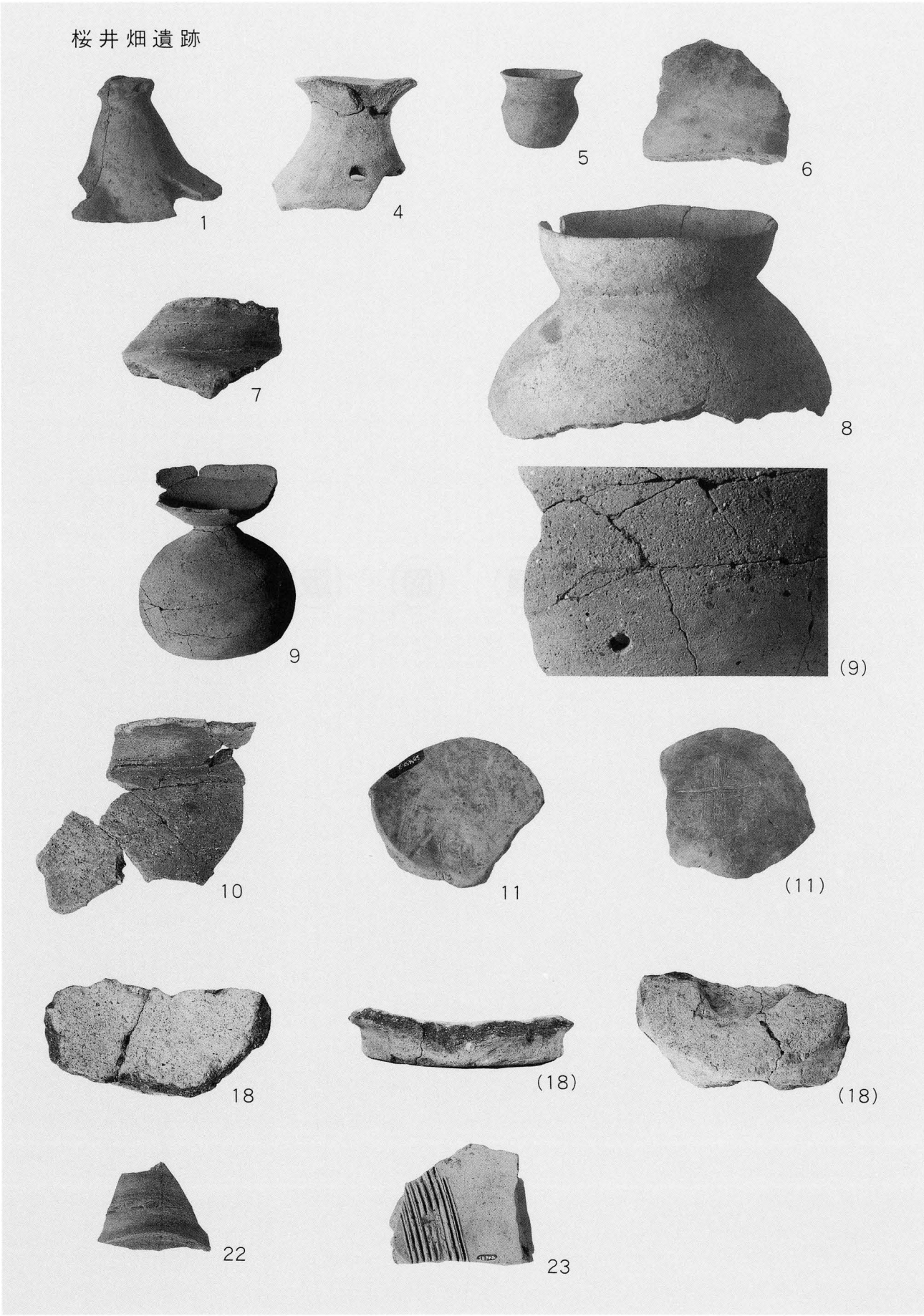
古墳時代前期～後期の土師器片が数点出土したが、小片のため図示できなかった。

ま　と　め

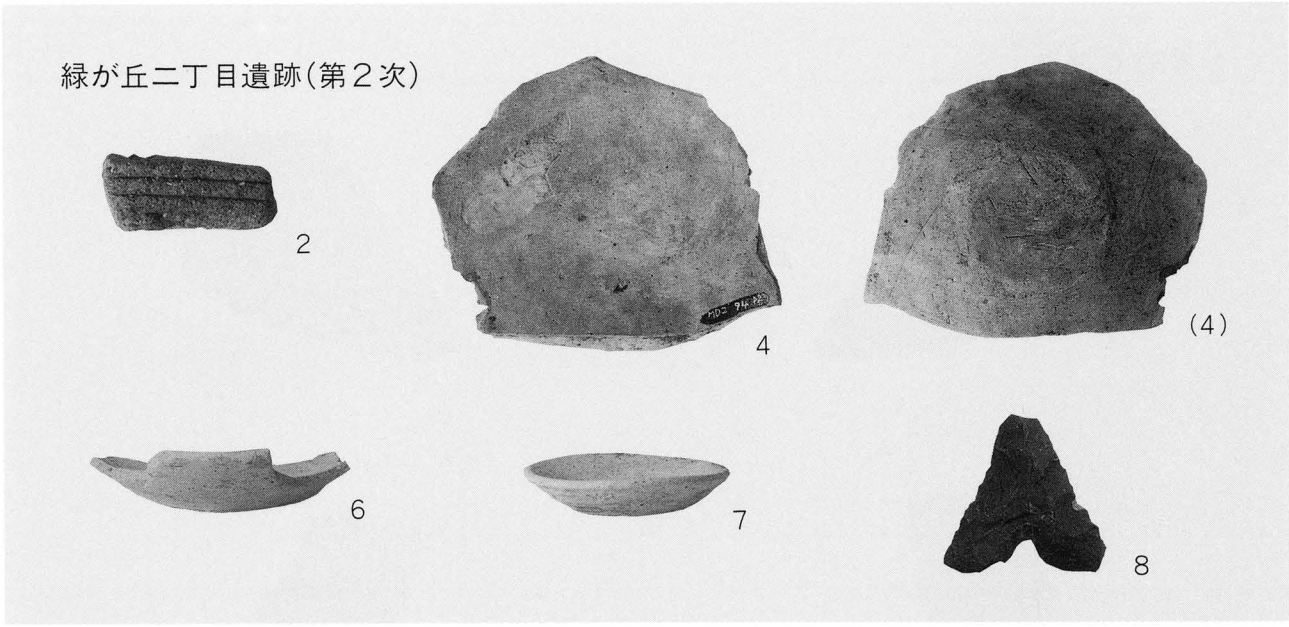
今回の調査において遺構は確認されなかったが、隣接地での遺構確認事例があるため、今後の周辺調査に期待したい。　（鈴木由香）

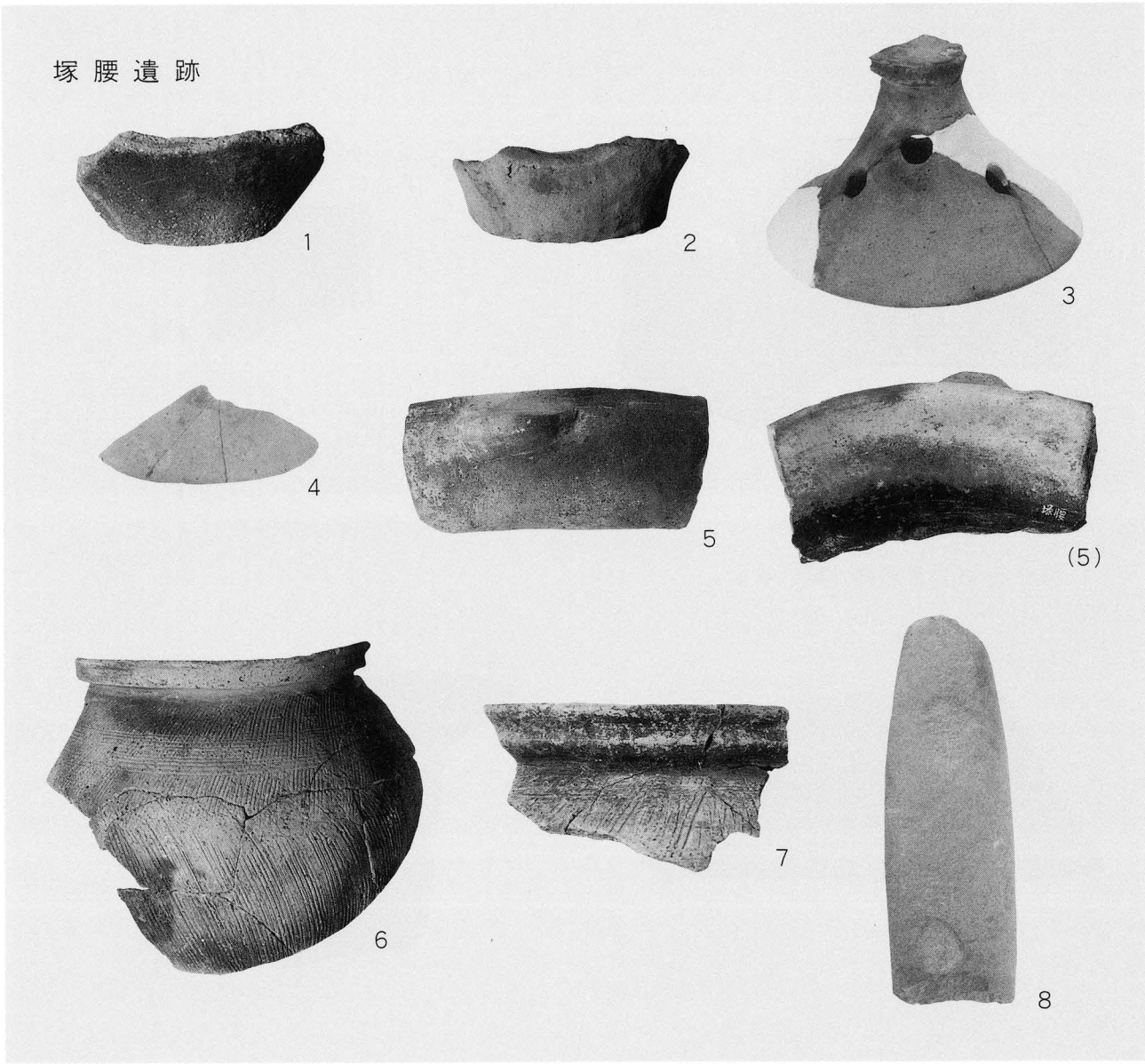
写真１　東壁土層堆積状況

写 真 図 版



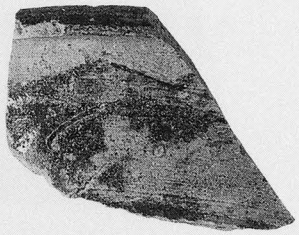
図版1　桜井畑遺跡



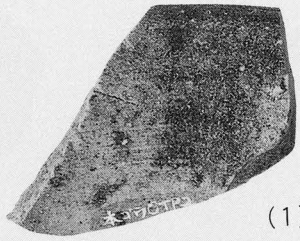


図版２　緑が丘二丁目遺跡(第２次)、塚腰遺跡

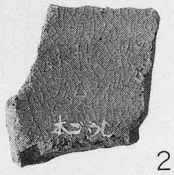
本郷Ｃ遺跡



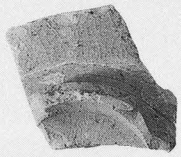
1



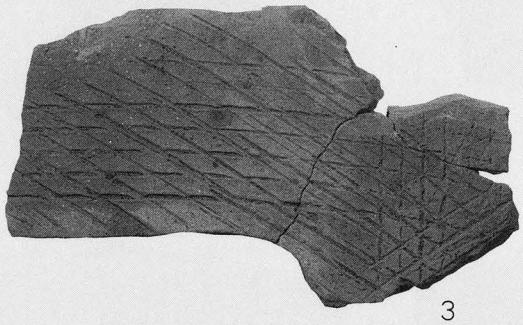
(1)



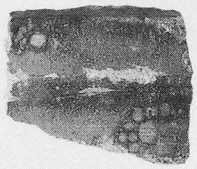
2



(2)

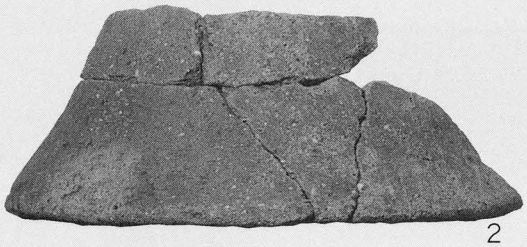


3

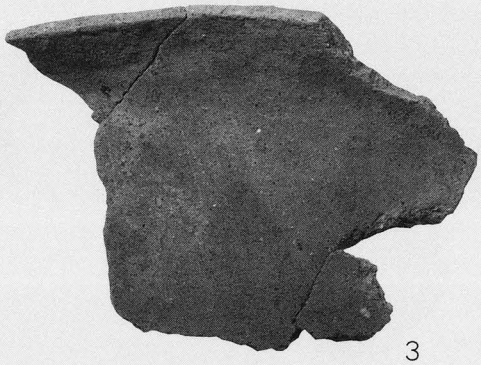


表採

緑が丘一丁目遺跡（第３次）



2

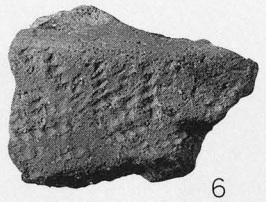


3

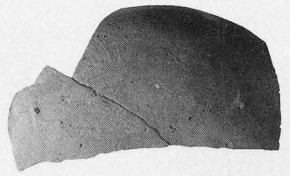
図版３　本郷Ｃ遺跡、緑が丘一丁目遺跡（第３次）

金塚西遺跡

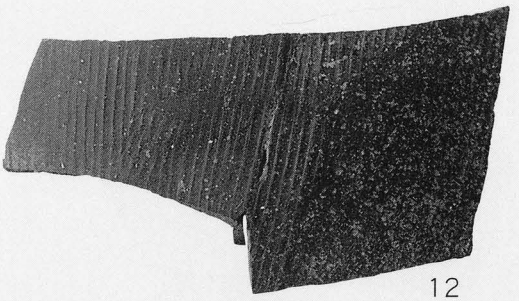
5

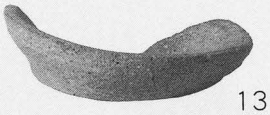

6

8

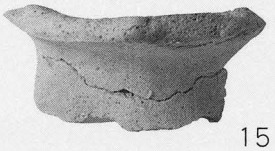

9

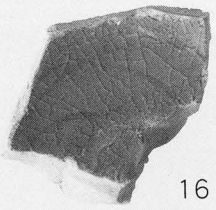
11


12


13

14

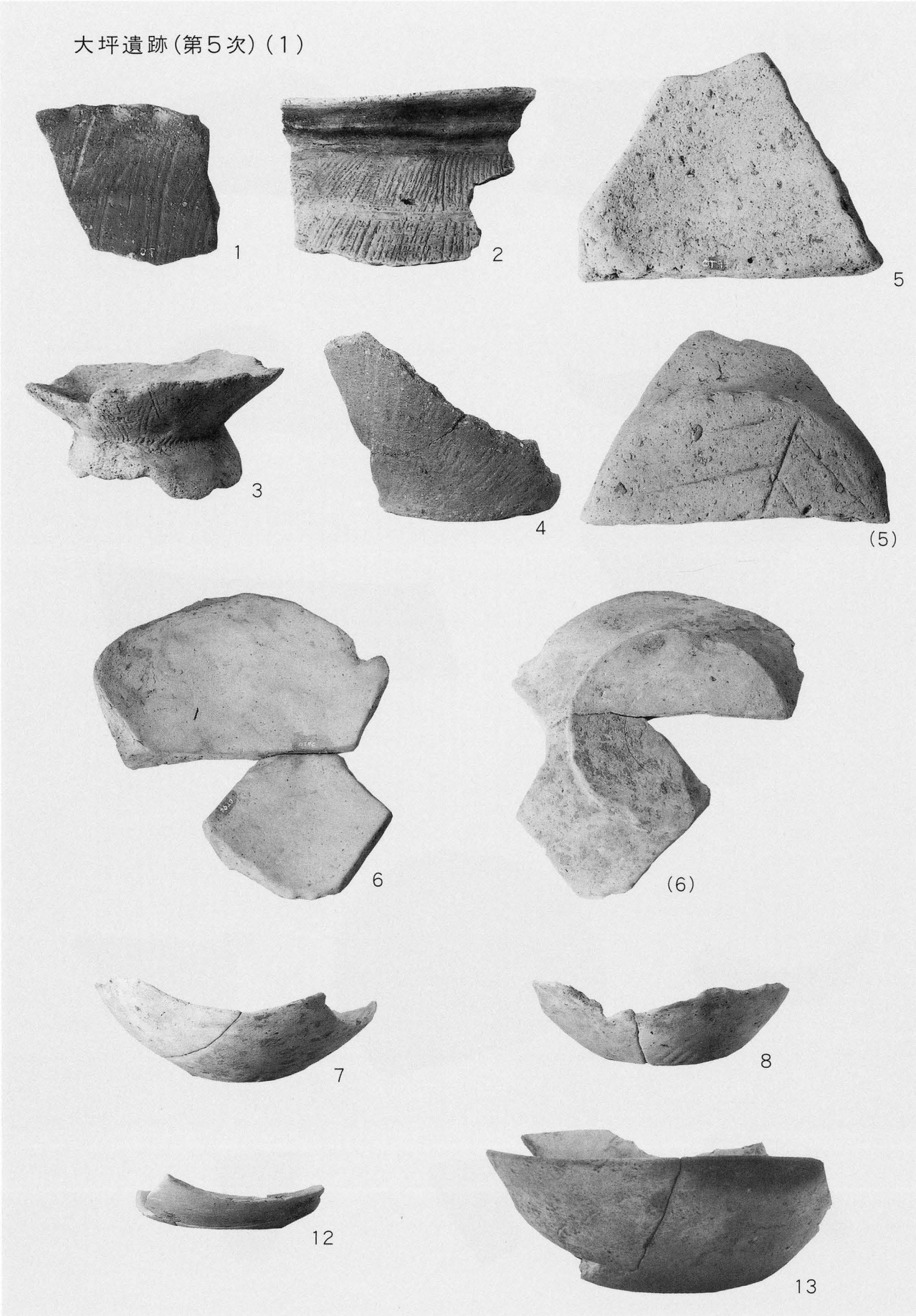

15


16

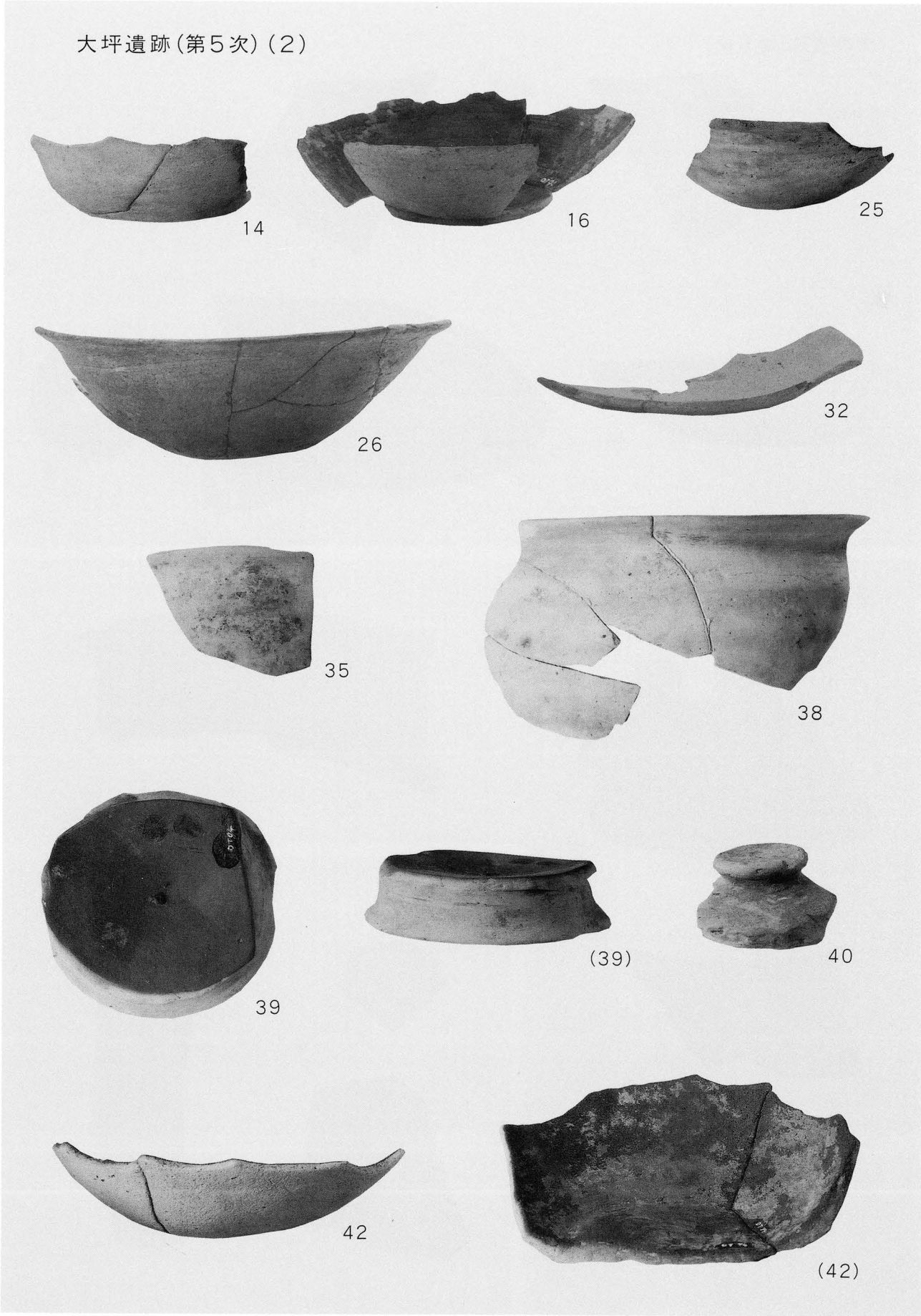
18

(18)

図版4　金塚西遺跡

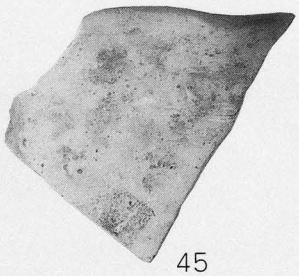


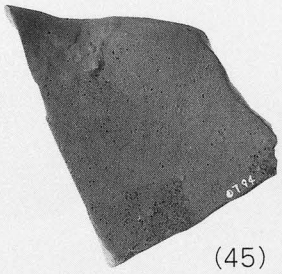
図版5　大坪遺跡(第5次)(1)



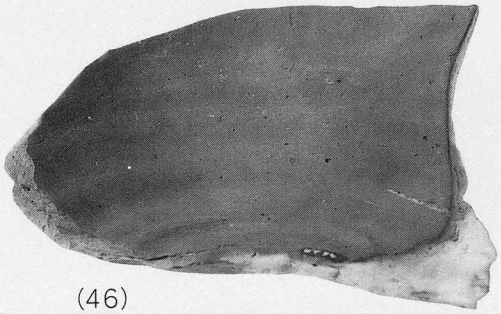
図版6　大坪遺跡(第5次)(2)

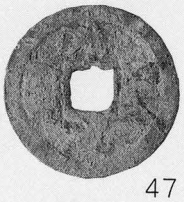
大坪遺跡(第５次)(３)


45

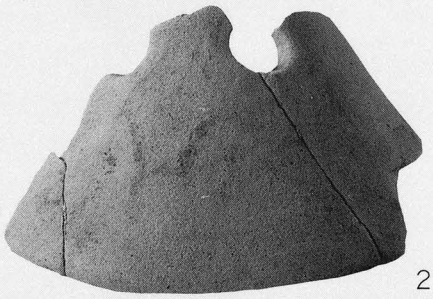

(45)

46

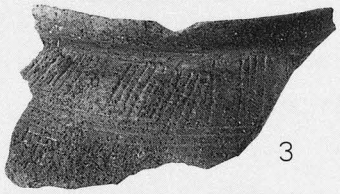

(46)


47

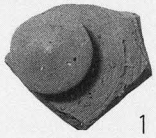
緑が丘二丁目遺跡(第３次)

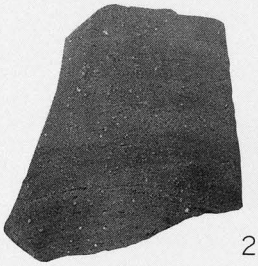

2

4


3

前田遺跡

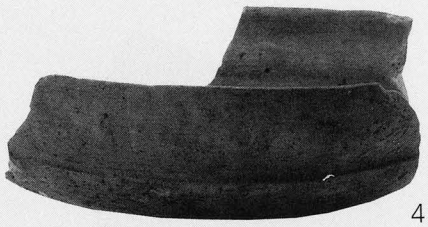

1


2

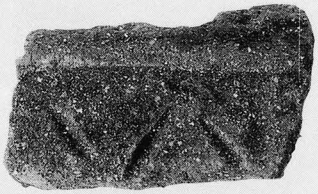
3

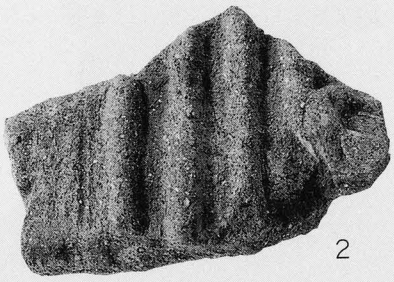
図版７　大坪遺跡(第５次)(３)，緑が丘二丁目遺跡(第３次)、前田遺跡

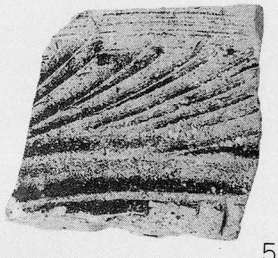
緑が丘二丁目遺跡（第４次）



緑が丘二丁目遺跡（第５次）

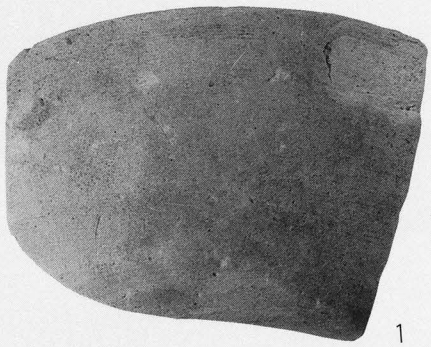


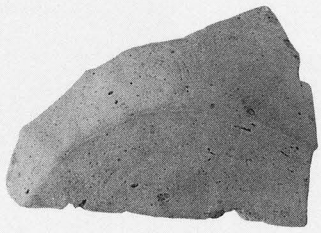


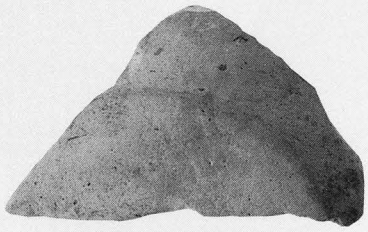


図版８　緑が丘二丁目遺跡（第４次）、緑が丘二丁目遺跡（第５次）

緑が丘二丁目遺跡（第６次）


1


2

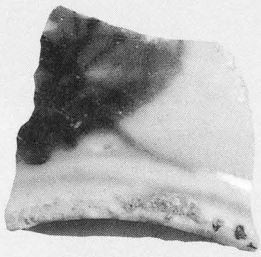

3

6

8

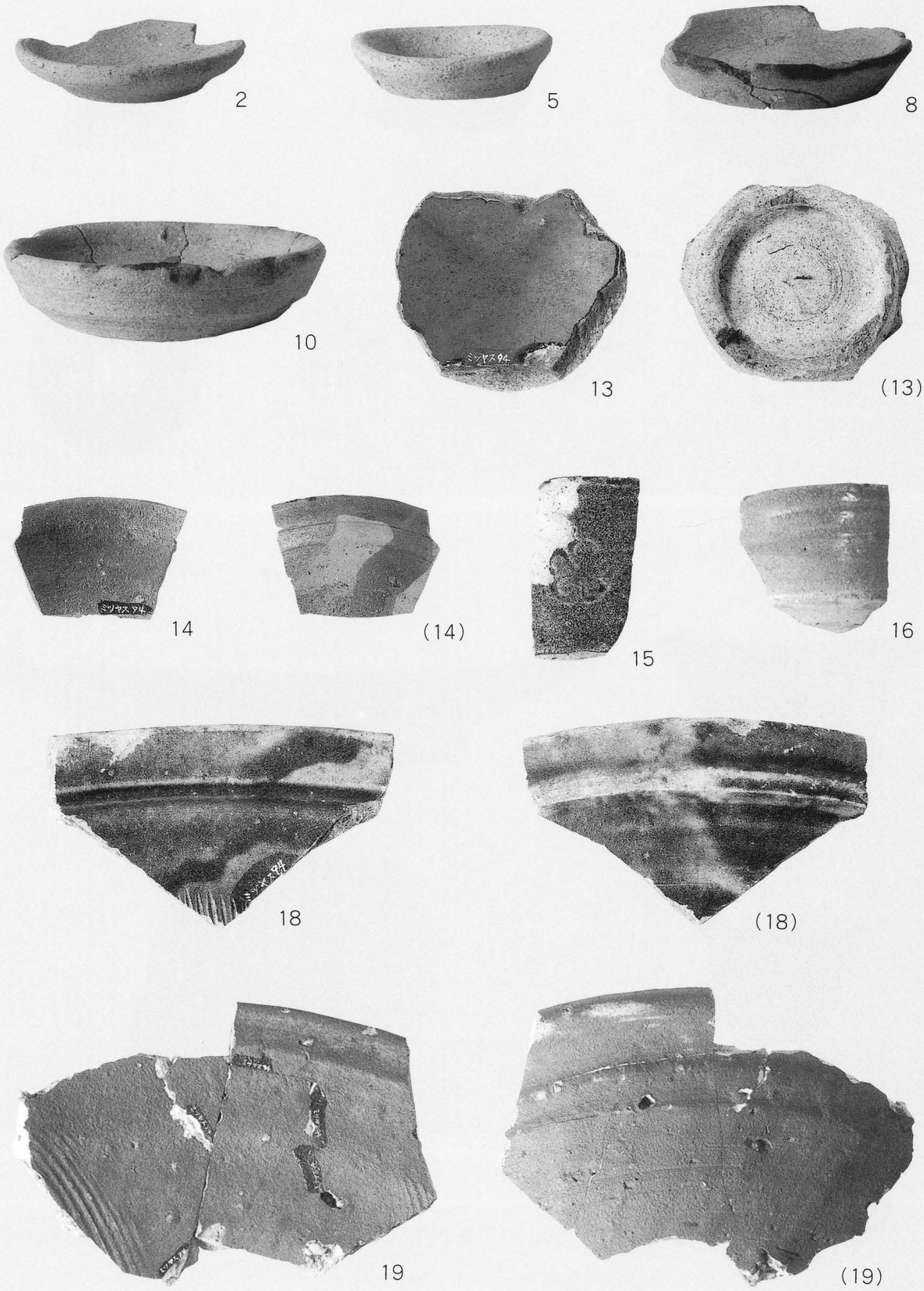
9

14


15

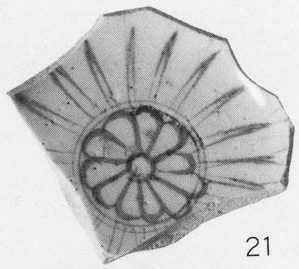
図版９　緑が丘二丁目遺跡（第６次）

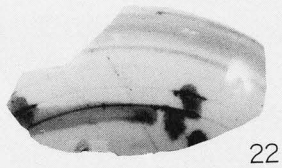
加藤光泰の墓（1）

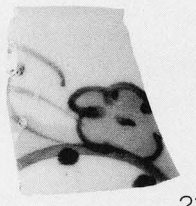


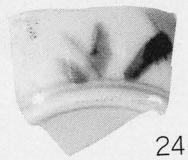
図版10　加藤光泰の墓（1）

加藤光泰の墓（2）

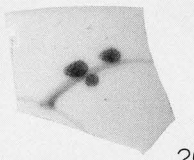

21

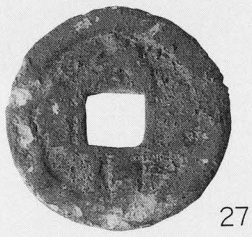

22


23

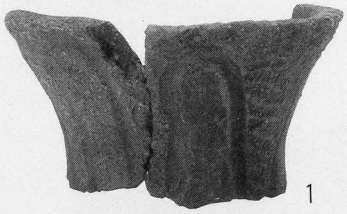

24

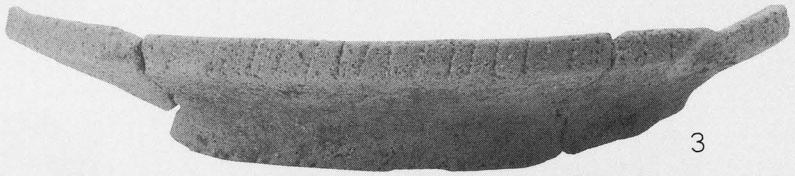
25

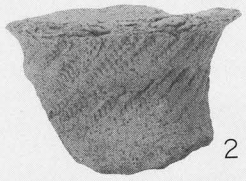

26


27

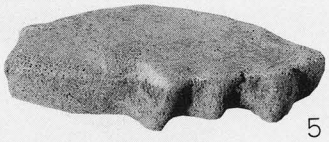
緑が丘二丁目遺跡（第７次）（１）


1


3

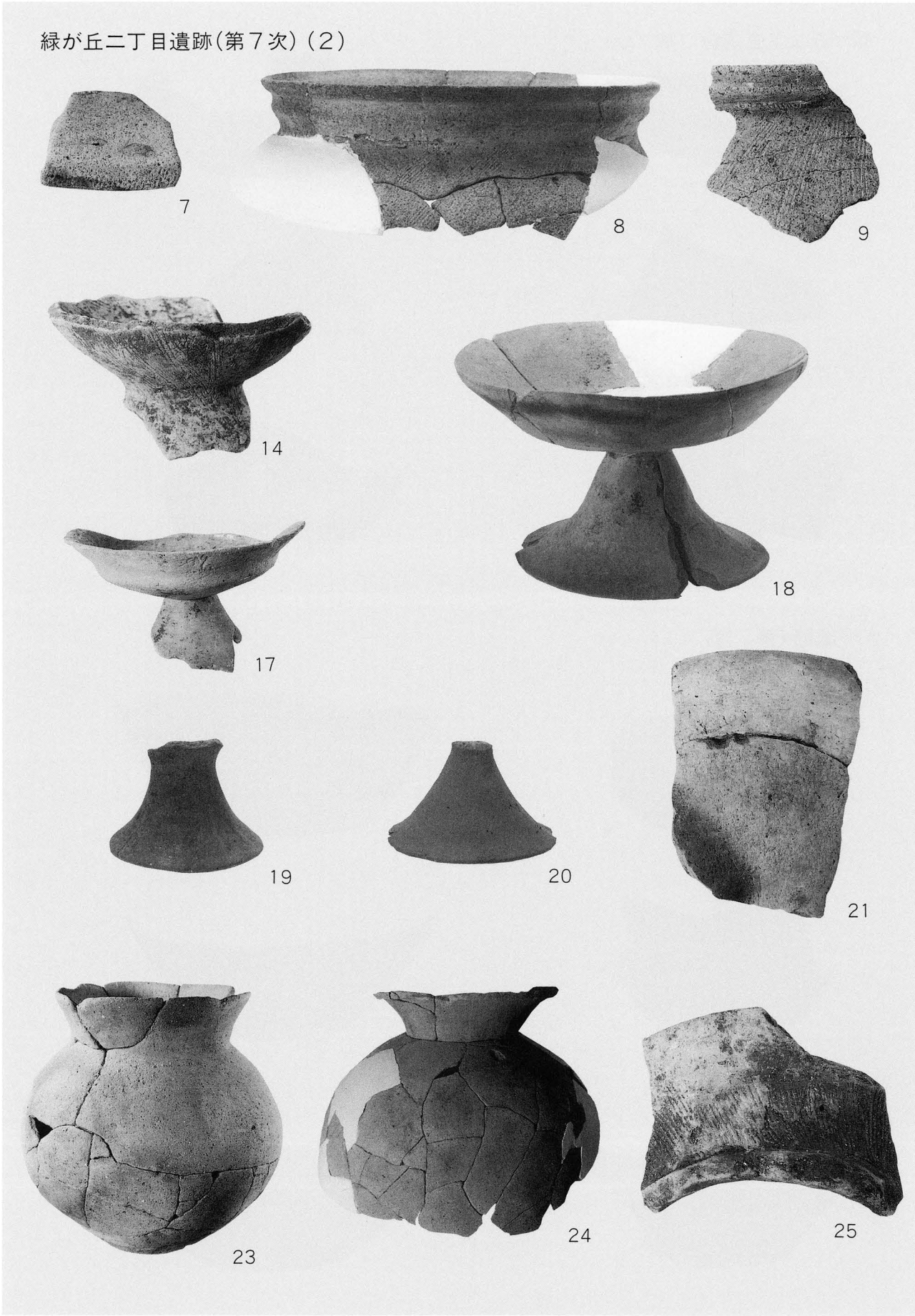

2

4


5

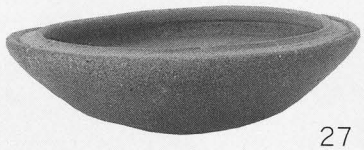
6

図版11　加藤光泰の墓（２）、緑が丘二丁目遺跡（第７次）（１）

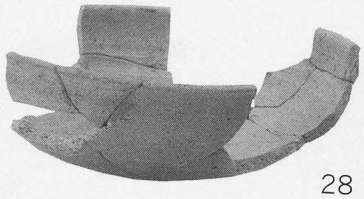


図版12　緑が丘二丁目遺跡(第７次)(２)

緑が丘二丁目遺跡（第７次）（３）

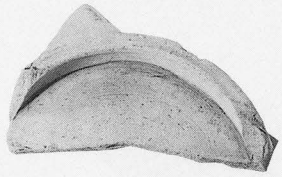


27

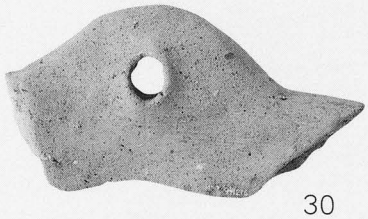


28

29



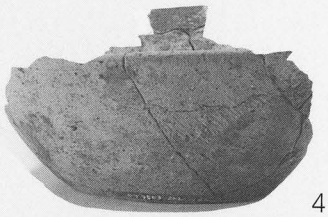
(29)



30

(30)

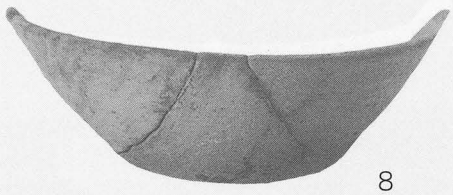
大坪遺跡（第７次）（１）



4

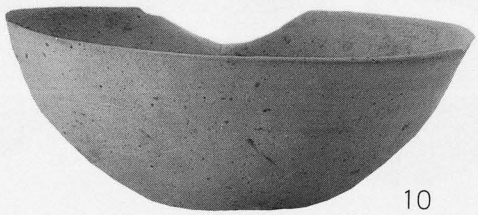
6

7



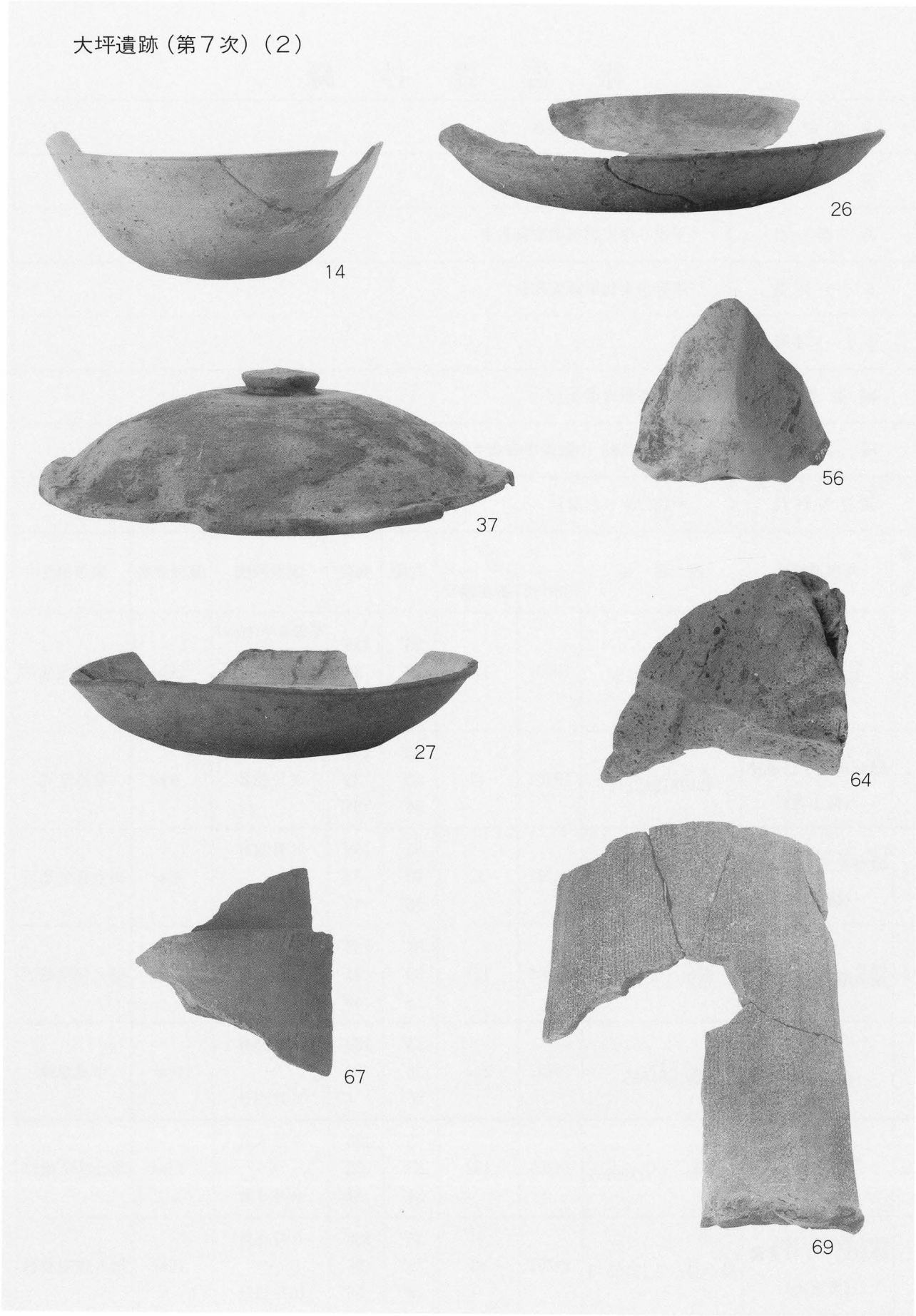
8

9



10

図版13　緑が丘二丁目遺跡(第７次)（３）、大坪遺跡(第７次)（１）



図版14　大坪遺跡（第７次）（２）

報　告　書　抄　録

ふりがな	こうふしないいせき　2
書名	甲府市内遺跡　II
副書名	平成６年度試掘調査報告書
シリーズ名	甲府市文化財調査報告
シリーズ番号	29
編集機関	甲府市教育委員会
所在地	〒400-8585 山梨県甲府市丸の内一丁目18-1　電話 055（223）7324
発行年月日	平成17年３月31日

番号	所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
			市町村	遺跡番号					
1	桜井畑遺跡（さくらいばた）	川田町（かわだちょう）495-2	19201	171	35°29′20″	138°36′56″	平成６年(1994)５月23日～６月15日	26m²	個人住宅建設
2	緑が丘二丁目（みどりおかにちょうめ）遺跡（第１次）	和田町（わだまち）2431-1	19201	42	35°40′59″	138°33′33″	６月23日	６m²	宅地造成
3	緑が丘二丁目（みどりおかにちょうめ）遺跡（第２次）	緑が丘（みどりおか）二丁目791-2他	19201	42	35°40′56″	138°33′45″	６月24日～６月30日	25m²	集合住宅建設
4	朝気（あさけ）遺跡（第９次）	朝気（あさけ）三丁目18	19201	121	35°39′6″	138°34′49″	７月５日～７月８日	12m²	個人住宅建設
5	塚腰（つかこし）遺跡	国玉町（くだまちまち）899	19201	214	35°38′50″	138°36′1″	８月25日～９月28日	340m²	市道建設
6	本郷（ほんごう）C遺跡	善光寺（ぜんこうじ）一丁目1909-1	19201	132	35°39′34″	138°35′37″	９月６日～９月９日	12m²	集合住宅建設
7	緑が丘一丁目（みどりおかいっちょうめ）遺跡（第３次）	緑が丘（みどりおか）二丁目135-5	19201	43	35°39′28″	138°36′56″	９月28日～10月12日	16m²	個人住宅建設

番号	所収遺跡名	所　在　地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
			市町村	遺跡番号					
8	金塚西遺跡（かなづかにし）	千塚三丁目2237他（ちづか）	19201	24	35°41′5″	138°32′37″	9月13日～10月14日	80m²	公園建設
9	大坪遺跡（第5次）（おおつぼ）	横根町608（よこねちょう）	19201	149	35°39′30″	138°36′46″	9月30日～10月12日	16m²	集合住宅建設
10	緑が丘二丁目遺跡（みどりおかにちょうめ）（第3次）	緑が丘二丁目893-1（みどりおか）他	19201	42	35°40′56″	138°33′43″	10月18日～10月24日	8 m²	個人住宅建設
11	宮の脇A遺跡（みやわき）	善光寺二丁目2739-1（ぜんこうじ）	19201	97	35°39′56″	138°35′31″	10月19日	4 m²	物置・車庫建設
12	朝気遺跡（第10次）（あさけ）	朝気三丁目71-1他（あさけ）	19201	121	35°39′7″	138°34′40″	11月1日～11月7日	12m²	宅地造成
13	前田遺跡（まえだ）	池田二丁目285-1他（いけだ）	19201	70	35°40′16″	138°32′32″	11月7日～11月10日	8 m²	個人住宅建設
14	緑が丘二丁目遺跡（みどりおかにちょうめ）（第4次）	和田町709 他（わだまち）	19201	42	35°41′2″	138°33′44″	11月8日～11月15日	20m²	宅地造成
15	北田遺跡（きただ）	川田町114-3 他（かわだちょう）	19201	175	35°39′23″	138°37′25″	11月11日～11月14日	8m²	個人住宅建設
16	緑が丘二丁目遺跡（みどりおかにちょうめ）（第5次）	緑が丘二丁目897-1（みどりおか）他	19201	42	35°40′56″	138°33′44″	11月16日～11月25日	12m²	宅地造成
17	緑が丘二丁目遺跡（みどりおかにちょうめ）（第6次）	和田町728-1（わだまち）	19201	42	35°41′2″	138°33′40″	11月21日～12月8日	16m²	集合住宅建設
18	加藤光泰の墓（かとうみつやすはか）	善光寺三丁目2678（ぜんこうじ）	19201		35°39′59″	138°35′37″	11月21日～12月9日	10m²	墓域整備
19	緑が丘二丁目遺跡（みどりおかにちょうめ）（第7次）	緑が丘二丁目2393-1（みどりおか）他	19201	42	35°40′60″	138°33′41″	12月6日～1月10日	180m²	宅地造成

番号	所収遺跡名	所　在　地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
			市町村	遺跡番号					
20	朝気(あさけ)遺跡（第11次）	朝気(あさけ)三丁目81-1	19201	121	35°39′4″	138°34′49″	12月12日～12月16日	4 m²	個人住宅建設
21	大坪(おおつぼ)遺跡(第６次)	横根町(よこねちょう)305	19201	149	35°39′27″	138°36′44″	12月19日～12月21日	3 m²	個人住宅建設
22	油田(あぶらだ)遺跡	蓬沢(よもぎさわ)一丁目123-1他	19201	206	35°38′43″	138°35′32″	平成７年(1995)２月８日	90m²	個人住宅建設
23	大坪(おおつぼ)遺跡(第７次)	桜井町(さくらいちょう)600他	19201	149	35°39′28″	138°36′56″	３月13日～３月27日	300m²	埋蔵文化財確認
24	緑(みどり)が丘(おか)一丁目(いっちょうめ)遺跡（第４次）	緑(みどり)が丘(おか)二丁目135-3他	19201	43	35°39′28″	138°36′56″	３月22日～３月31日	4 m²	集合住宅建設

甲府市文化財調査報告 29

甲　府　市　内　遺　跡　II

― 平成６年度試掘調査報告書 ―

平成17年３月31日

発　行　甲府市教育委員会
〒400-8585 山梨県甲府市丸の内一丁目18番１号
TEL　０５５（２２３）７３２４
FAX　０５５（２２６）４８８９

印　刷　㈱内田印刷所
〒400-0032 山梨県甲府市中央二丁目10番18号